

Ⅱ. 評定尺度調査の分析結果

【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4段階評価である。本報告書においては、データの理解のしやすさや分析のしやすさを考慮し、便宜的に4段階のカテゴリーに4～1の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。3が2よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4と3の間と3と2の間が等距離(つまり1の間隔)だという保証はどこにもないからである。しかし4つのカテゴリーごとの相対度数(パーセント)を見て、そこから何らかの傾向を把握することは必ずしも容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察するための目安の1つとして用いていくことにしたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でしかその傾向をつかみにくいという性格を持っている。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を同時に提示した(本文中では『肯定的評価』として表示)。これによって、その評価項目に対して肯定的な評価をしている学生がどれくらいの割合で存在するかを推測する目安となろう。

さらに回答者の属性ごとの回答者数を提示しておく。本来ならば、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、データの構造上、全てのデータに回答者数を掲載すると非常に煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした(次頁表2-1)。以下、本章においては、常に次頁の回答者数を念頭においてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層は誤差も大きく出る可能性があるため、注意が必要である。たとえば、大学院の年齢階層別で見える場合等である。なお、学部の年齢階層別の「19歳以下」および大学院の職業別は、極端に回答者数の少ない層が多いため、本報告書の分析からはずした。

表 2 - 1 回答者数一覧

【学部】

全体	5543	(単位:人)	
メディア		年齢階層	
テレビ科目(TV)	2,787	19歳以下	24
ラジオ科目(R)	2,756	20～29歳	563
職業		30～39歳	927
公務員等	491	40～49歳	1,049
教員	165	50～59歳	1,043
会社員	943	60～69歳	1,292
個人営業・自営業	334	70歳以上	610
農業等	73	専攻	
看護師等	504	基礎科目	680
家事専業	602	生活と福祉	662
パート・アルバイト	589	発達と教育	811
他大学等の学生	115	社会と経済	868
無職	1,367	産業と技術	567
その他	303	人間の探究	1,367
		自然の理解	588

【大学院】

全体	354	(単位:人)	
メディア		年齢階層	
テレビ科目(TV)	139	19歳以下	0
ラジオ科目(R)	215	20～29歳	44
職業		30～39歳	53
公務員等	82	40～49歳	91
教員	67	50～59歳	85
会社員	59	60～69歳	50
個人営業・自営業	16	70歳以上	26
農業等	1	プログラム	
看護師等	9	総合文化(文化情報科学群)	-
家事専業	23	総合文化(環境システム科学群)	79
パート・アルバイト	16	政策経営	166
他大学等の学生	3	教育開発	39
無職	42	臨床心理	70
その他	28		

※職業及び年齢には無回答があるため、職業及び年齢階層の回答者数をそれぞれ合計しても、全体の回答者数とは一致しない。

Ⅱ－1. 学部の分析結果

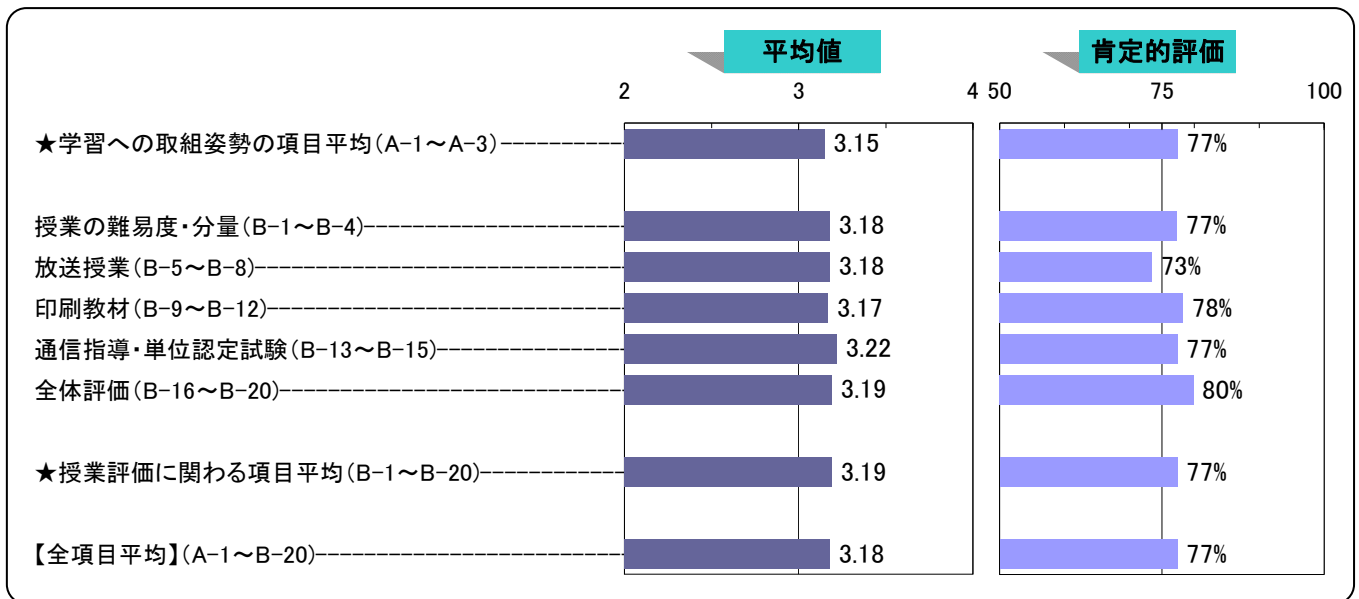
Ⅱ－1－1. 項目平均から見た全体的傾向

学部の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが図2－1である。まずこれによって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値 3.15、肯定的評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）77%であり、同様に『授業評価に関わる項目平均』も平均値 3.19、肯定的評価 77%とまずまずの高い値を示している。すなわち比較的熱心に学習に取り組んだと同時に、授業に対する評価も比較的高いということが言える。

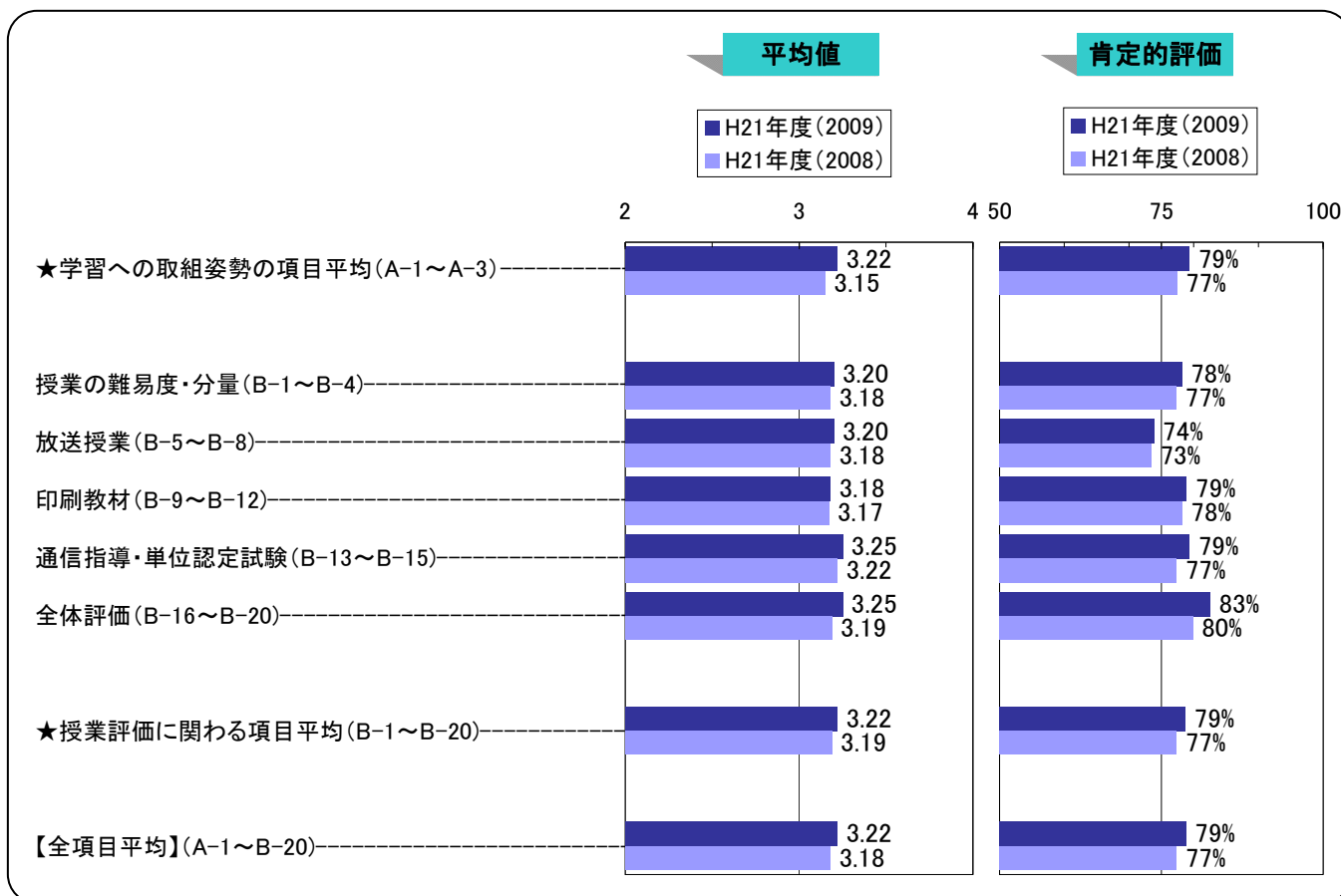
『授業評価に関わる項目平均』をさらに内容ごとにみると、『全体評価』と『通信指導・単位認定試験』が他の項目平均より若干高めになっているが、『放送授業』は肯定的評価をしている人が、他よりやや少なくなっている。

図2－1 【学部】項目平均による全体的傾向



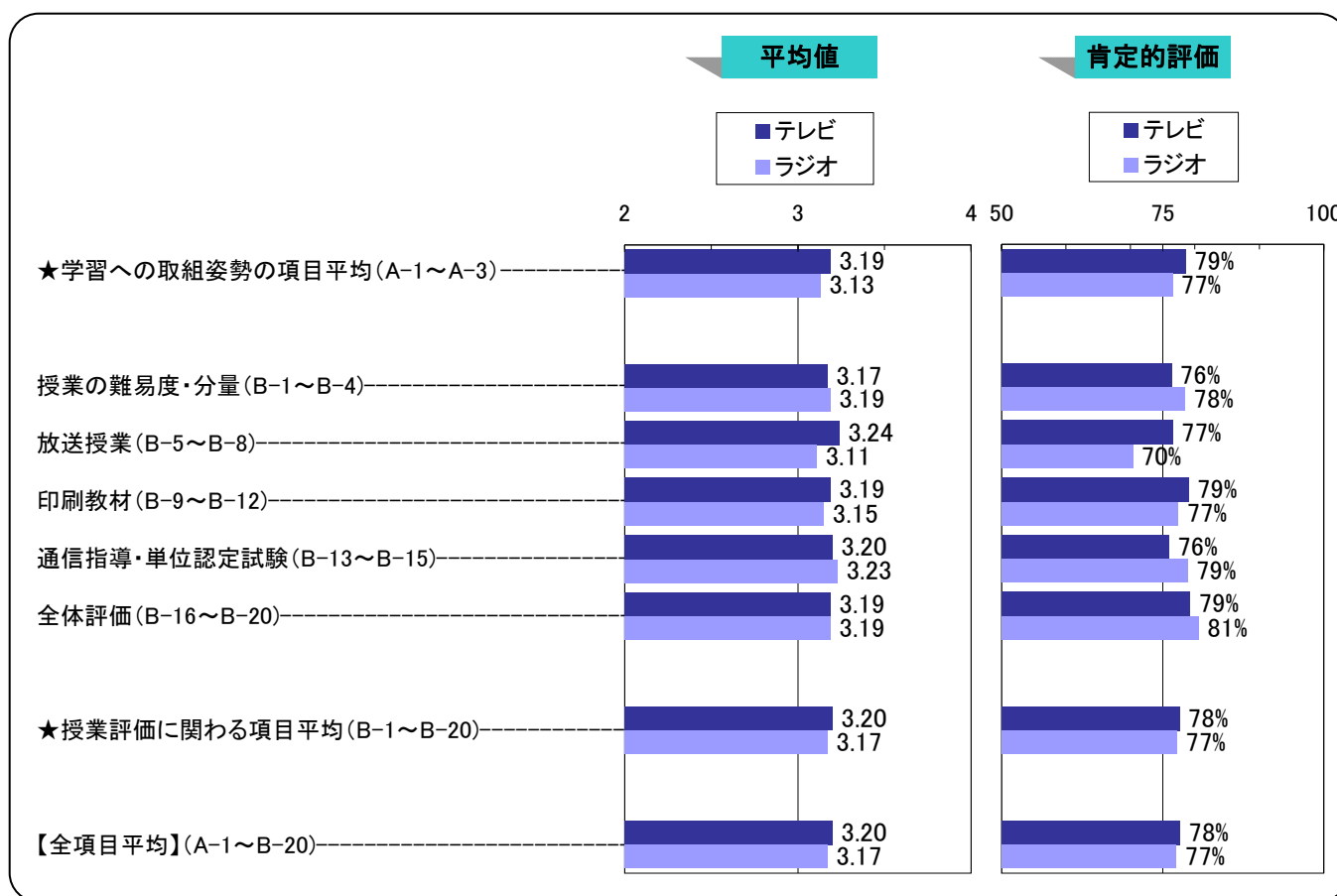
次に評価項目の内容ごとの平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-2）、2009年度新規開設科目は、2008年度新規開設科目に比べ、いずれの内容でも評価が上がっている。特に『全体評価』の値が最も上がっている。2009年度新規開設科目は、2008年度新規開設科目に比べ授業内容改善の効果が出てきていると言えよう。（なお、今回の調査では調査項目の一部修正があったため、評価項目内容ごとの平均においては、2007年度以前の新規開設科目との比較はできない）

図2-2 【学部】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



メディア別に 2008 年度新規開設科目の評価項目の平均を見ると（図 2-3）、『学習への取組姿勢の項目平均』、『授業評価に関わる項目平均』ともテレビ科目の方が値が高くなっている。特に『放送授業』でその差が大きい。映像がなく音声のみというラジオの制約が反映された形となっている。また『授業の難易度・分量』や『通信指導・単位認定試験』ではラジオ科目の方がやや高くなっているが、『印刷教材』ではテレビ科目の方がやや高い。ラジオ科目では授業の方法上の制約を『印刷教材』等で補われることが望ましいが、必ずしもそうした結果にはなっていないと言える。

図 2-3 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向



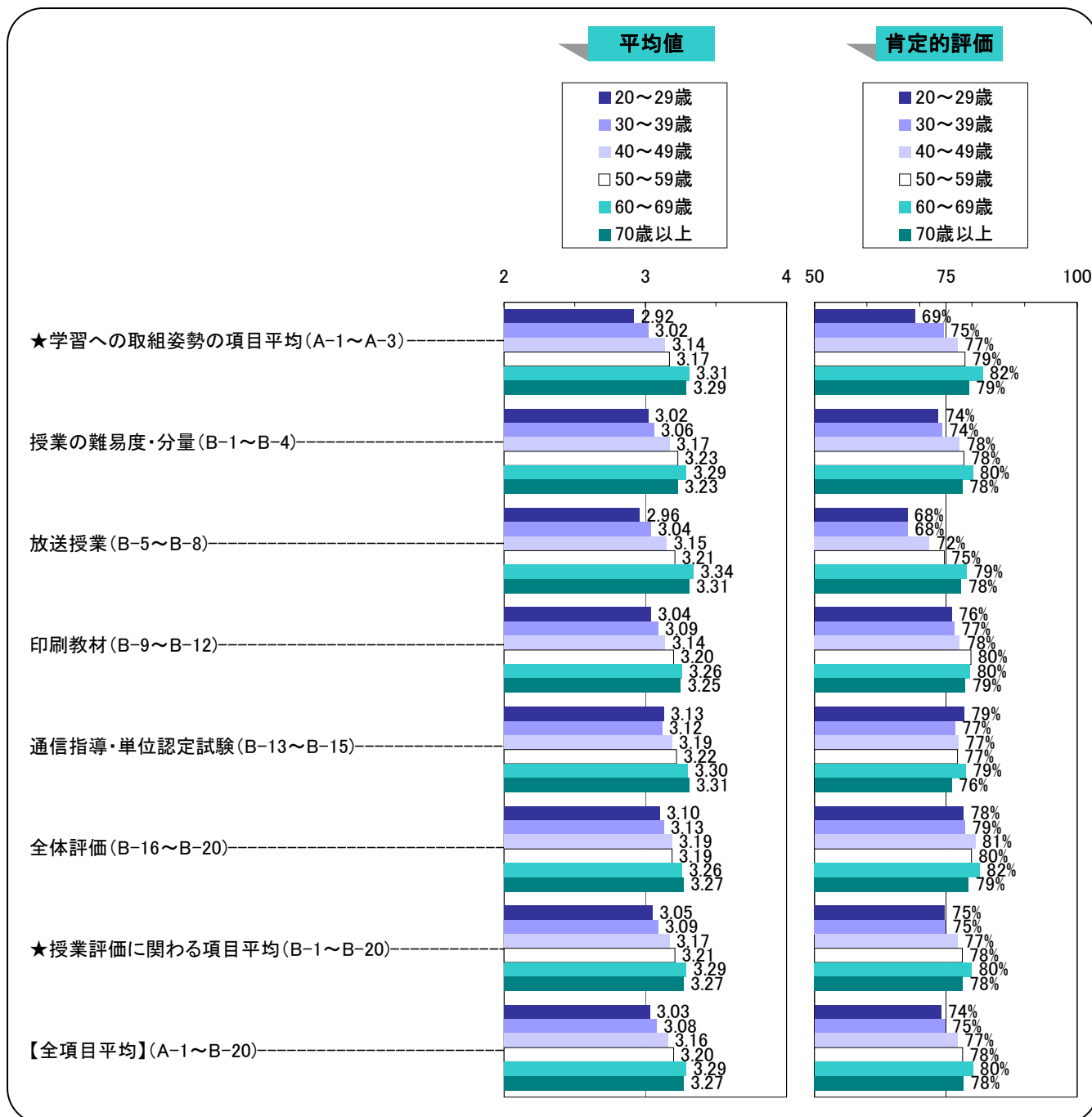
次にメディア別の項目平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-4）、テレビ科目は2008年度と2009年度の差がほとんどなく、あまり改善の効果が現れていないのに対し、ラジオ科目は、いずれの項目平均でも2009年度の方が高い値となっている。このことから先に見た両年度間の改善の効果は、主にラジオ科目の改善の効果が大きいことが分かる。

図2-4 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向（開設年度比較）



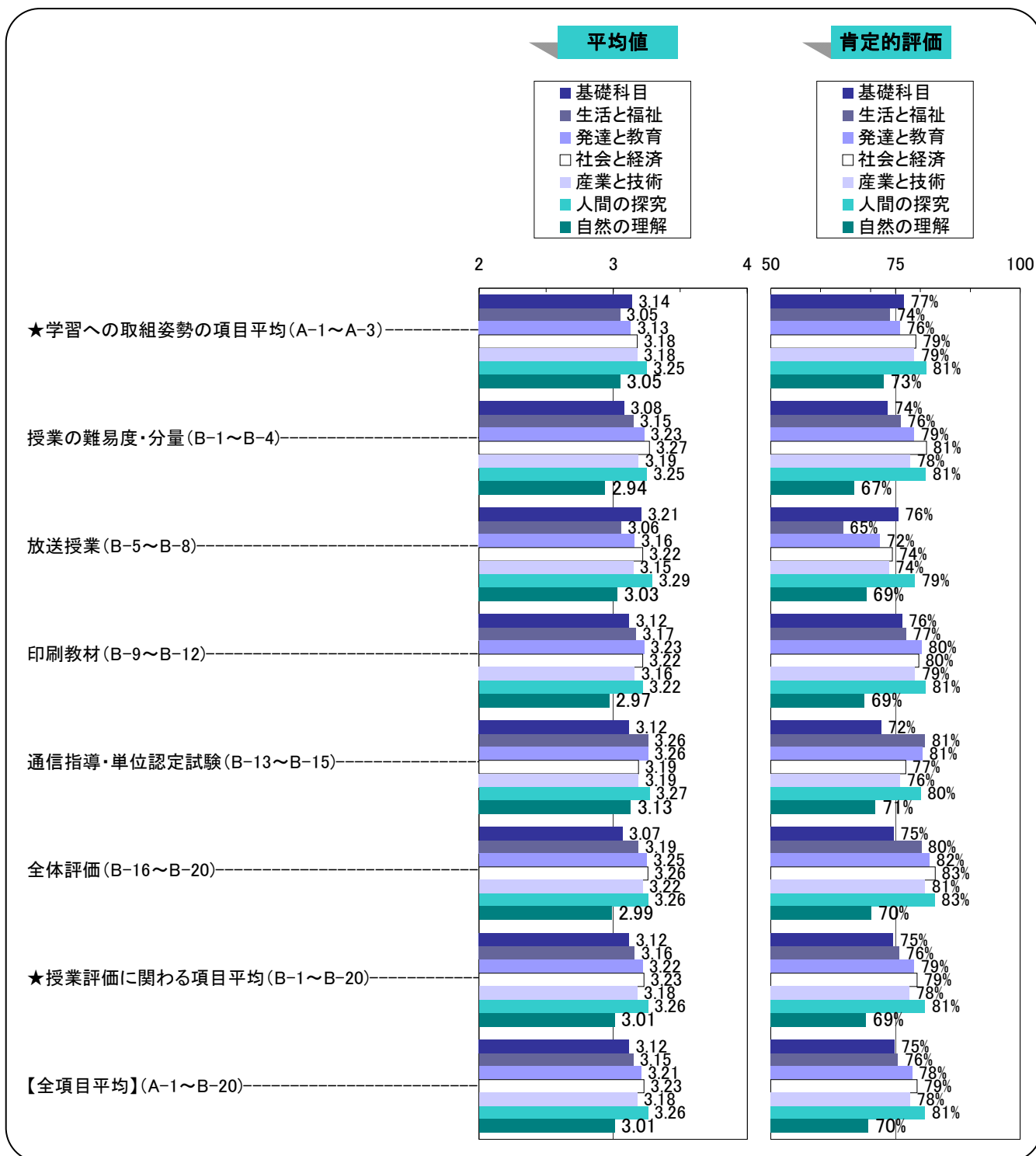
回答者の年齢階層別に 2008 年度新規開設科目の項目平均を見ると（図 2-5）、年配層ほど平均値、肯定的評価とも高くなる傾向にある。ほとんどの項目平均において 60 歳代が最も高く、20 歳代が最も低い。特に授業評価だけでなく、『学習への取組姿勢の項目平均』も年配層ほど高いということは、単に年配層は評価が甘いというだけが原因ではないことが窺われる。

図 2-5 【学部】項目平均による年齢階層別全体的傾向



科目の所属専攻別に見ると（図2-6）、『授業評価に関わる項目平均』では、「人間の探究」が最も高い値となっており、次いで「社会と経済」「発達と教育」「産業と技術」が高くなっている。『学習への取組姿勢の項目平均』でも「人間の探究」が最も高い。一方、理系科目の「自然の理解」は『学習への取組姿勢の項目平均』、『授業評価に関わる項目平均』のいずれも最も低い値となっている。

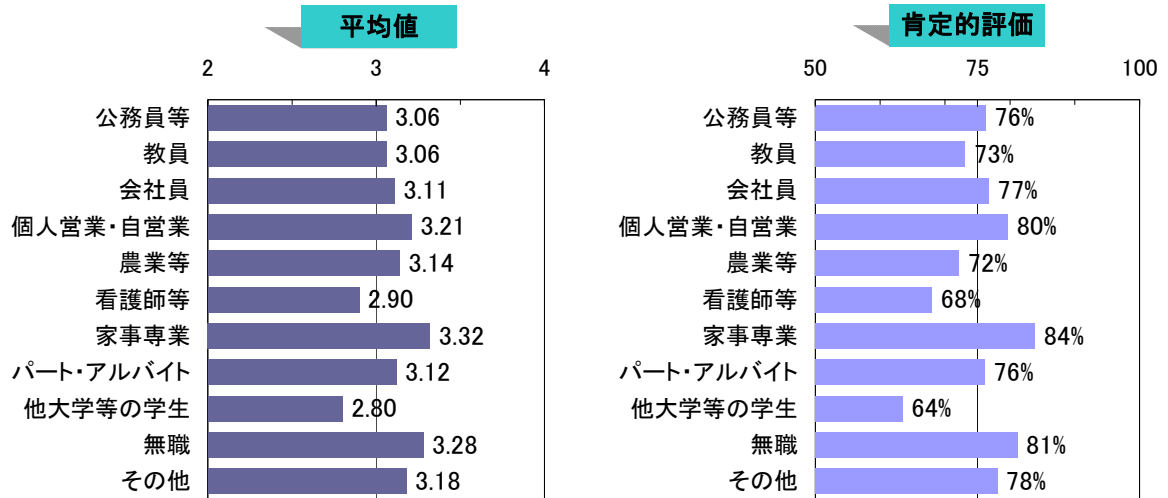
図2-6 【学部】項目平均による所属専攻別全体的傾向



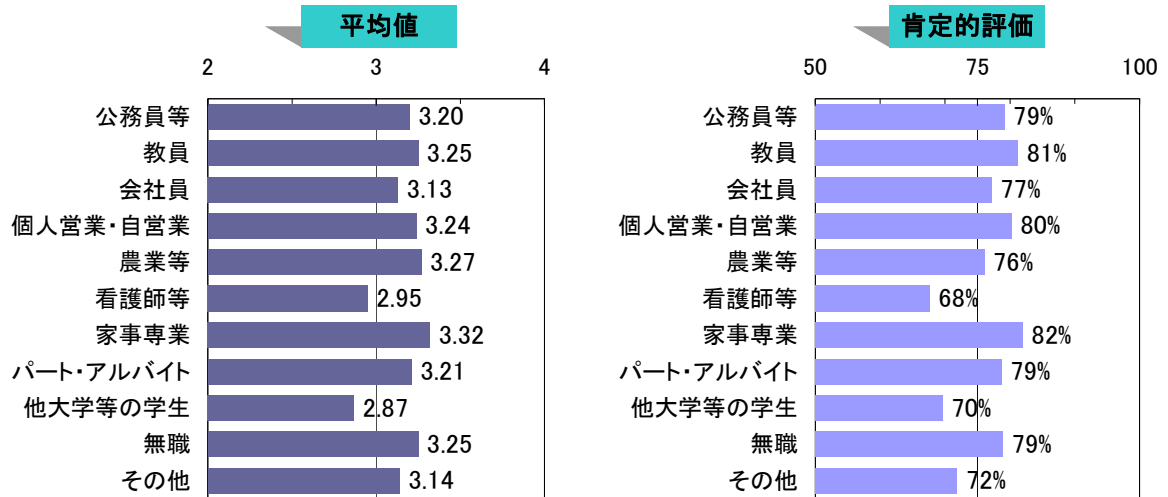
回答者の職業別に見ると（次頁図 2 - 7）、『学習への取組姿勢の項目平均』は、家事専業、無職、個人営業・自営業など、比較的時間に融通のきく職業の人で高い値となっているが、逆に看護師や他大学等の学生は低い値となっている。看護師や他大学等の学生は『授業評価に関わる項目平均』も低いのが特徴である。

図 2 - 7 【学部】項目平均による職業別全体的傾向

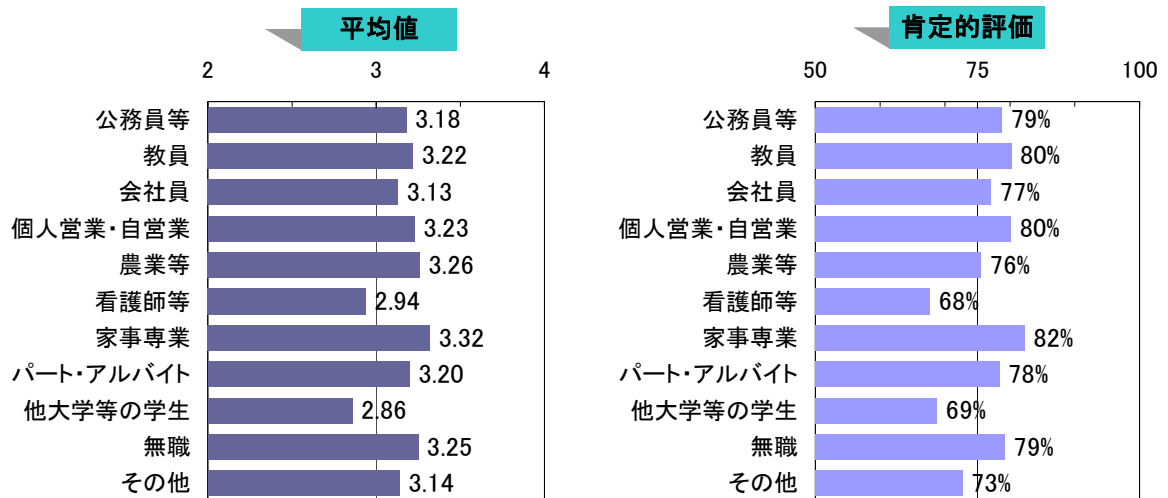
★学習への取組姿勢の項目平均(A-1～A-3)



★授業評価に関わる項目平均(B-1～B-20)



【全項目平均】(A-1～B-20)

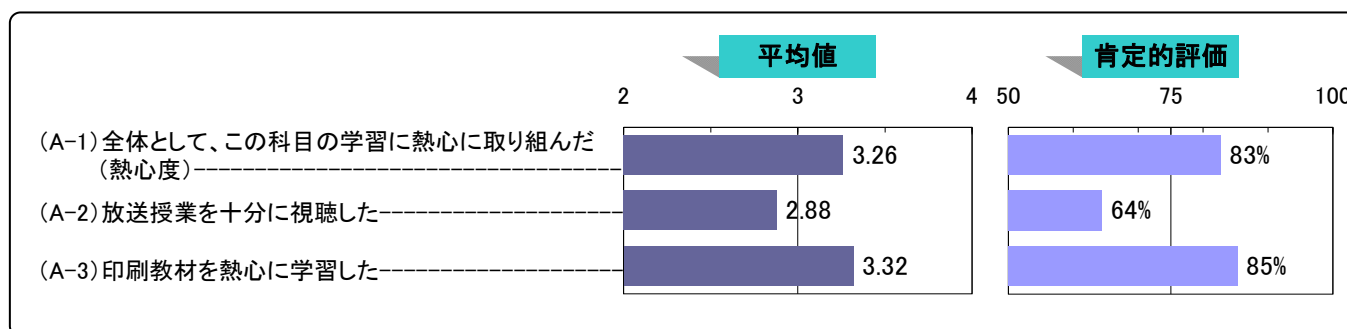


Ⅱ－1－2．学習への取組姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

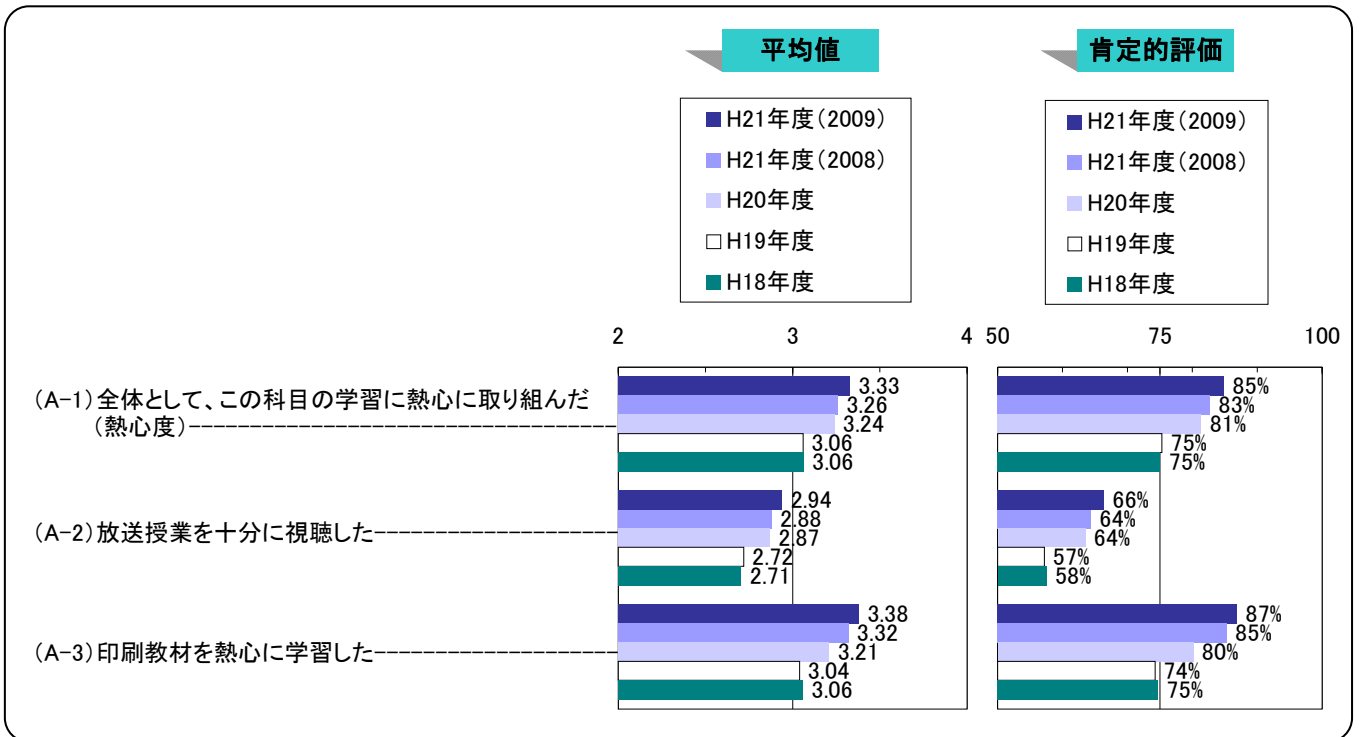
学習への取組姿勢（図2－8）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、平均値 3.26、肯定的評価 83%と比較的熱心に学習されている。同様に (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も平均値 3.32、肯定的評価 85%と高い。しかしこれらに比べると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値 2.88、肯定的評価 64%と低く、放送授業を十分に視聴したという回答者は 2/3 弱にとどまっている。学習には比較的熱心に取り組んでいるものの、学習は印刷教材中心という傾向が見られる。

図2－8 【学部】回答者全体の取組姿勢



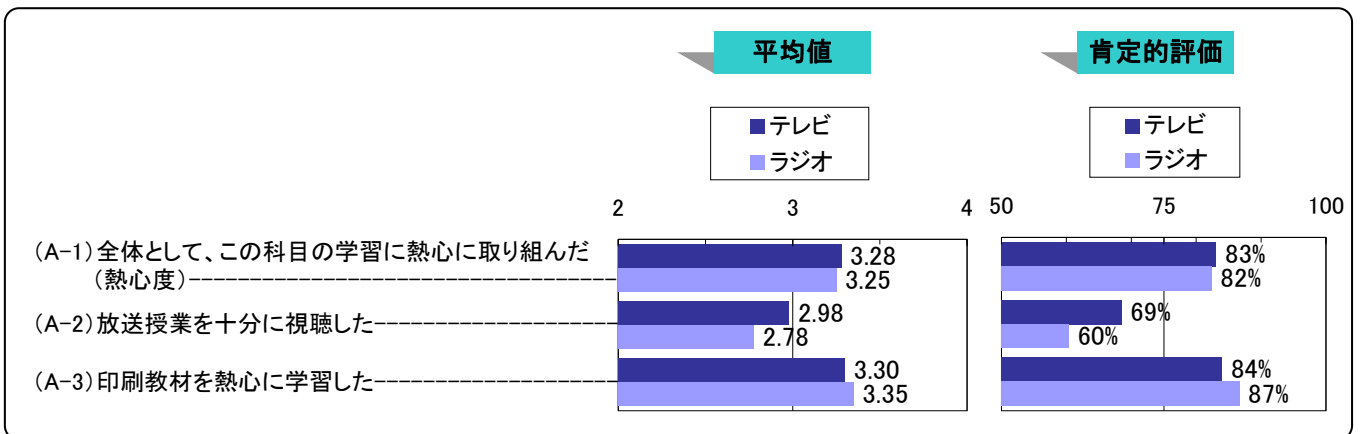
取組姿勢を時系列で見ると（次頁図2－9）、年ごとに取組姿勢が良くなっていることが分かる。これは単に学生の意識が高まっただけでなく、授業内容や教材が改善され、分かりやすく興味や関心がもてる科目が増えていることが大きく関係していると考えられる（取組姿勢と授業評価の関係については後述）。そのため取組姿勢があまり良くない放送授業についても、さらなる授業内容の改善に注力することによって取組姿勢も向上するものと考えられる。また、インターネットなどでの番組提供を増やすことによって、時間に制約されない視聴環境を作っていくことも必要であろう。

図 2 - 9 【学部】回答者全体の取組姿勢（時系列）



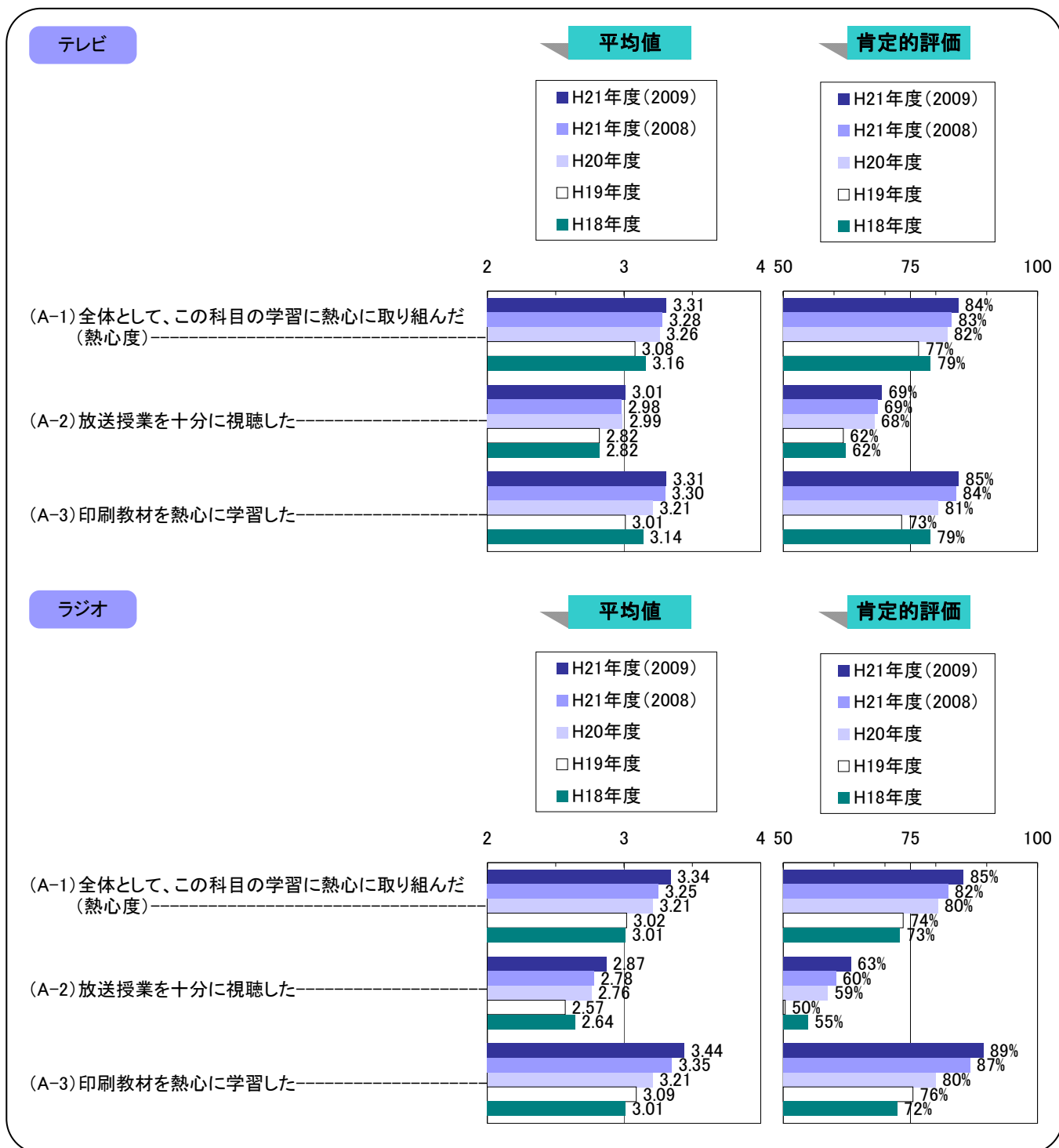
次にメディア別に取組姿勢を見ると（図 2 - 10）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、テレビ科目とラジオ科目で大きな差はない。しかし (A-2)「放送授業を十分に視聴した」という人は、やはりテレビ科目の方が多くなっている。逆に (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」という人は、ラジオ科目の方が若干多くなっている。

図 2 - 10 【学部】メディア別の取組姿勢



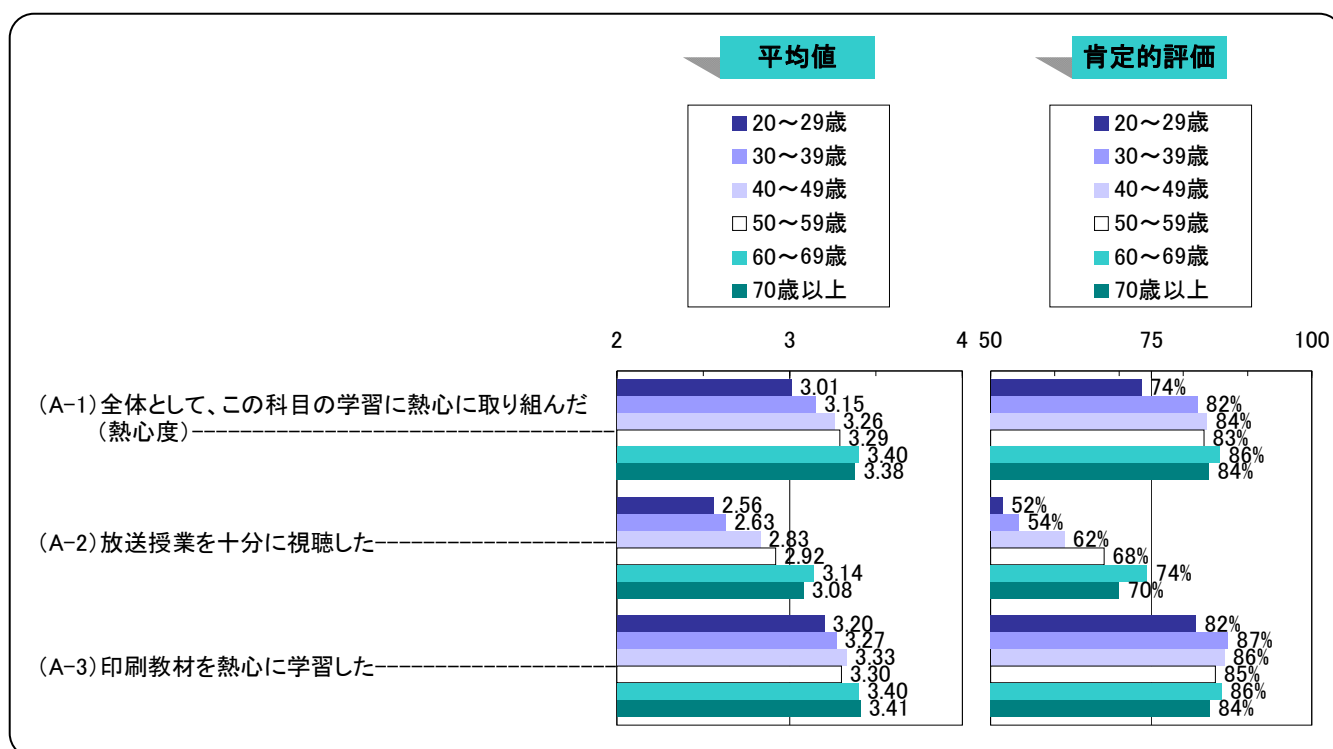
メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図 2-1-1）、テレビ科目、ラジオ科目とも年々取組姿勢が良くなっている。特にラジオ科目の（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」の改善度合いが最も大きい。一方、テレビ科目の（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は、平成 20 年度調査（2007 年新規開設科目）以降、ほとんど改善されていない。

図 2-1-1 【学部】メディア別の取組姿勢（時系列）



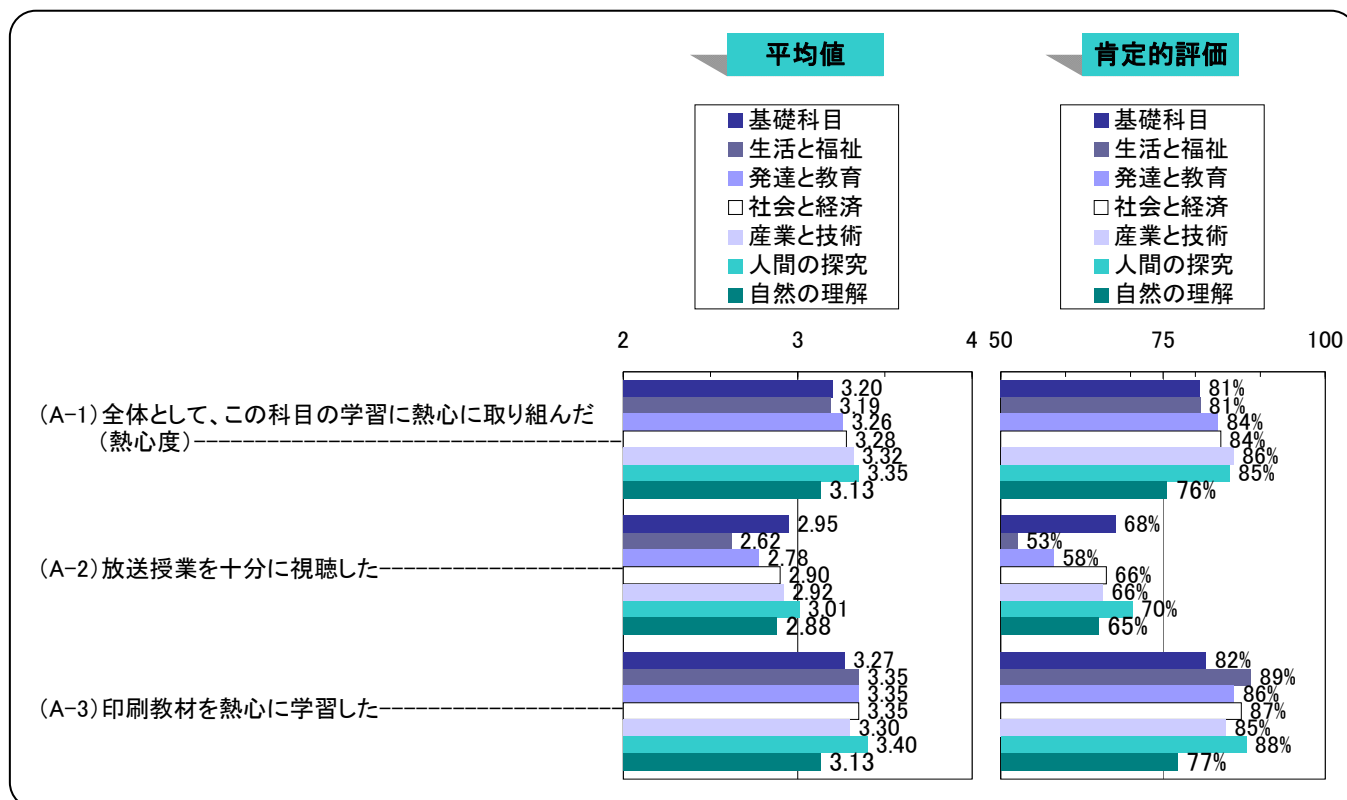
年齢階層別に取り組姿勢を見ると（図2-12）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」をはじめ、放送授業、印刷教材とも年配層ほど熱心に取り組んでいる傾向が見られる。取り組姿勢のあまりよくない放送授業については、20～30歳代では50%程度しか十分に視聴したという人がおらず、若い年代での視聴を増やす必要があるだろう。

図2-12 【学部】年齢階層別に取り組姿勢



所属専攻別に見ると（図2-13）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は、いずれの専攻も比較的高い値となっているが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、いずれの専攻もあまりよくない。特に「生活と福祉」と「発達と教育」で十分に視聴していない人が多くなっている。

図2-13 【学部】所属専攻別の取組姿勢



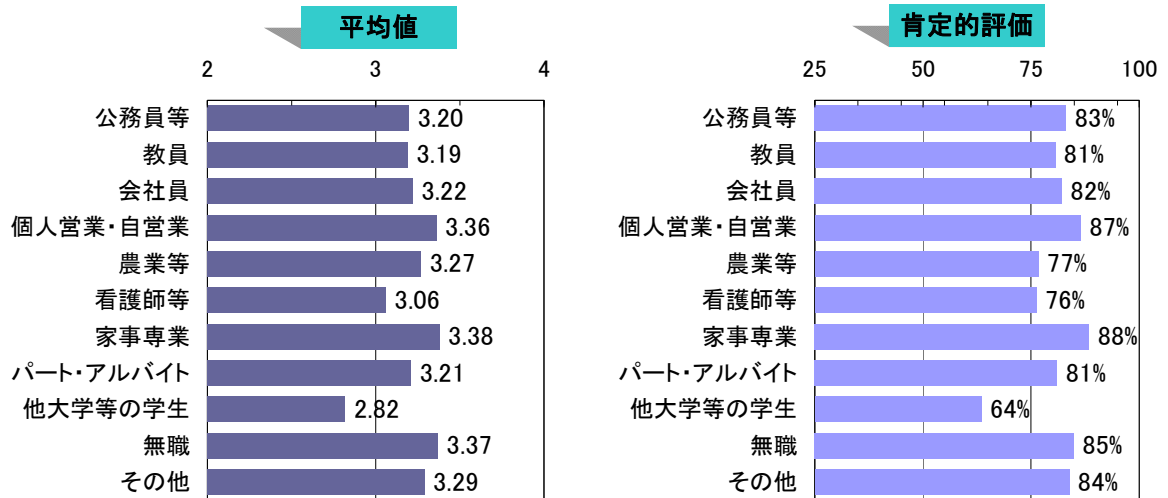
職業別で見ると（次頁図2-14）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、家事専業、個人営業・自営業、無職の人が高い値を示しており、逆に他大学等の学生がよくない。

放送授業については、看護師と他大学等の学生があまり視聴していない。ただ看護師は、印刷教材は比較的熱心に学習しており、仕事の性質上、十分な視聴時間がとれない放送授業を、印刷教材の学習でカバーしているものと考えられる。

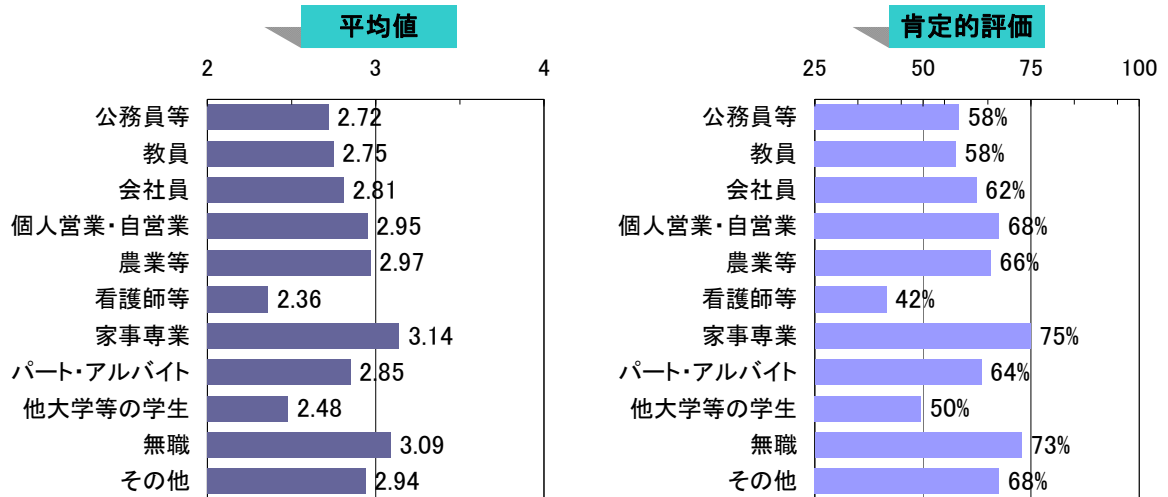
学生の取組姿勢は、本人の意識の高さや関心度、さらに科目（授業や印刷教材）の出来栄だけでなく、仕事や日常生活の時間的制約の程度によっても左右されていることが窺われよう。

図 2 - 1 4 【学部】職業別の取組姿勢

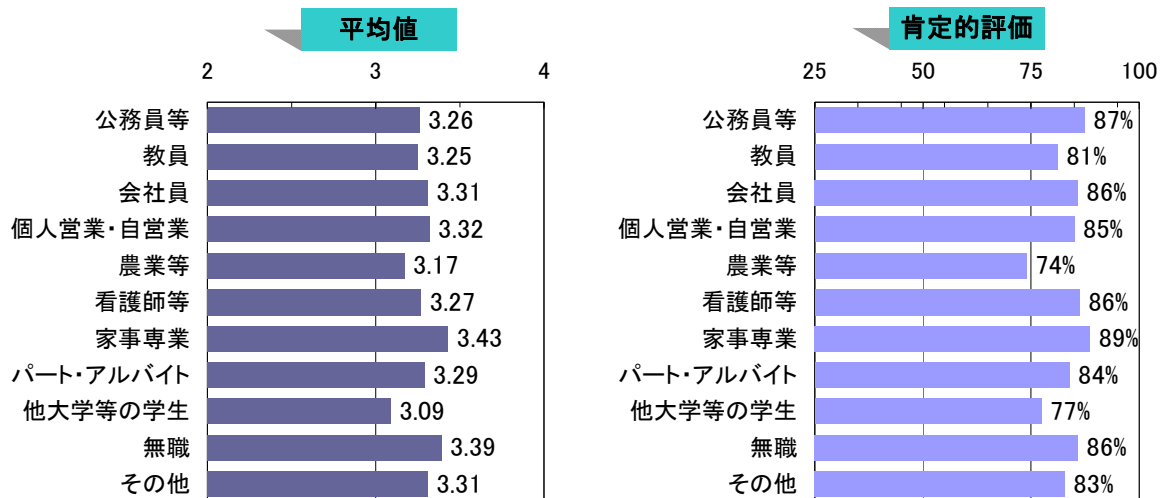
(A-1) 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)



(A-2) 放送授業を十分に視聴した

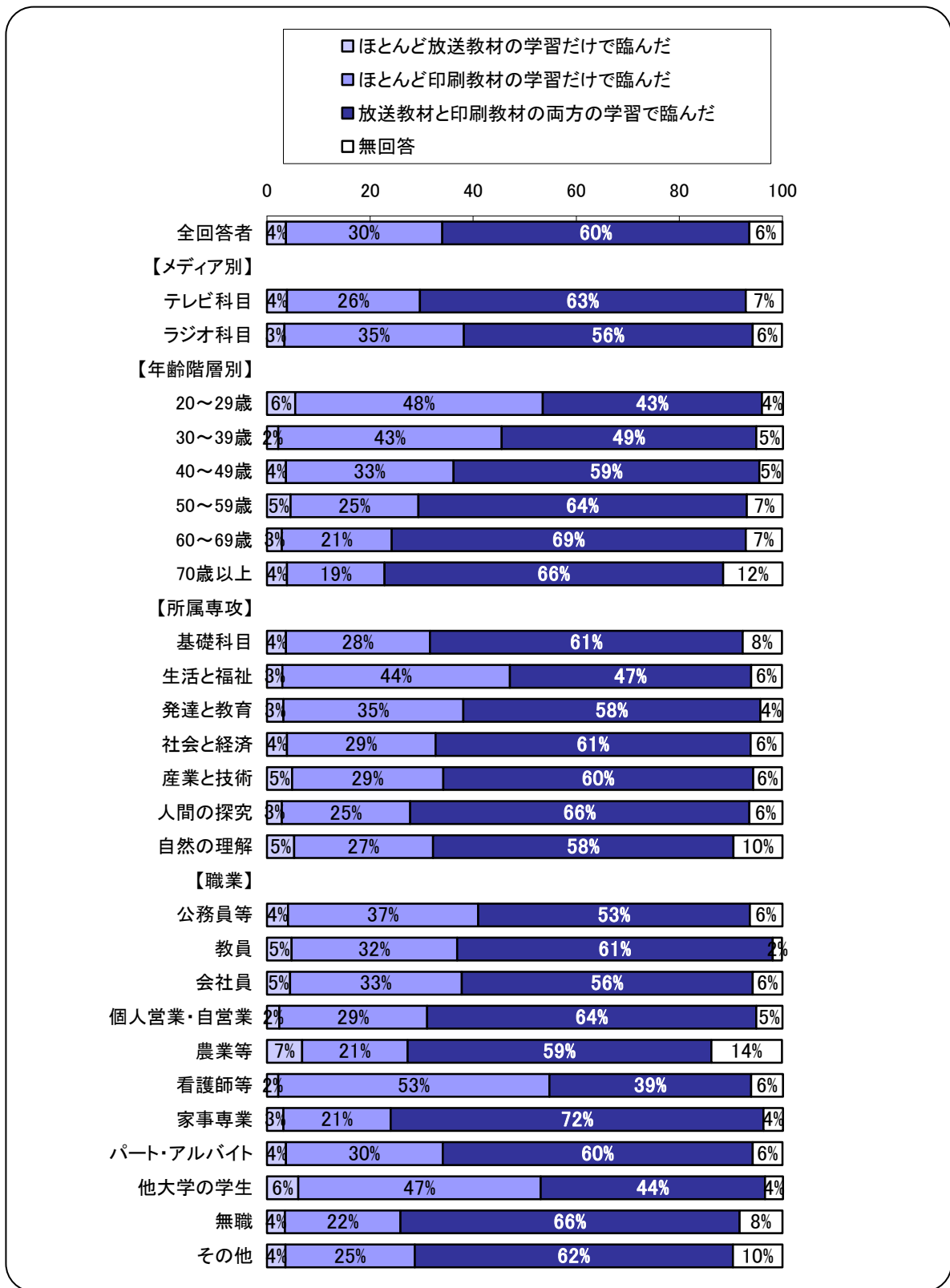


(A-3) 印刷教材を熱心に学習した



単位認定のための学習方法（図2-15）は、全体では「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が60%を占め、次いで「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が30%となっている。「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」は、年齢階層別では年配層ほど多く、職業別では看護師と他大学等の学生で少なくなっており、学習への取組姿勢と同様の傾向が見られる。

図2-15 【学部】単位認定のための学習方法



Ⅱ－1－3. 学部の授業評価

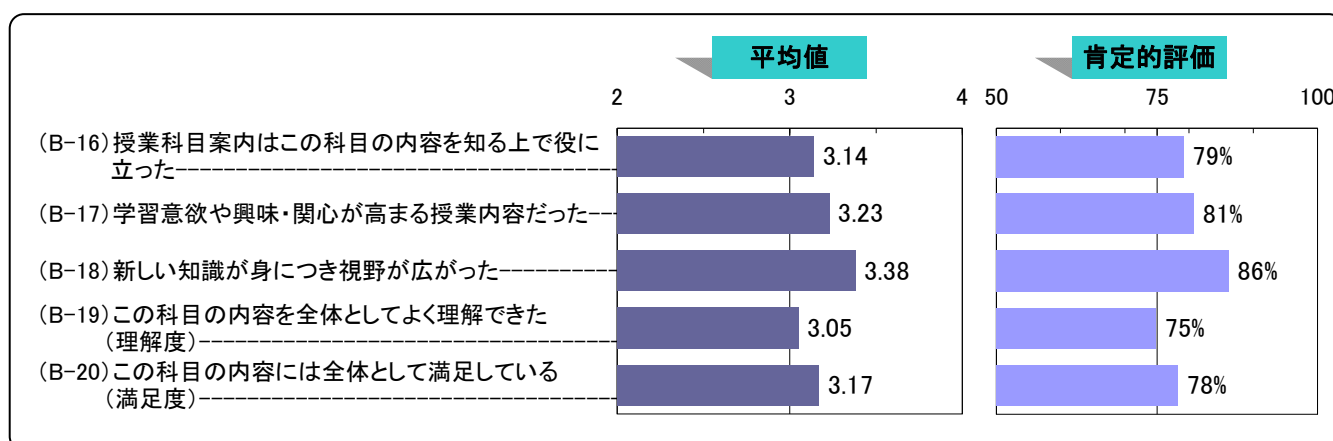
(1) 全体評価

ここからは学部の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

まず全体評価の各項目を見ると（図2－16）、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」は平均値 3.38、肯定的評価 86%と高い評価を得ている。また (B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」も平均値 3.23、肯定的評価 81%と高くなっている。学習のテーマや内容については学生の評価は高いと言える。

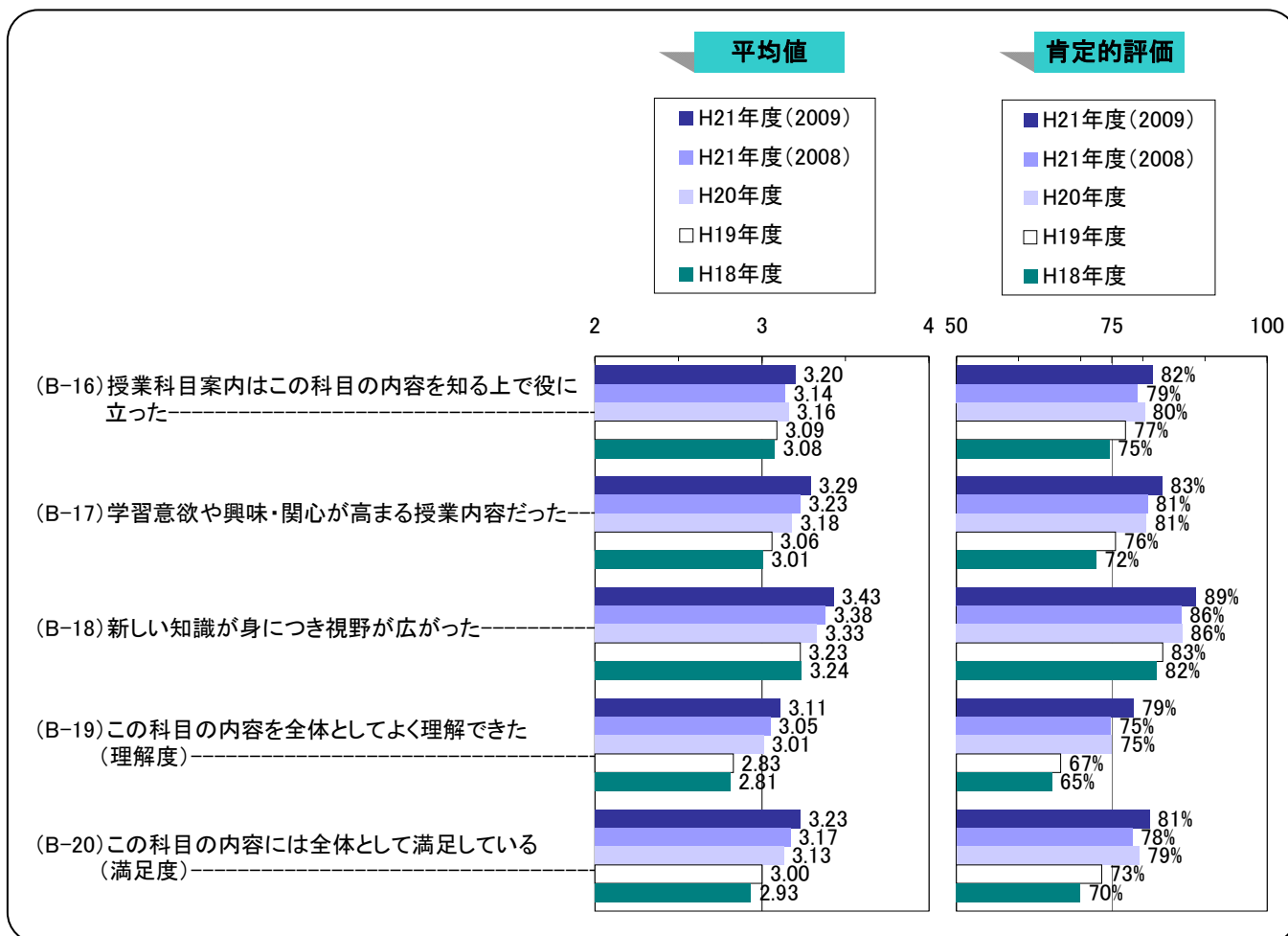
(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は平均値 3.05、肯定的評価 75%、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は平均値 3.17、肯定的評価 78%と、まずまずの評価と言えよう。ただ、理解度や満足度は他の評価項目とは異なり科目の総合評価とも言うべきものであり、学生全員から肯定的評価を受けることを目指すべきであろう。

図2－16 【学部】回答者全体の全体評価



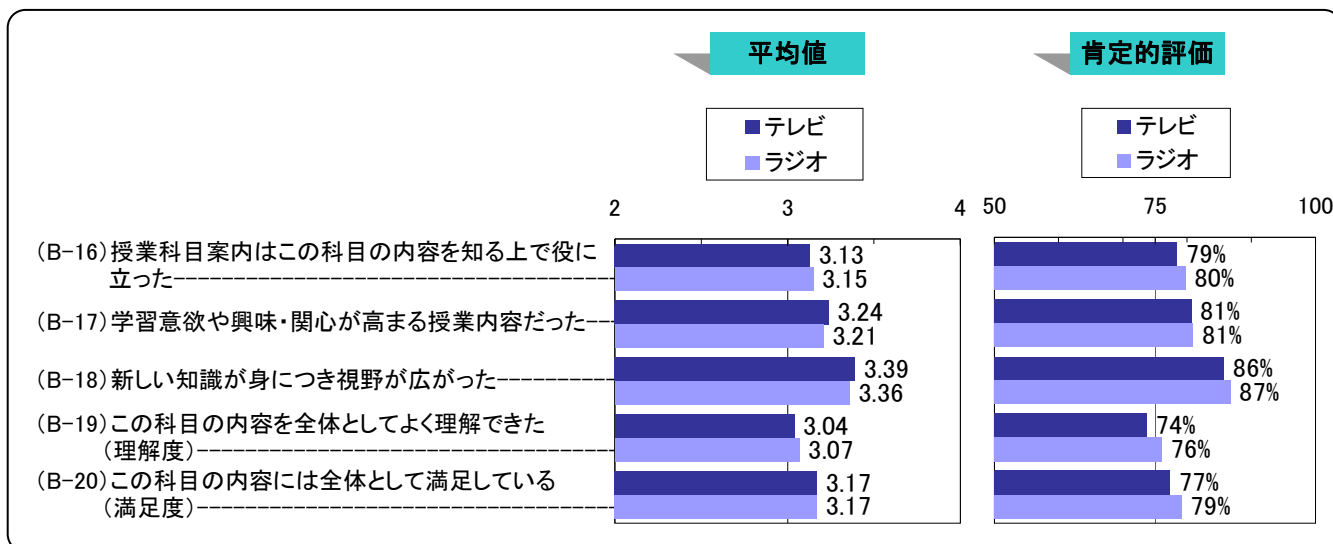
全体評価を時系列で見ると（図2-17）、いずれも年々評価が上がっており、授業改善の効果が出ていると言えよう。また、科目の総合評価とも言うべき理解度と満足度も年々向上しているが、今後、さらに向上させていく必要があるだろう。

図2-17 【学部】回答者全体の全体評価（時系列）



メディア別に全体評価を見ると（図2-18）、テレビ科目とラジオ科目ではあまり大きな差は見られず、ほぼ同じ評価と言ってよいであろう。

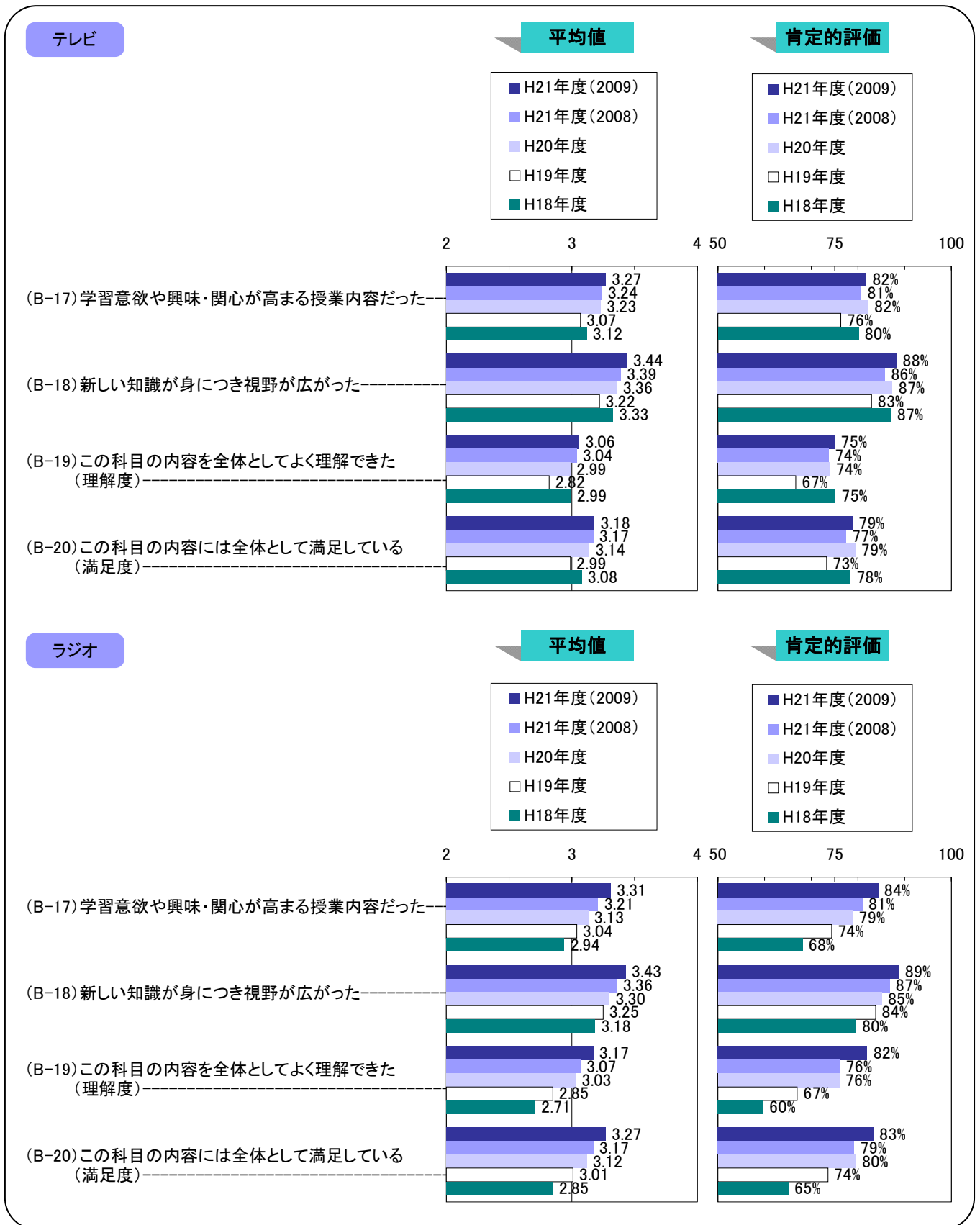
図2-18 【学部】メディア別の全体評価



メディア別の全体評価を時系列で見ると（次頁図2-19）、テレビ科目はいずれの評価も年々高くなってはいるが、その変化はわずかである。（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」などは、ほとんど変化がないと言ってもよい。

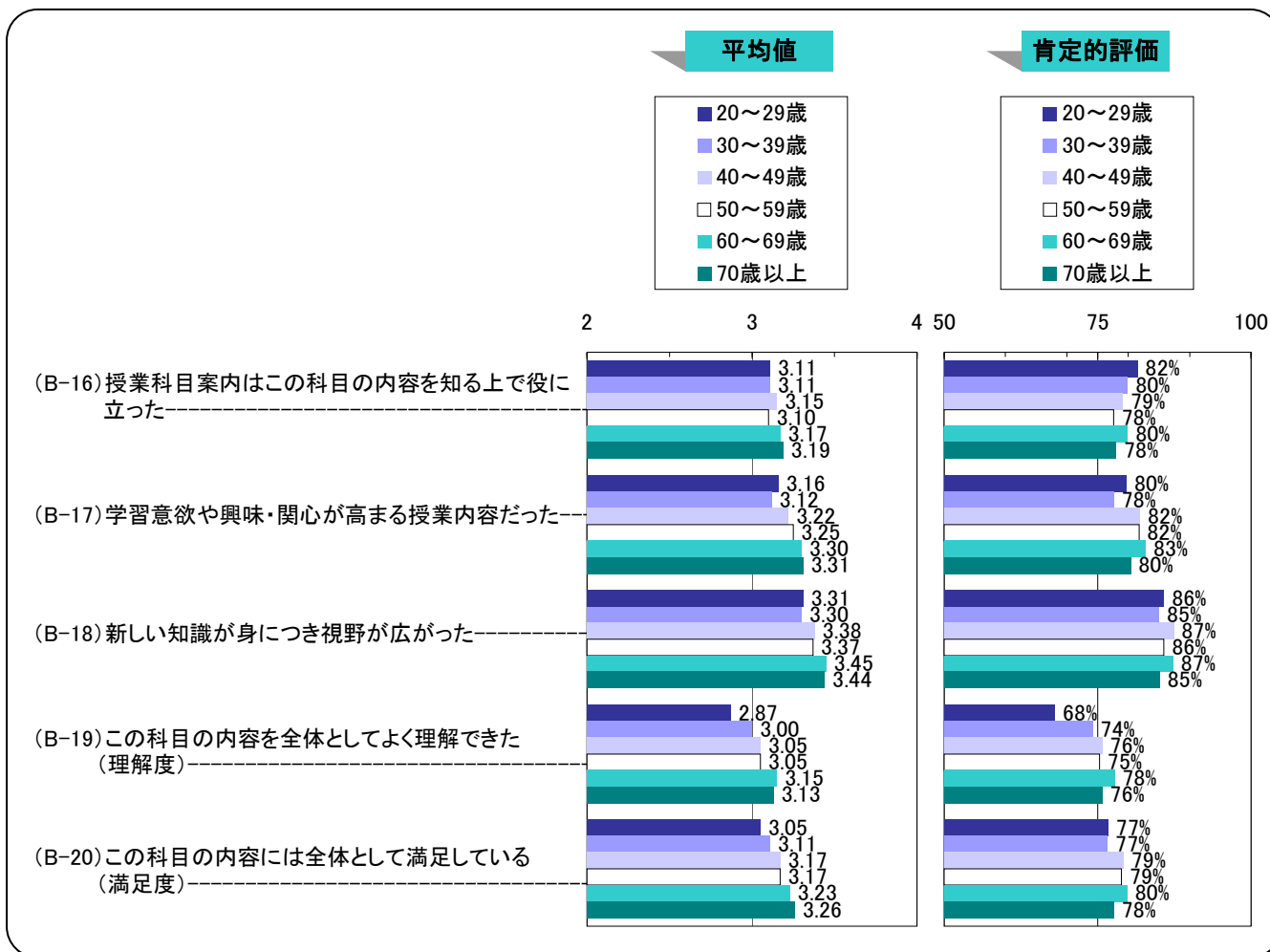
一方、ラジオ科目はいずれの評価項目も年々確実に高くなっている。もともとラジオ科目は全体評価が低く、平成18年度時点では、いずれの評価もテレビ科目より低くなっている。しかし平成21年度（2009年度新規開設科目）では、理解度、満足度において逆転し、テレビ科目より高い評価を得ている。テレビ科目においてもさらなる工夫が求められるところである。

図 2 - 1 9 【学部】メディア別の全体評価（時系列）



年齢階層別に全体評価を見ると（図2-20）、平均値ではいずれの評価項目も、年配層ほど少しずつ評価が高くなっている。一方、肯定的評価では年代間の差はあまり見られない。

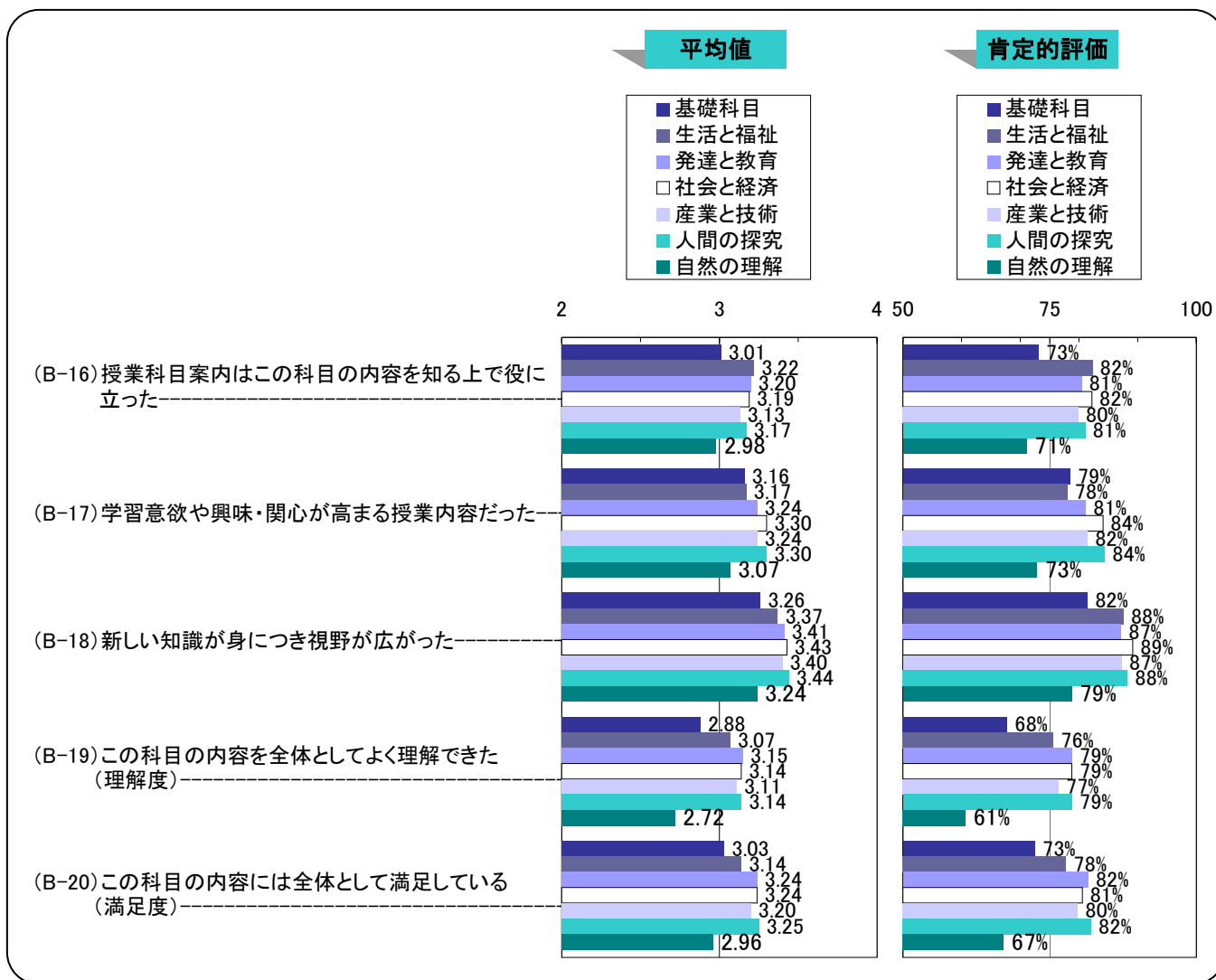
図2-20【学部】年齢階層別の全体評価



所属専攻別に全体評価を見ると（図 2 - 2 1）、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」と (B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、「人間の探究」「発達と教育」「社会と経済」「産業と技術」の評価が高い。逆に「自然の理解」は最も評価が低く、次いで「基礎科目」が低くなっている。

「自然の理解」は、全体評価のいずれの項目においても評価が最も低い。

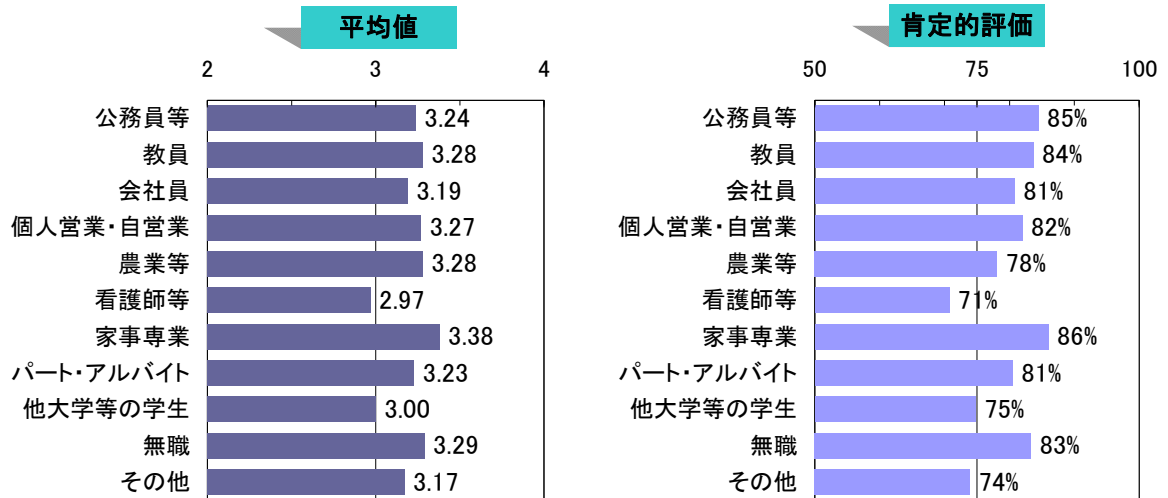
図 2 - 2 1 【学部】所属専攻別の全体評価



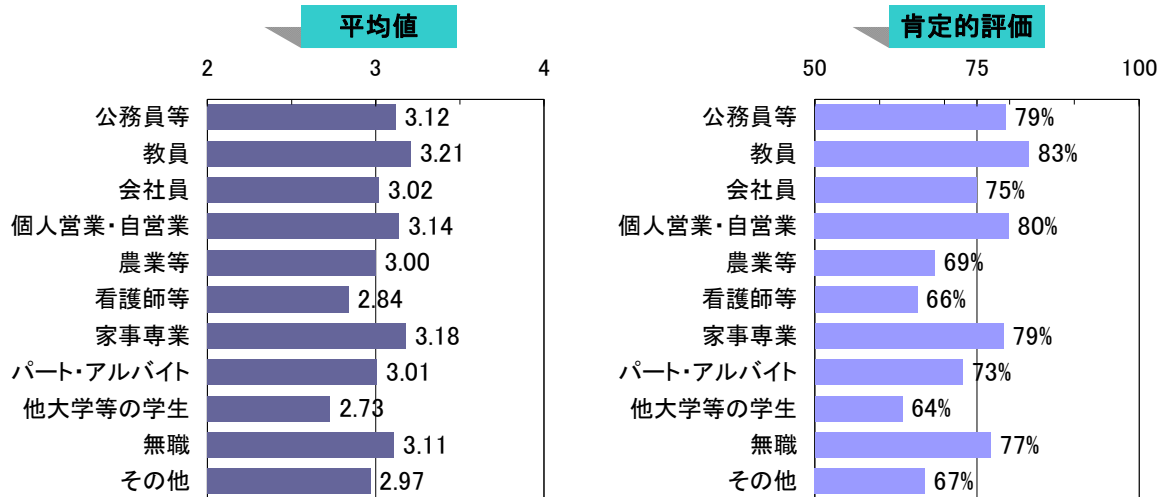
職業別に全体評価を見ると（次頁図 2 - 2 2）、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」の評価が高いのは、公務員等、教員、家事専業、無職などであり、逆に評価が低いのは、看護師等と他大学等の学生である。(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」もほぼ同様の結果となっており、理解度が高くないと、当然満足度も高くないと言える。

図 2 - 2 2 【学部】職業別の全体評価

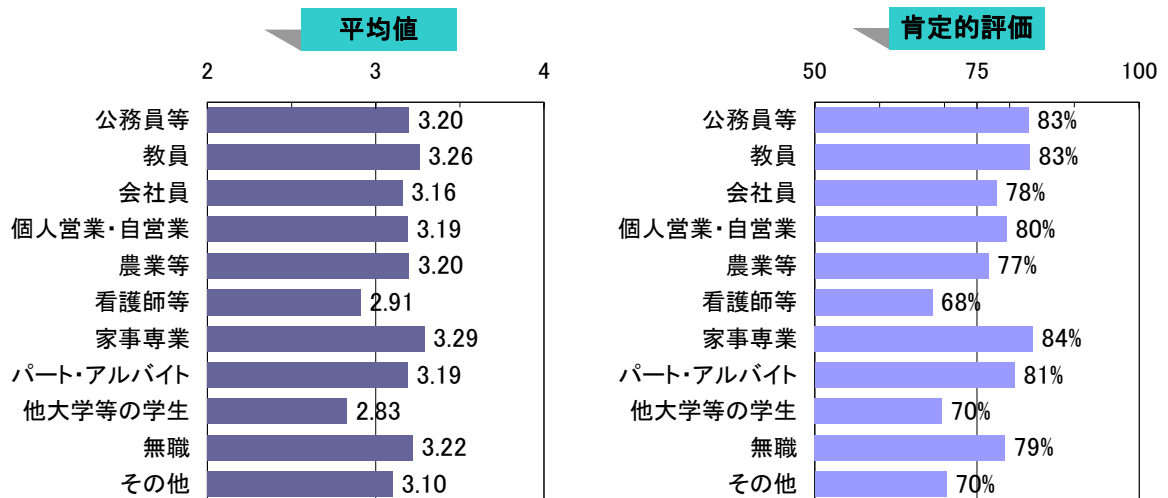
(B-17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



(B-19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)

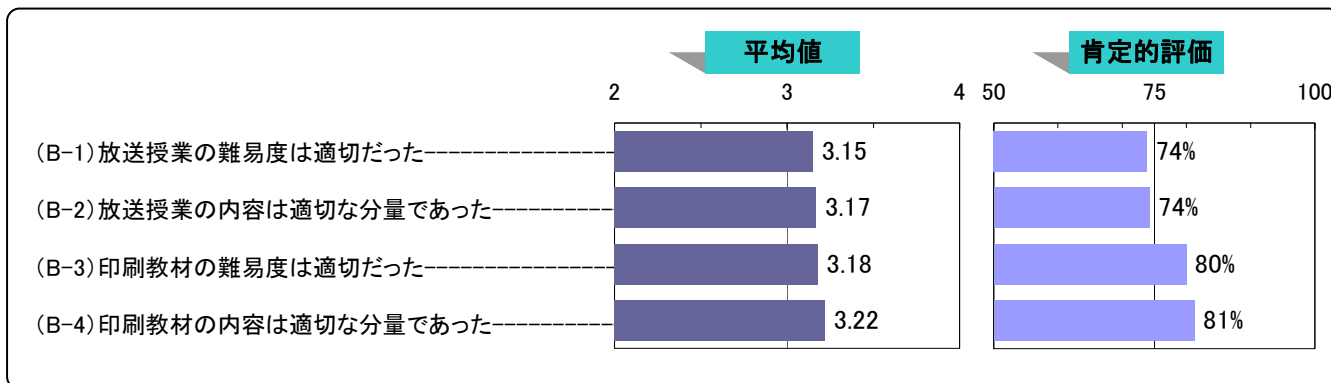


(2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていく。

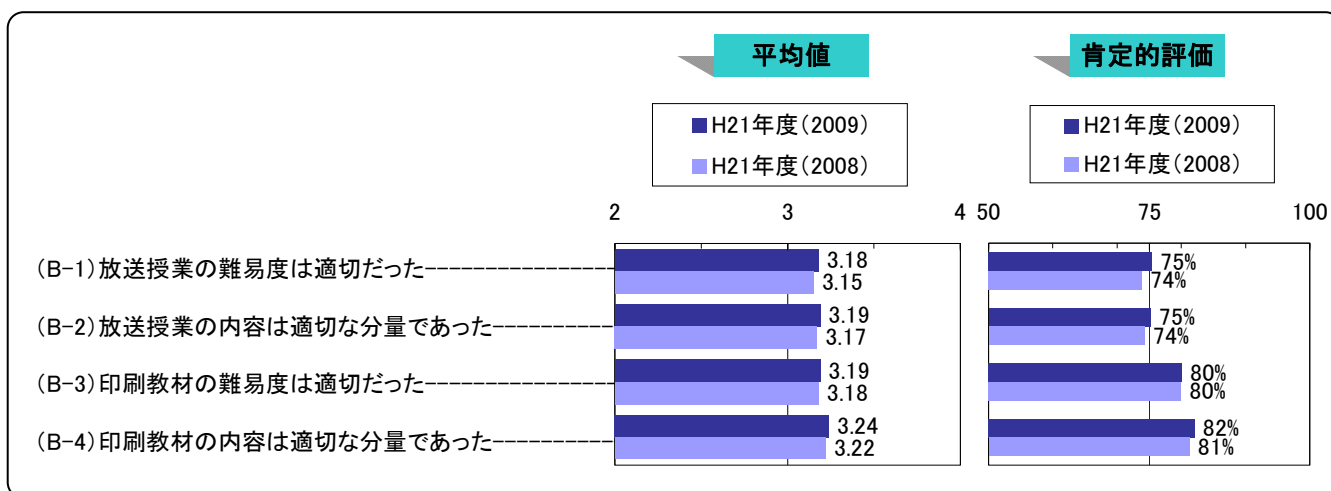
難易度・分量については(図2-23)、放送授業・印刷教材とも比較的高い評価となっている。特に印刷教材については、難易度・分量とも肯定的評価の割合が多い。

図2-23 【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価



授業の難易度・分量を開設年度で比較すると(図2-24)、ほとんど変化はないものの、2009年度新規開設科目は、2008年度新規開設科目に比べ、いずれの評価項目においても若干評価が上がっている。

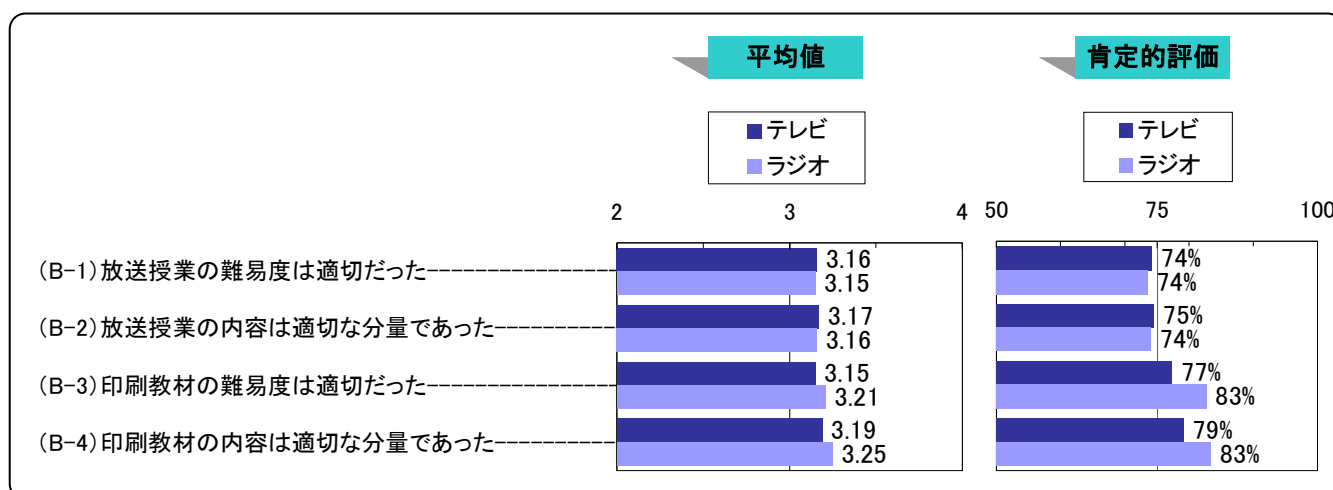
図2-24 【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図2-25）、放送授業は難易度・分量ともほとんど差がない。

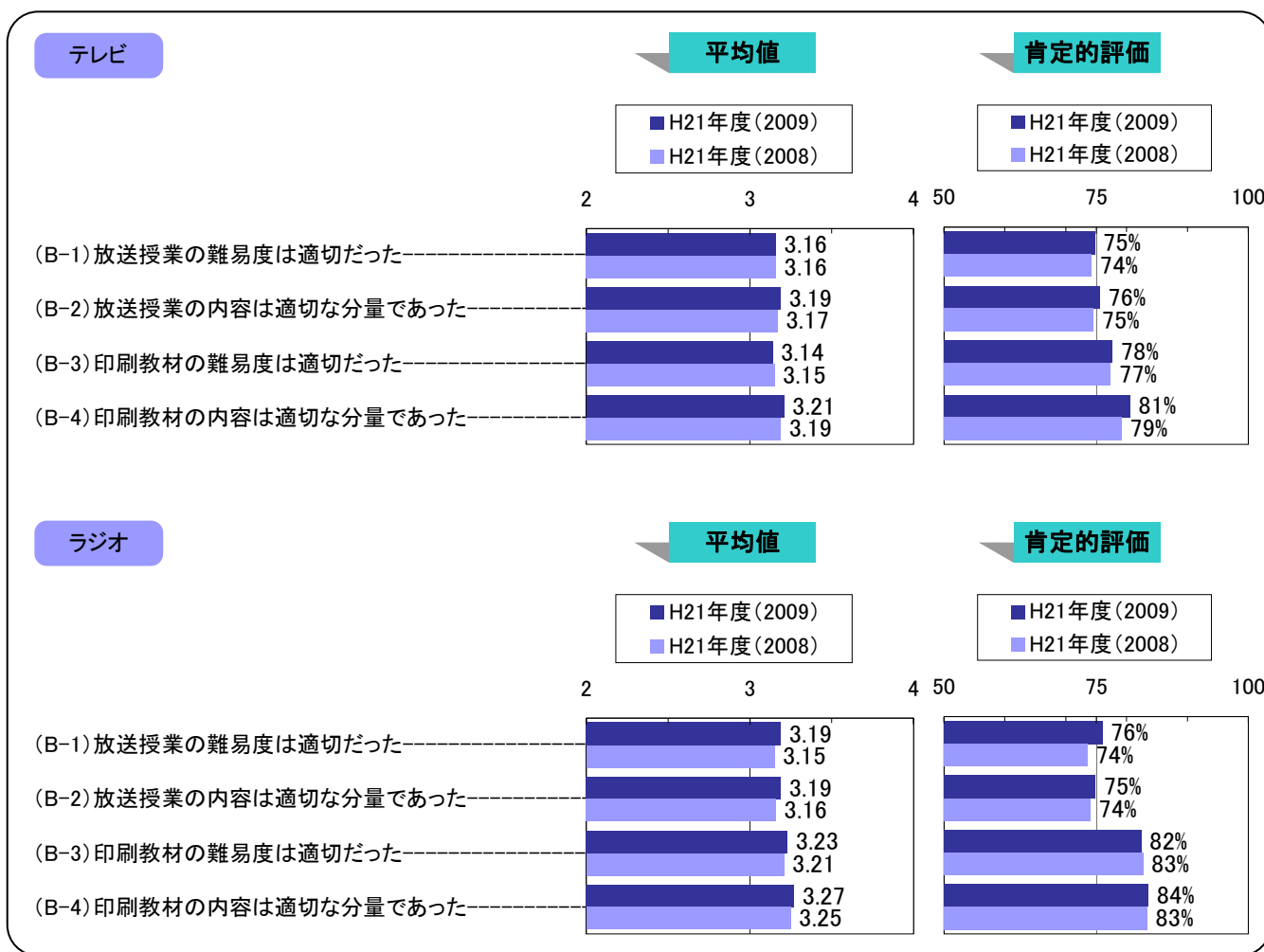
一方、印刷教材については、難易度・分量ともラジオ科目の方が、評価が高くなっている。ラジオ科目は特に肯定的評価をしている人が多い。テレビ科目については、印刷教材の分かりやすさや分量を工夫する必要があるだろう。

図2-25 【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価



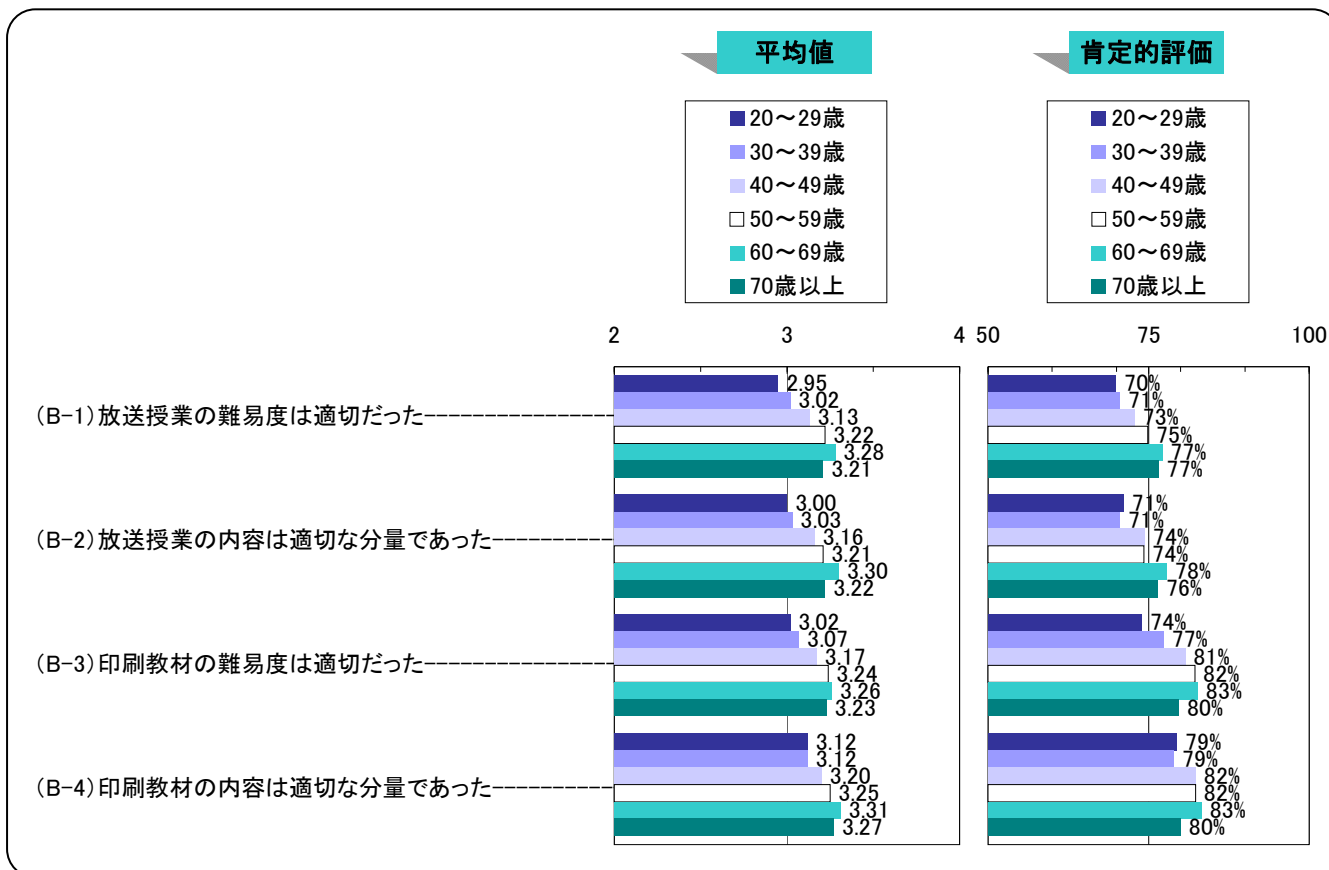
メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると(図2-26)、テレビ科目、ラジオ科目とも大きな変化は見られないが、2009年度新規開設科目は、2008年度新規開設科目に比べ、若干評価が向上している。特にラジオ科目の方が評価が上がっており、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」など、放送授業での改善が見られる。

図2-26【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価(開設年度比較)



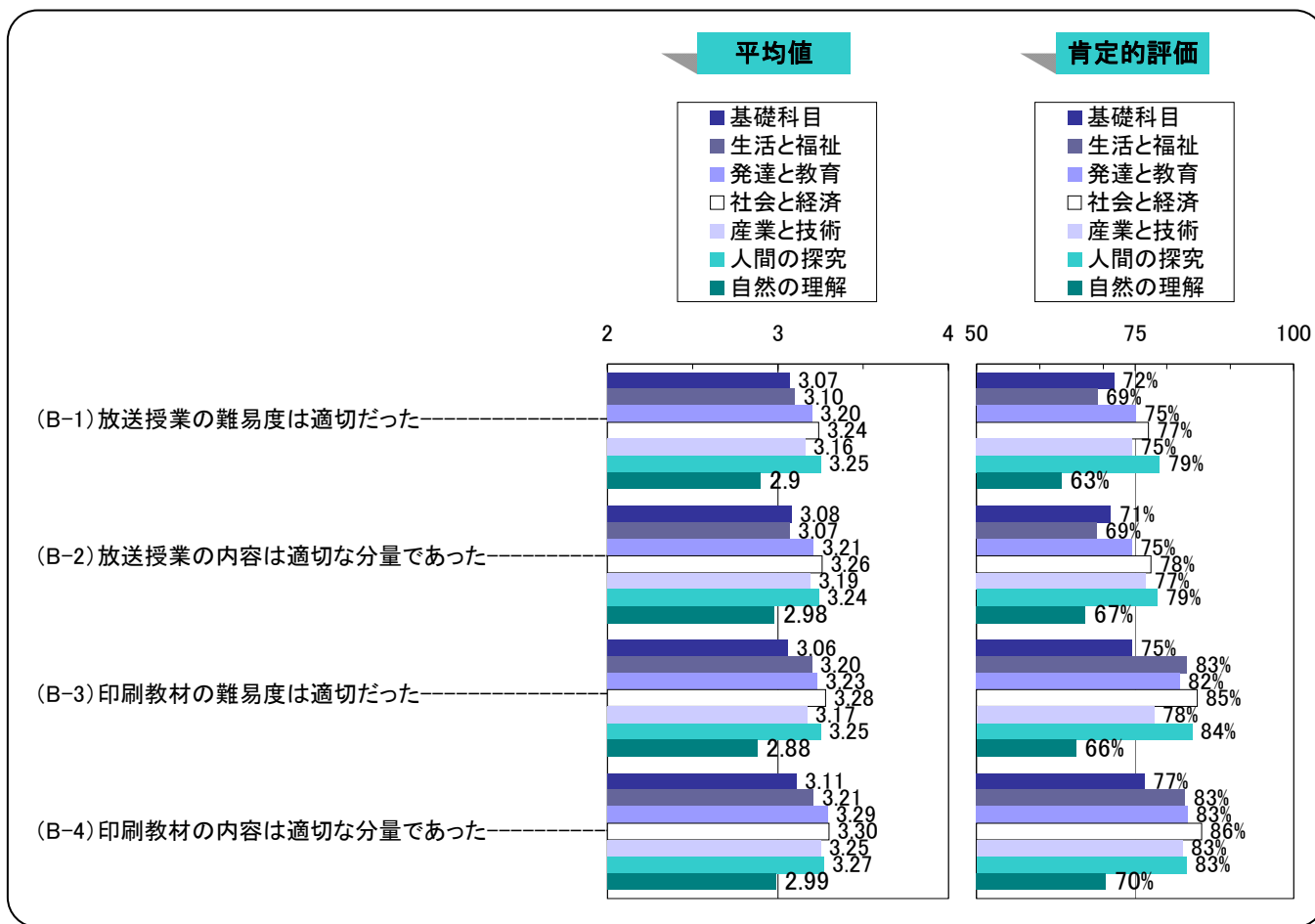
年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-27）、放送授業・印刷教材の難易度・分量とも、年配層ほど評価が高くなっており、60歳代が最も評価が高い。70歳以上は、60歳代に比べやや評価が落ちるが、高齢のためと言えるかもしれない。

図2-27 【学部】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



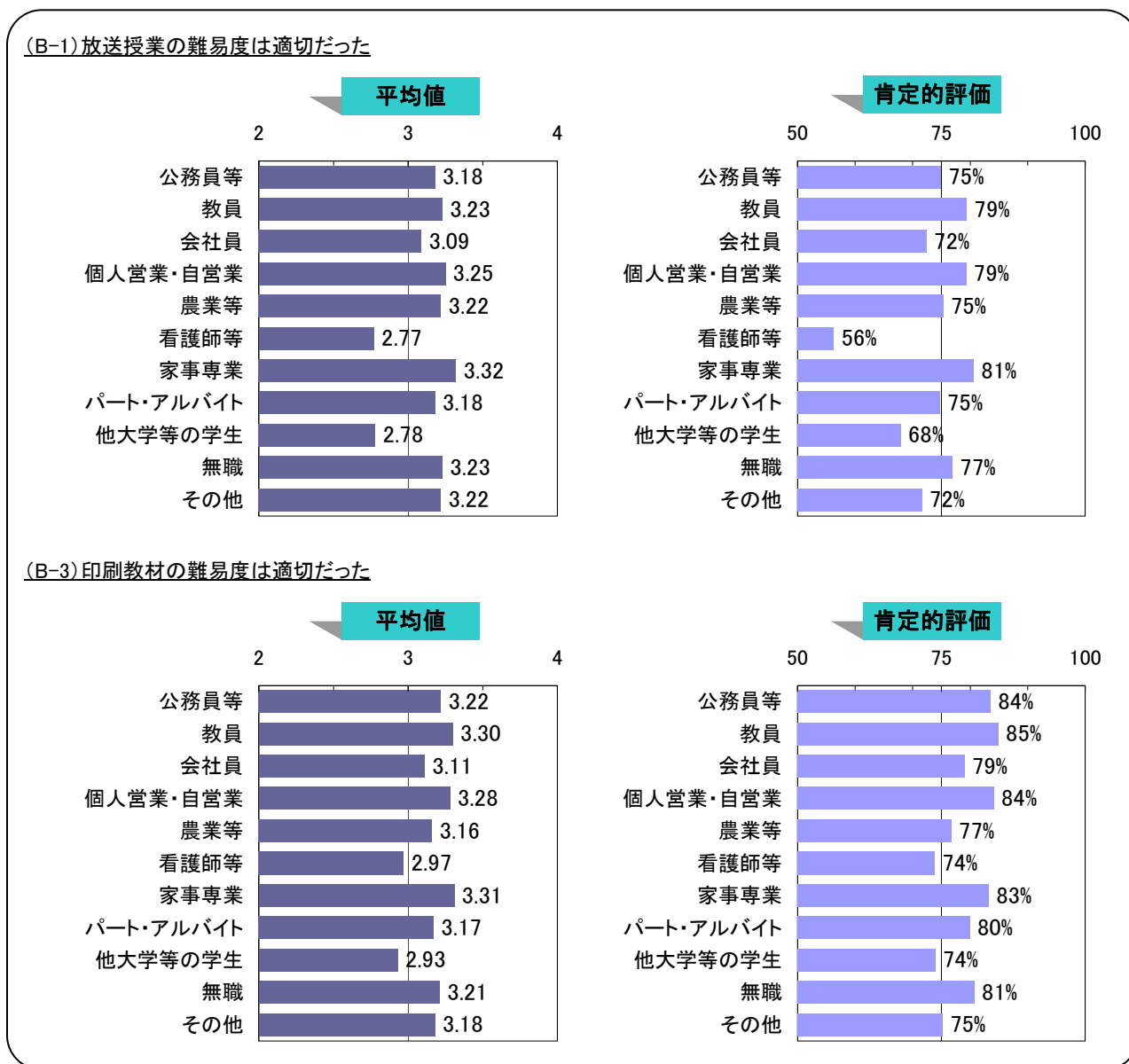
所属専攻別に授業の難易度・分量を見ると（図 2 - 2 8）、放送授業、印刷教材の難易度・分量とも、「社会と経済」及び「人間の探究」の評価が高い。逆に「自然の理解」は、いずれの項目も最も評価が低い。さらに放送授業の難易度と分量では「基礎科目」と「生活と福祉」、印刷教材の難易度と分量では「基礎科目」の評価も低く、改善が求められる。特に「基礎科目」の難易度の評価が低いのは、専門科目とは違った視点での教材作成が必要とされていると言えよう。

図 2 - 2 8 【学部】所属専攻別の授業難易度・分量の評価



職業別に授業の難易度を見ると（図2-29）、放送授業の難易度は、取組姿勢のよくない看護師等と他大学等の学生で評価が低くなっている。これらの職業の人で、放送授業の取組姿勢がよくない原因が授業の難易度にある可能性もあるが、取組姿勢がよくないために、難易度が高く感じるということも考えられ、相互に影響しあっていると推察される。

図2-29 【学部】職業別の授業難易度・分量の評価

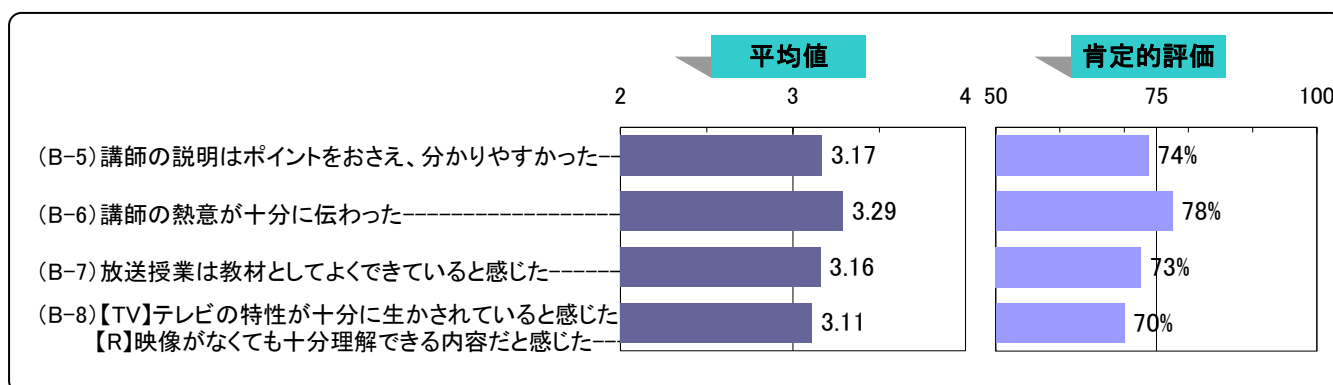


(3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていく。

放送授業に関する評価項目で最も評価が高いのは（図2-30）、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」であり、平均値 3.29、肯定的評価 78%となっている。逆に最も低いのは、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」である（平均値 3.11、肯定的評価 70%）。(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」は、まずまずの評価と言える。

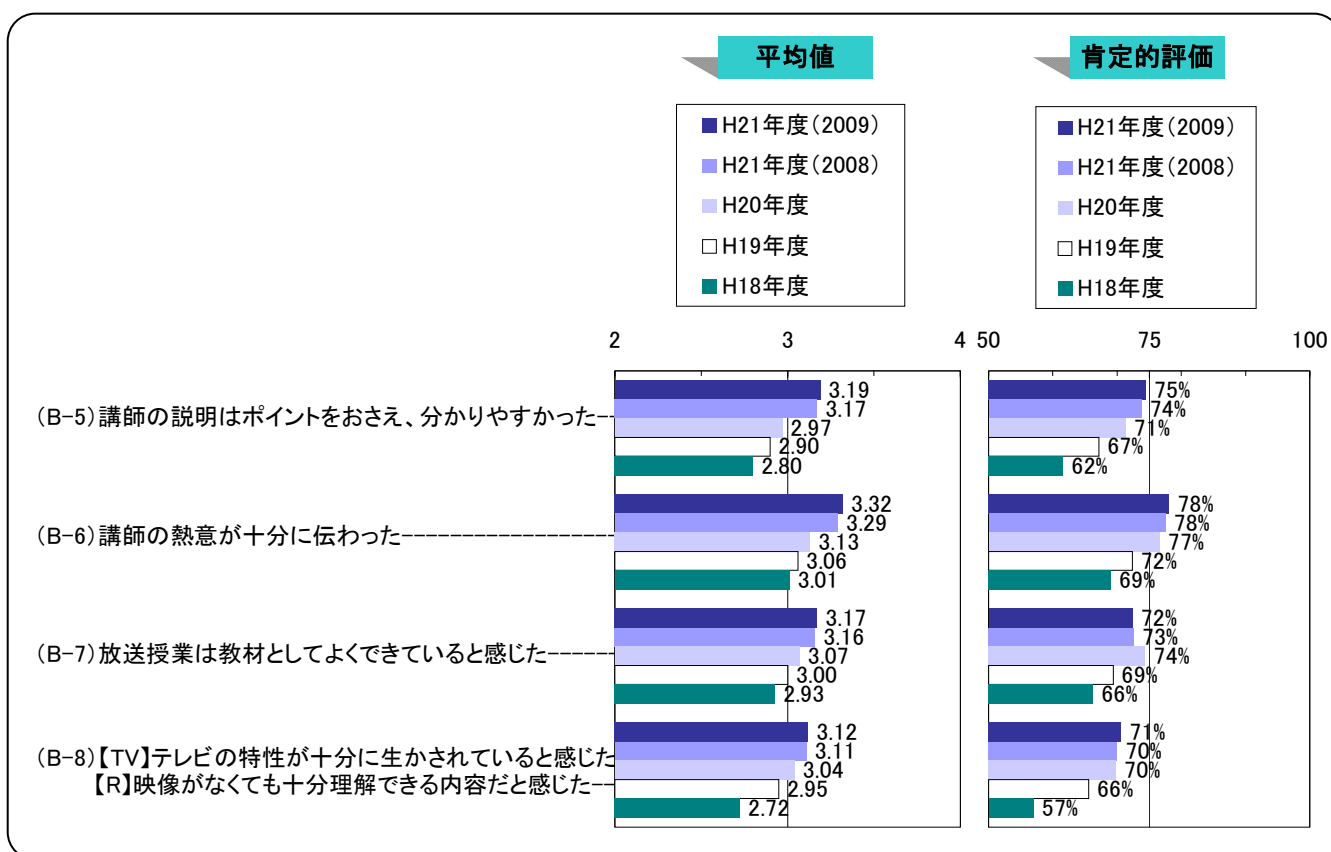
図2-30 【学部】回答者全体の放送授業の評価



放送授業の評価を時系列で見ると（図2-31）、いずれの評価項目も年々評価が向上している。特に（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と（B-8）「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、過去5年間で評価が大きく向上しており、講師の説明方法や映像の特性を生かした授業、映像がなくても理解できる説明方法などの改善効果があったものと言えよう。

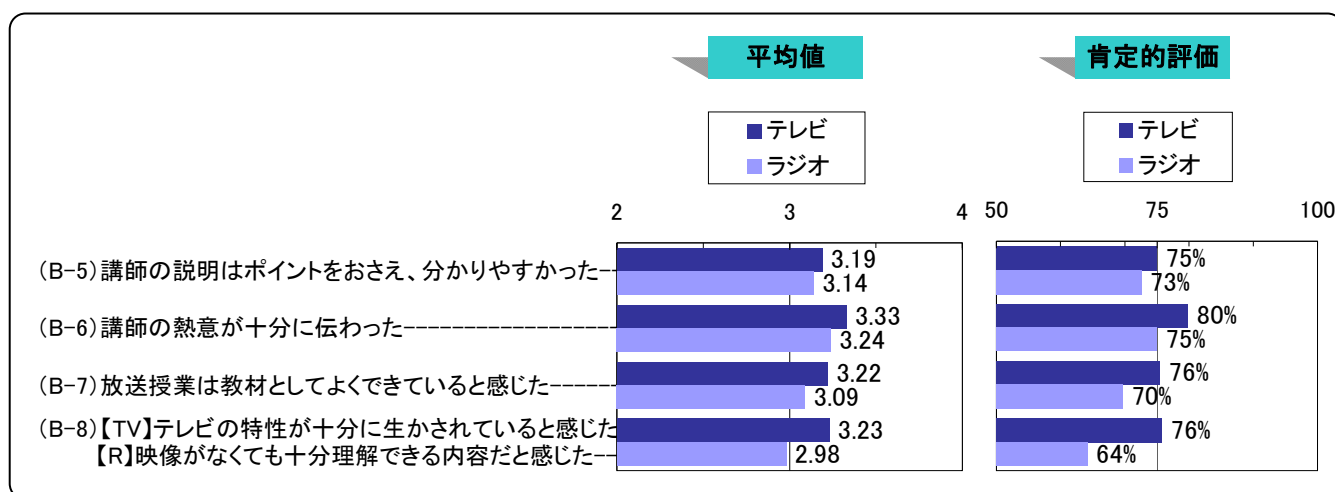
ただ（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」、（B-8）「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の肯定的評価は、平成20年度調査（2007年度新規開設科目）以降、あまり伸びていないため、さらに改善を工夫する必要がある。

図2-31 【学部】回答者全体の放送授業の評価（時系列）



メディア別に放送授業の評価を見ると（図 2-3 2）、いずれの評価項目もテレビ科目の方が、評価が高い。ラジオ科目は特に（B-8）「【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の評価が低く、さらに（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」という放送授業としての総合評価もやや低くなっている。今後、さらに分かりやすさの向上を追及する必要がある。

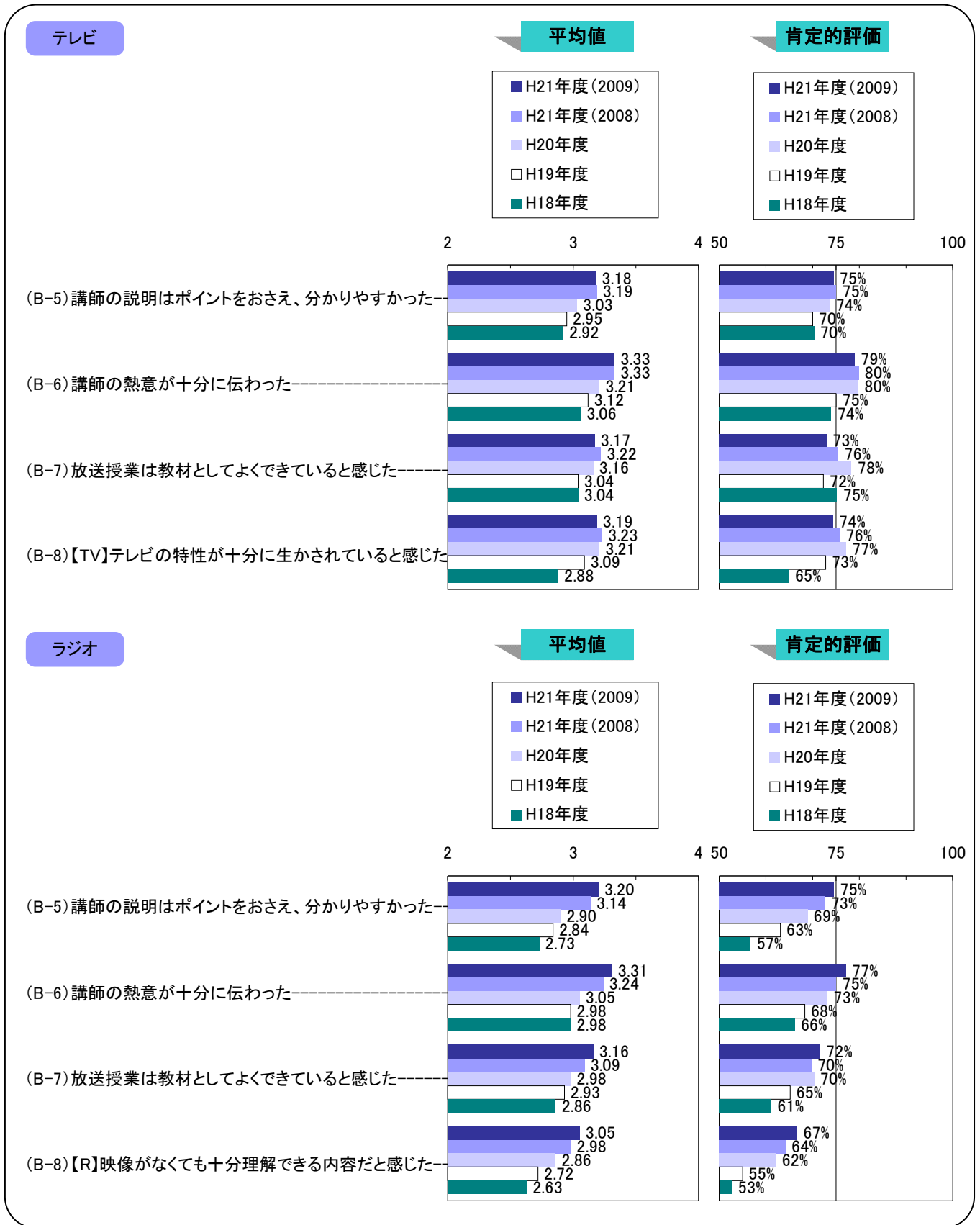
図 2-3 2 【学部】メディア別の放送授業の評価



さらに、メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると（次頁図 2-3 3）、テレビ科目では、いずれの項目も平成 20 年度調査（2007 年新規開設科目）までは、年々評価が上がってきていたが、それ以降はあまり向上していない。特に（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」という総合評価や、（B-8）「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた」は、評価が下がりつつあり、今後改善に注力する必要がある。

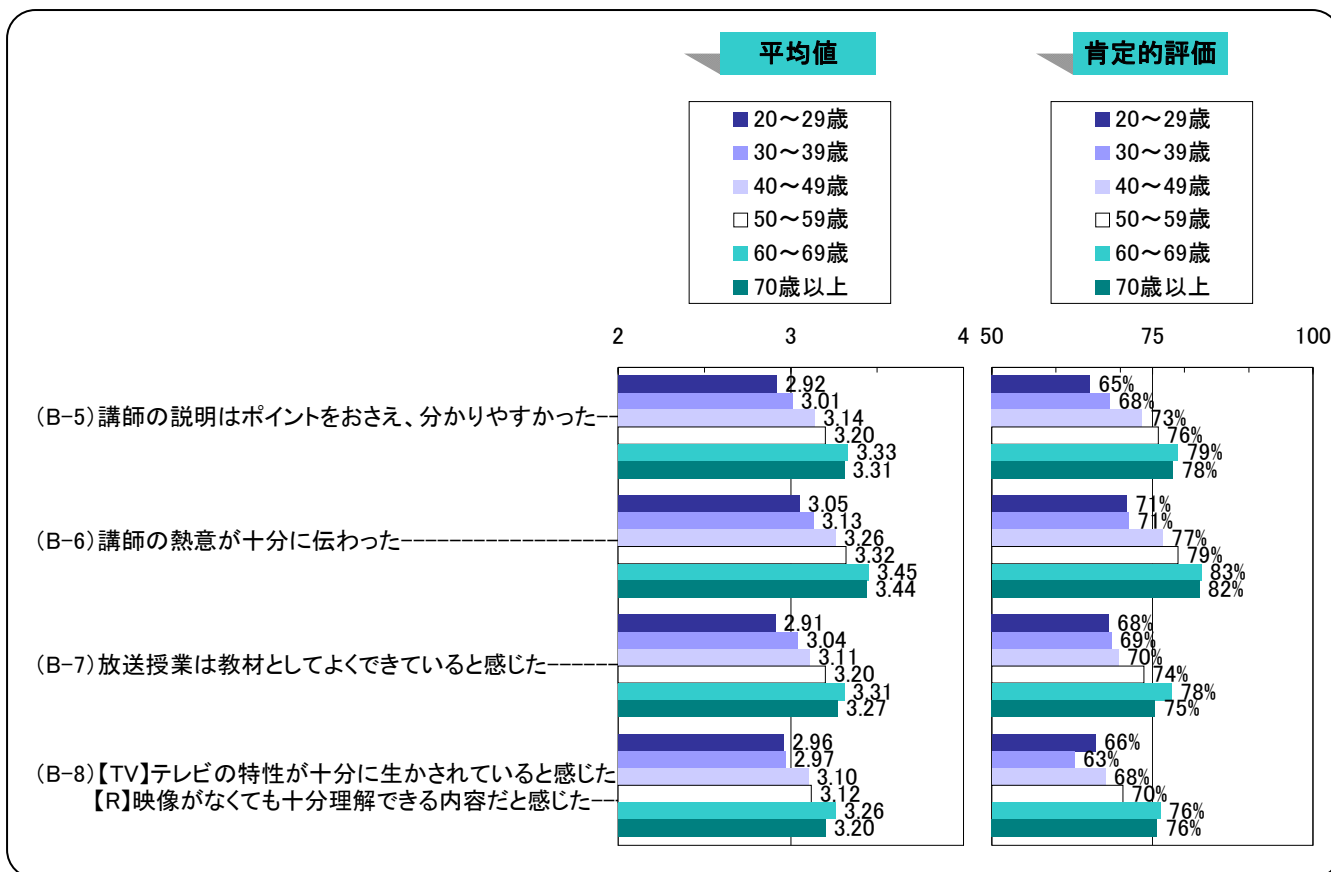
一方、ラジオ科目は、いずれの項目も年々評価が上がっている。ただし、先に見たように、テレビ科目と比べるとまだ評価が低く、今後も改善を工夫していくべきであろう。

図 2 - 3 3 【学部】メディア別の放送授業の評価（時系列）



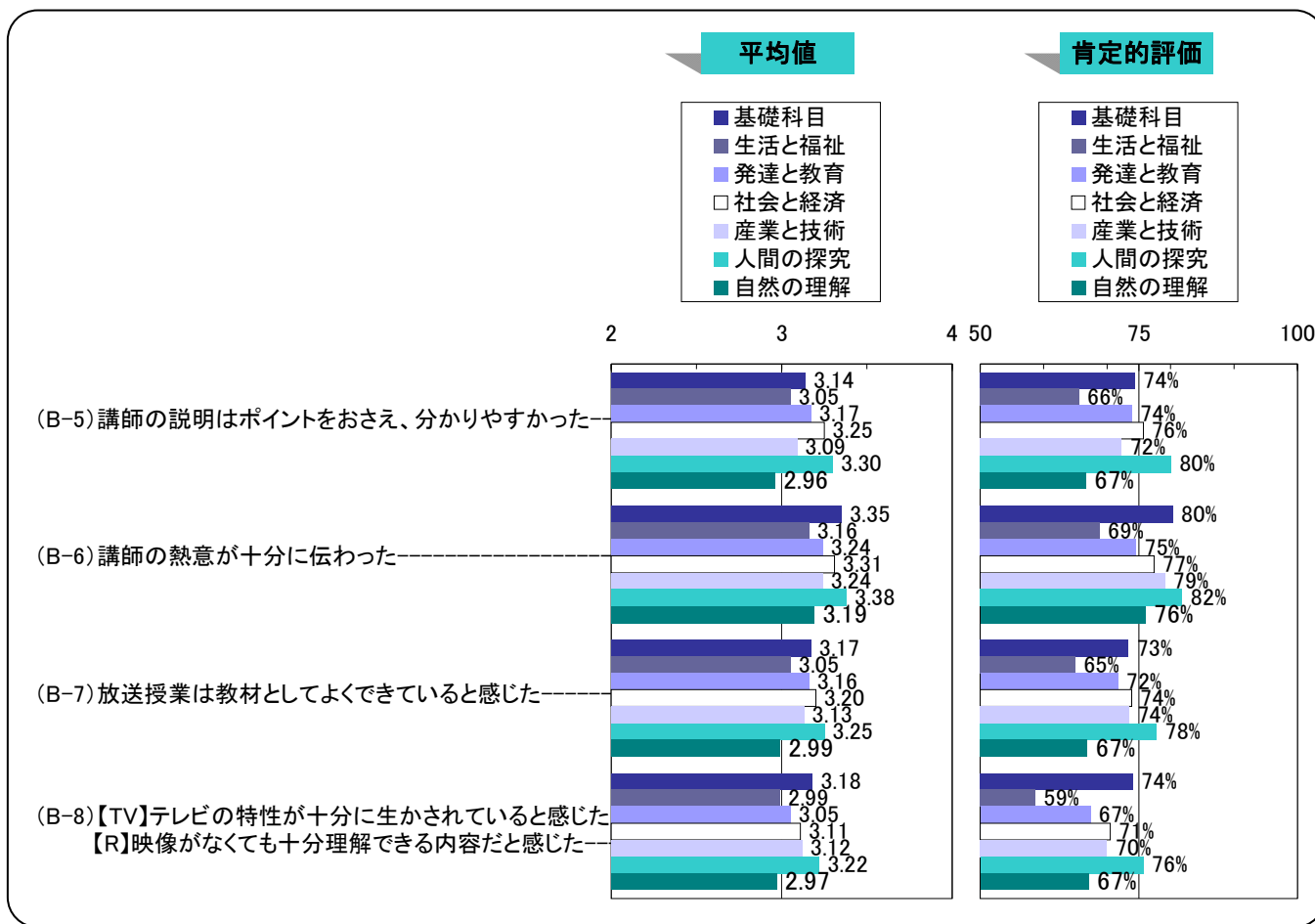
年齢階層別に放送授業の評価を見ると（図2-34）、いずれの項目も、年配層ほど評価が高くなっている。

図2-34 【学部】年齢階層別の放送授業の評価



所属専攻別に放送授業の評価を見ると（図2-35）、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、「人間の探究」が最も評価が高く、次いで「基礎科目」「産業と技術」「社会と経済」などが高くなっている。逆に「生活と福祉」および「自然の理解」は評価がやや低い。なお、「基礎科目」は、難易度や分量では評価が低かったが、放送授業では比較的高い評価を得ている。

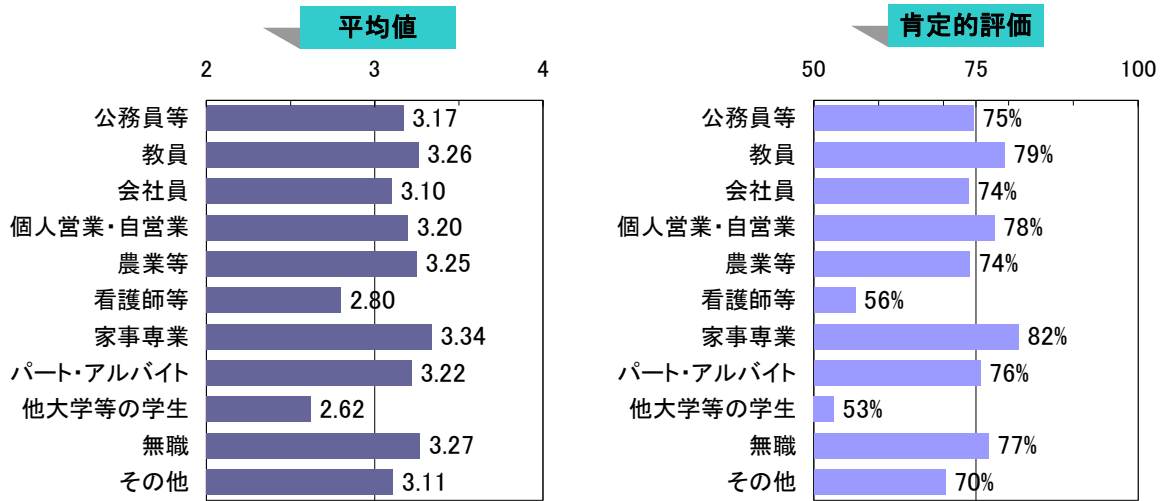
図2-35 【学部】所属専攻別の放送授業の評価



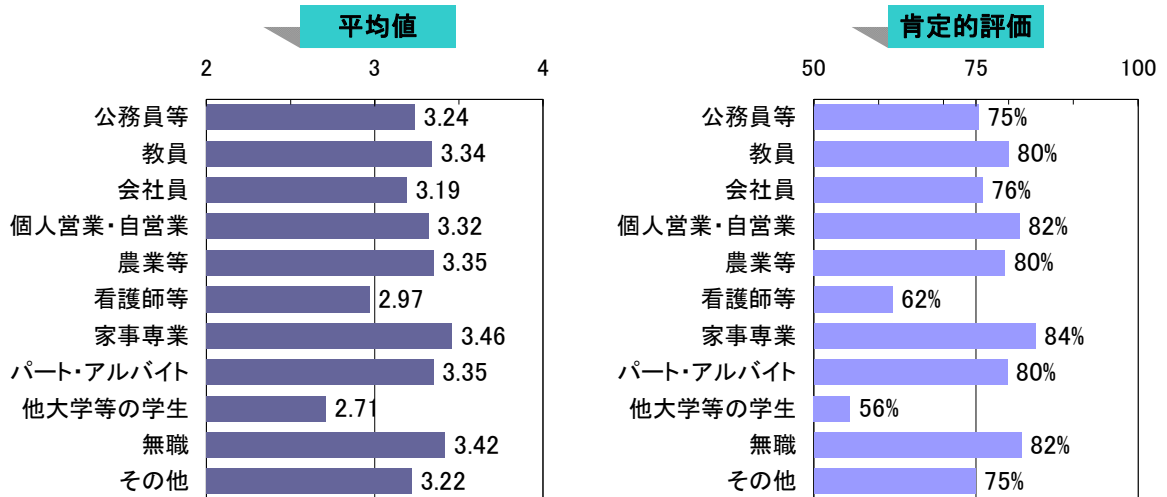
職業別に放送授業の評価を見ると（次頁図2-36）、家事専業、無職、個人営業・自営業、教員などの評価が高く、他大学等の学生、看護師等の評価が低くなっている。これは満足度とほぼ同様の結果である。

図 2 - 3 6 【学部】職業別の放送授業の評価

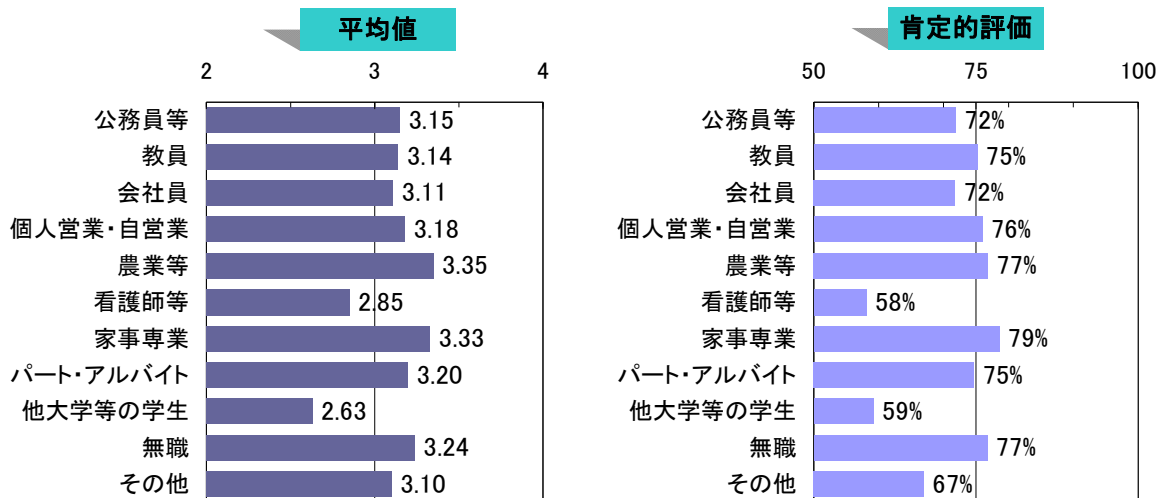
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった



(B-6) 講師の熱意が十分に伝わった



(B-7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた

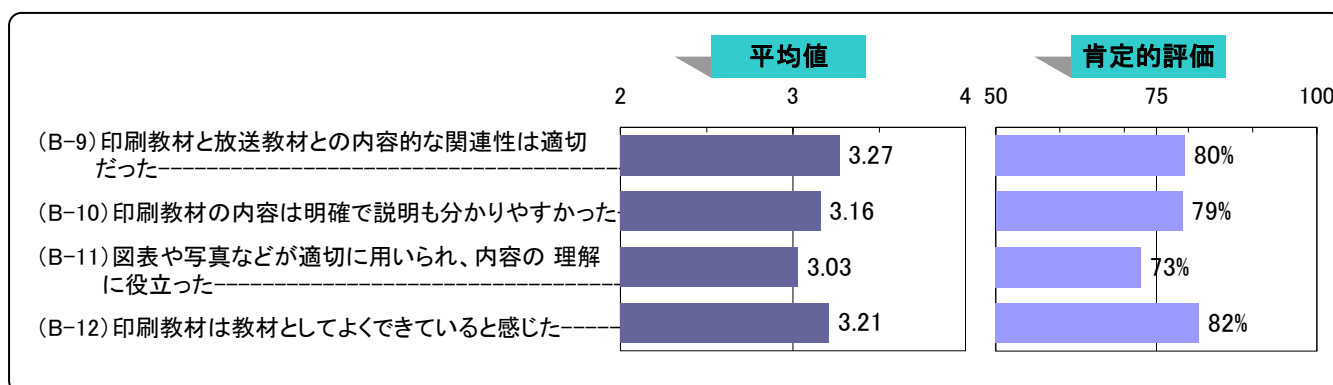


(4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

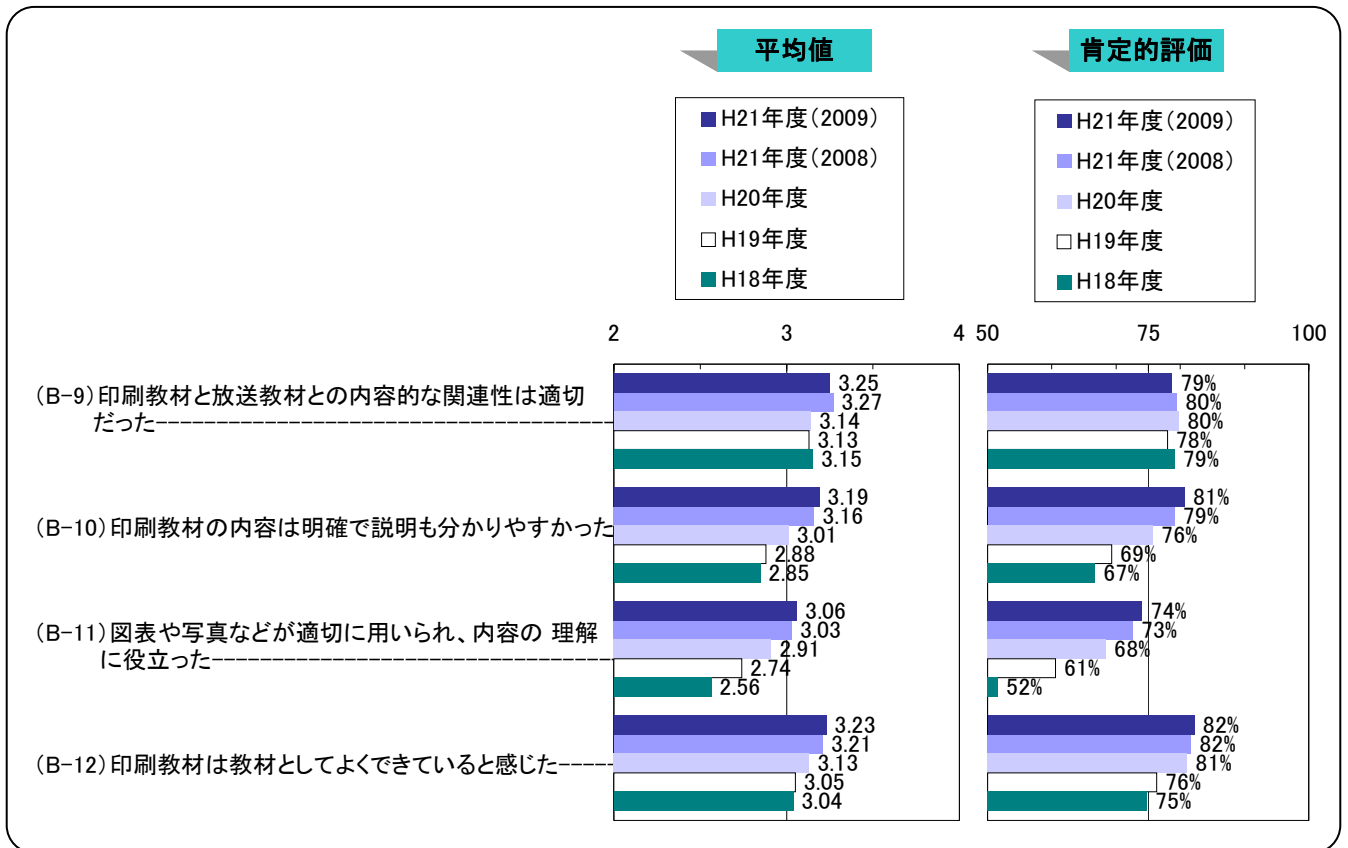
印刷教材の評価項目では（図2-37）、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」と、印刷教材の総合評価とも言うべき(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」の評価が高くなっている。逆に(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は他の項目に比べるとやや評価が低い。図表や写真などをさらに有効に取り入れることが必要と言える。

図2-37 【学部】回答者全体の印刷教材の評価



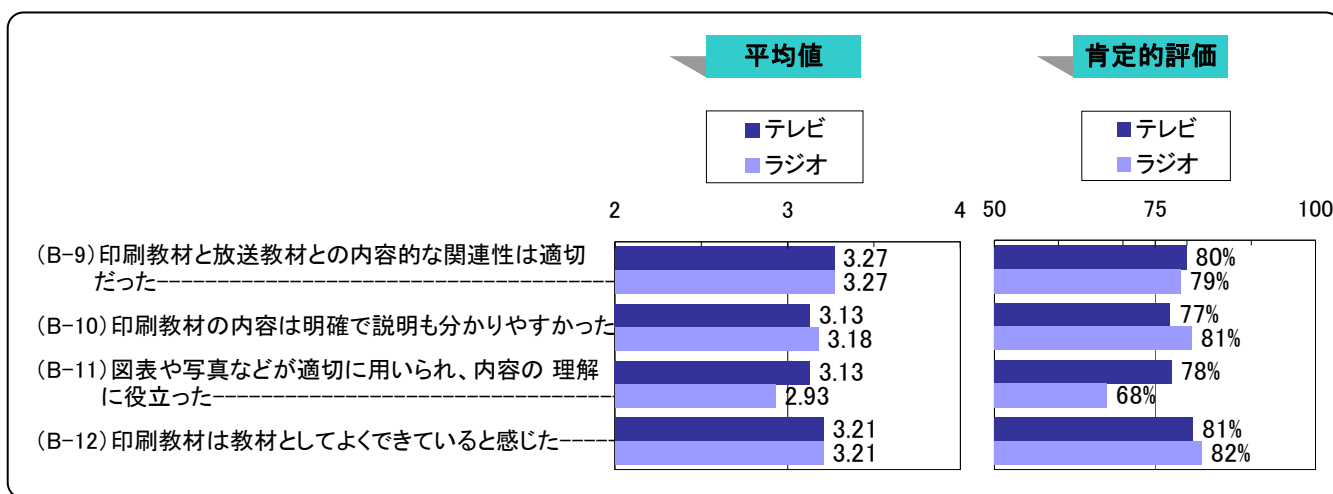
印刷教材の評価を時系列で見ると（次頁図2-38）、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は、年々評価が高まっており、改善の効果が現れている。そのため総合評価の(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」も徐々に評価が上がっている。しかし(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は、もともと評価が高かったこともあり、評価はあまり変化していない。

図 2 - 3 8 【学部】 回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



印刷教材の評価をメディア別に見ると（図2-39）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、あまり差は見られない。しかし（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は、ラジオ科目の評価が低くなっており、放送授業において映像のないラジオ科目では、印刷教材でそれを補完するために、さらに多くの図表や写真を用いる必要があると言えよう。なお、（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は、ラジオ科目の評価が高く、逆にテレビ科目の方に説明方法の工夫が求められる。

図2-39 【学部】メディア別の印刷教材の評価



メディア別の印刷教材の評価を時系列で見ると（次頁図2-40）、テレビ科目では、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」の評価が年々向上しているが、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」はあまり変化がなく、評価は改善されていない。（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」と（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」についても同様である。

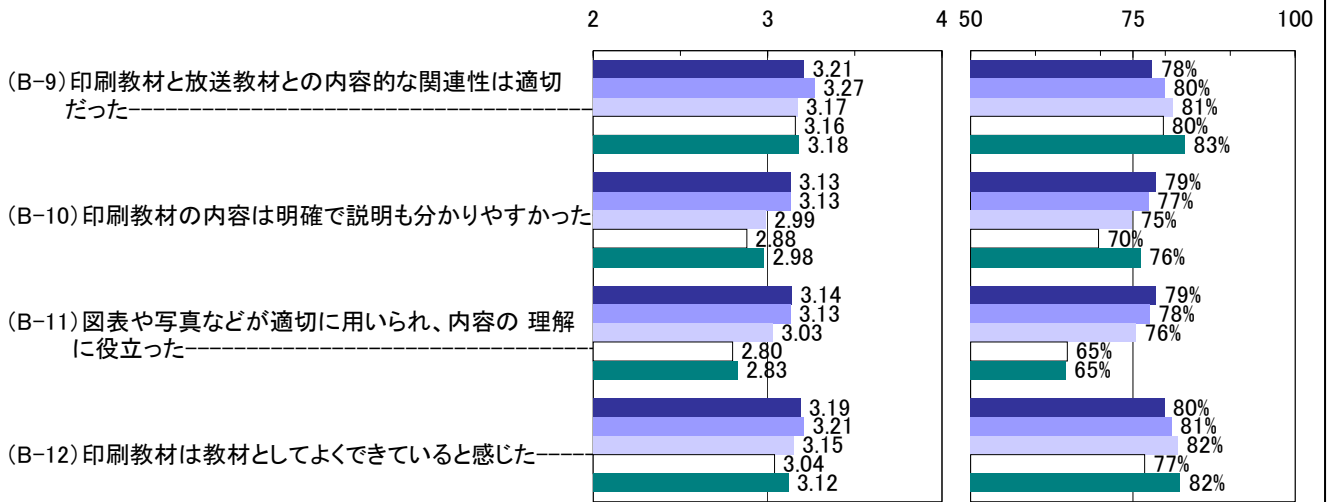
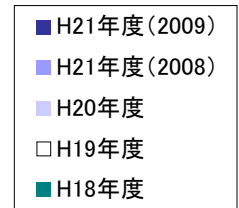
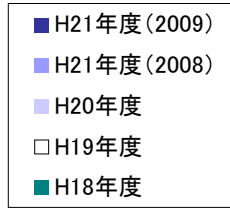
一方、ラジオ科目はいずれの項目も年々評価が高まっており、改善の効果が出ていると言える。とはいえ、（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」はまだまだ評価が低い状態にあり、さらなる改善が求められる。

図 2 - 4 0 【学部】メディア別の印刷教材の評価（時系列）

テレビ

平均値

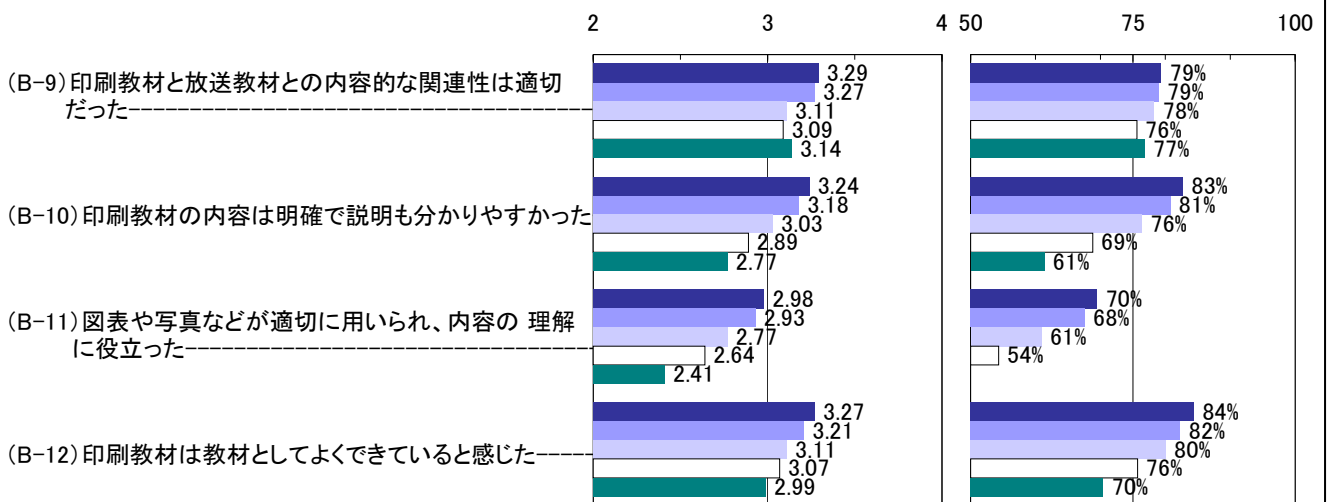
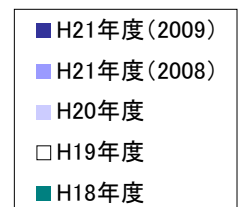
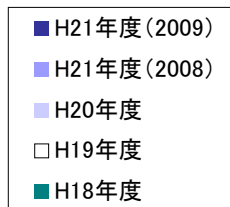
肯定的評価



ラジオ

平均値

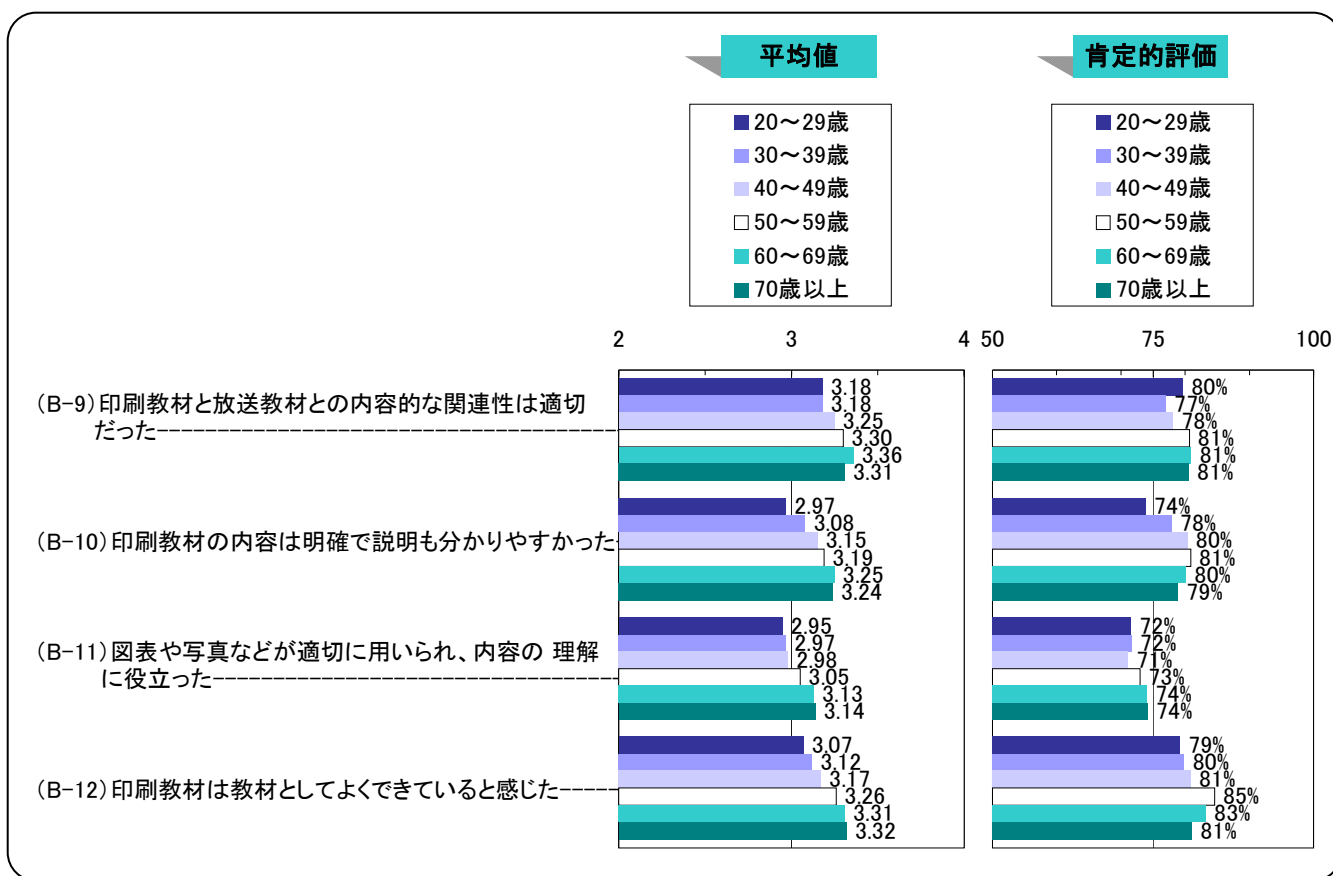
肯定的評価



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると（図2-41）、ここでも平均値では年配層ほど評価が高い傾向が見られるものの、肯定的評価ではその傾向がやや異なっている。こうした違いがでるのは、肯定的評価の「あてはまる」と「ややあてはまる」のうち、年配層では「あてはまる」と回答した人が相対的に多いためである。

なお（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」や（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」では50歳代を中心に肯定的評価が高くなっている。

図2-41 【学部】年齢階層別の印刷教材の評価

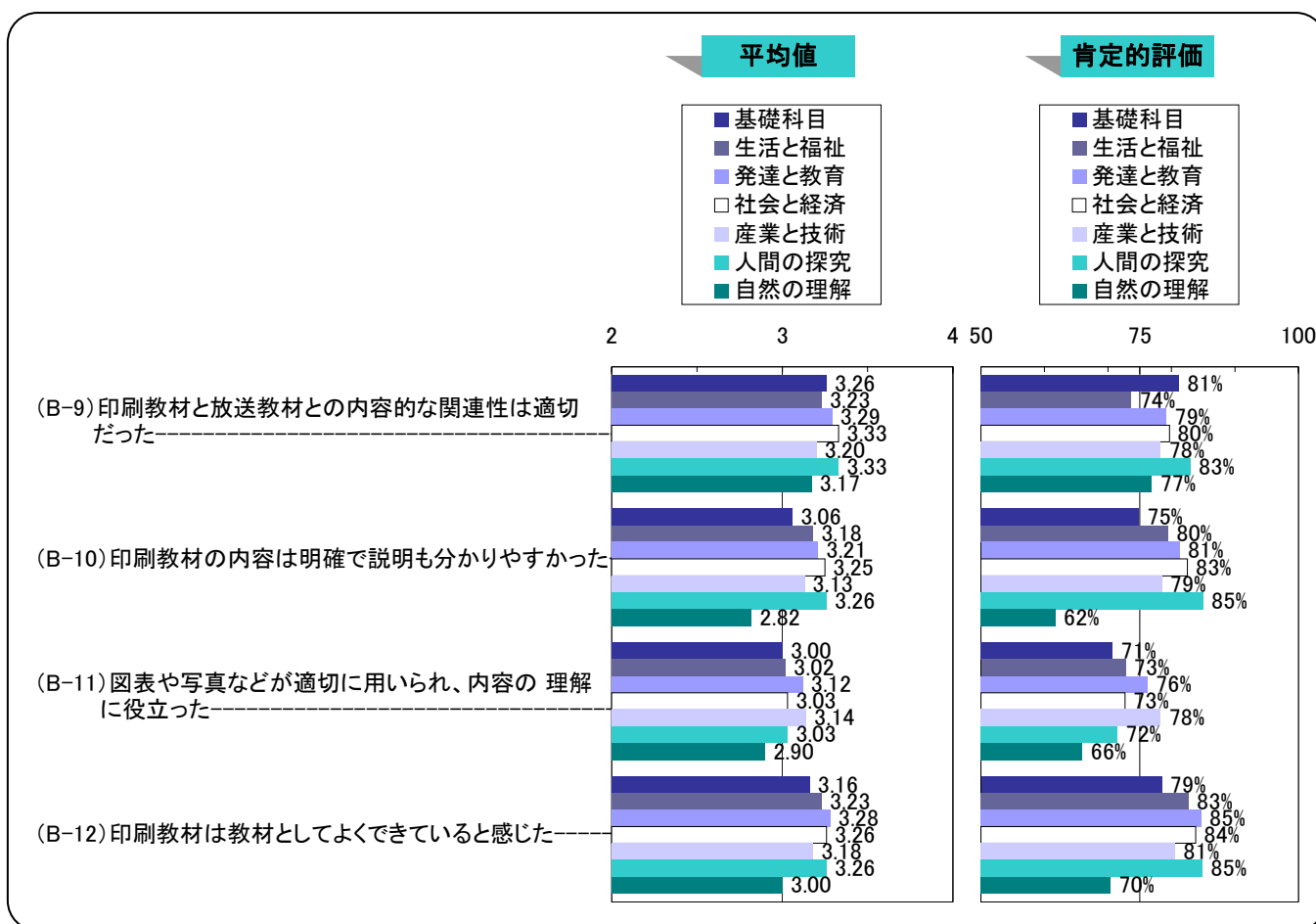


所属専攻別に印刷教材の評価を見ると（図2-42）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、「発達と教育」「社会と経済」「人間の探究」の評価が高く、「自然の理解」の評価が低い。（B-9）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」と（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」もほぼ同様の結果である。

「自然の理解」は、（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」の評価が特に低く、説明方法の改善や図表・写真などの活用をすすめる必要がある。

なお、全体的に評価の低い（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は、「産業と技術」及び「発達と教育」の評価が比較的高くなっている。

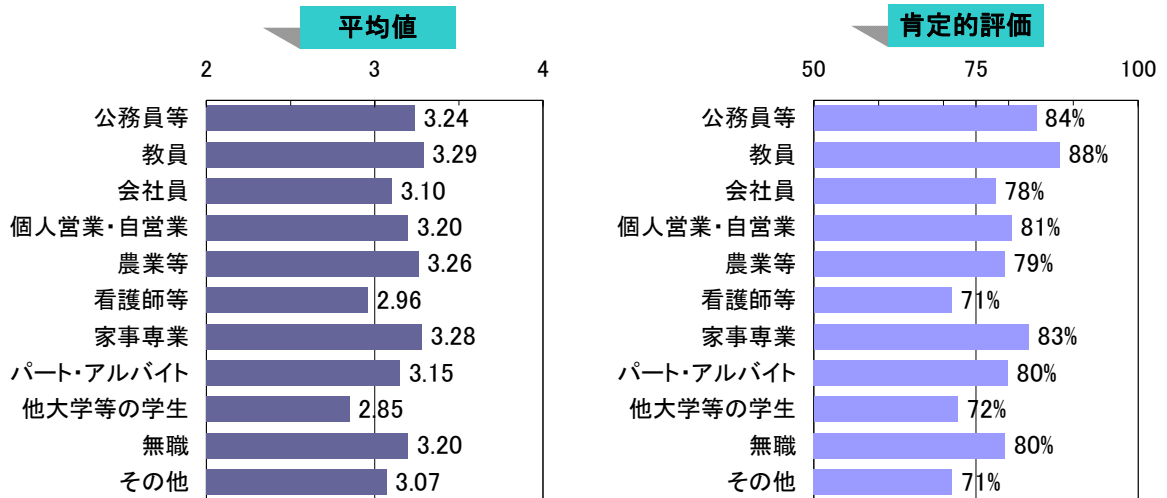
図2-42 【学部】所属専攻別の印刷教材の評価



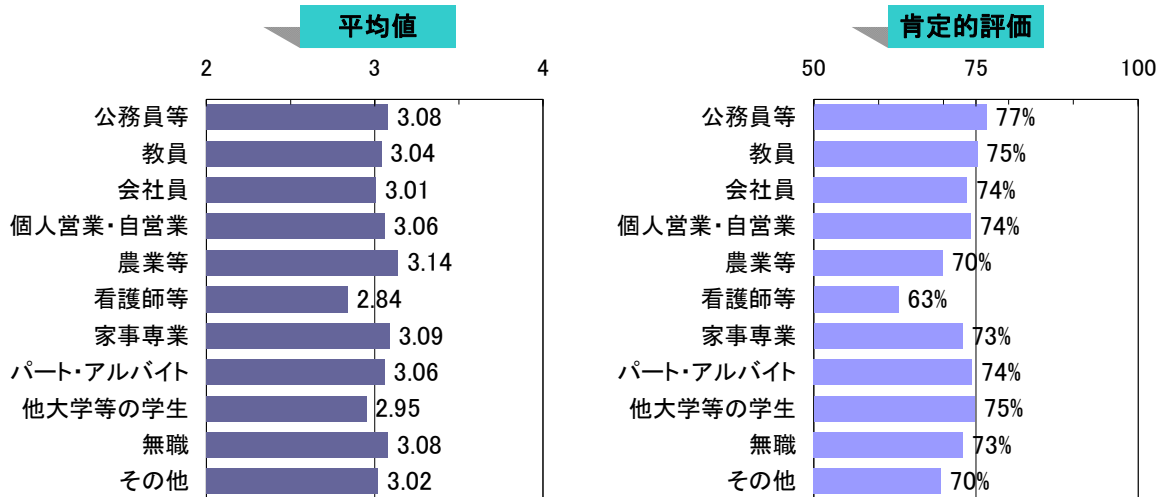
職業別に印刷教材の評価を見ると（次頁図2-43）、総合評価の（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、公務員等、教員、個人営業・自営業、家事専業、パート・アルバイト、無職の人で評価が高くなっている。また（B-10）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は、公務員等、教員、家事専業の人の評価が高い。

図 2 - 4 3 【学部】職業別の印刷教材の評価

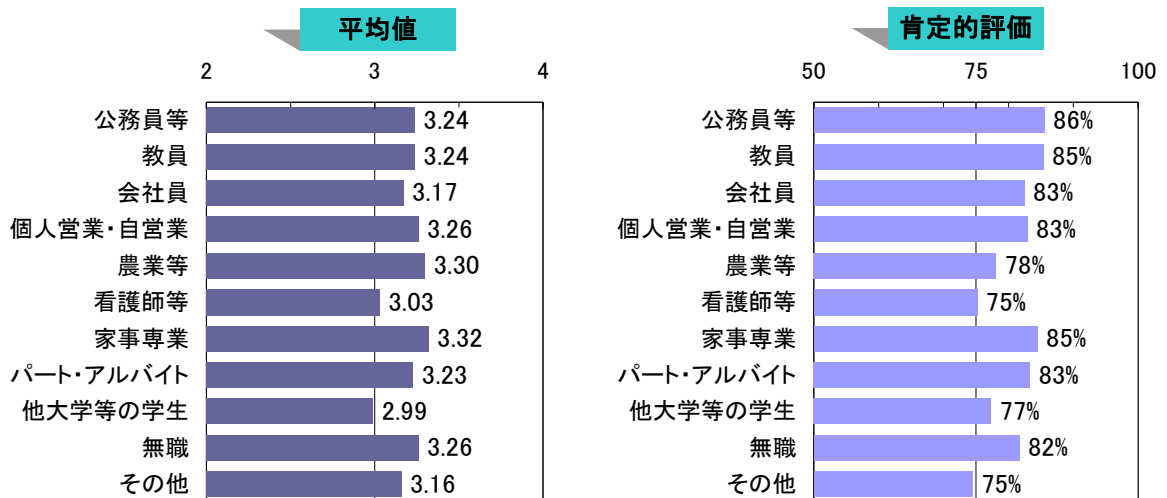
(B-10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた



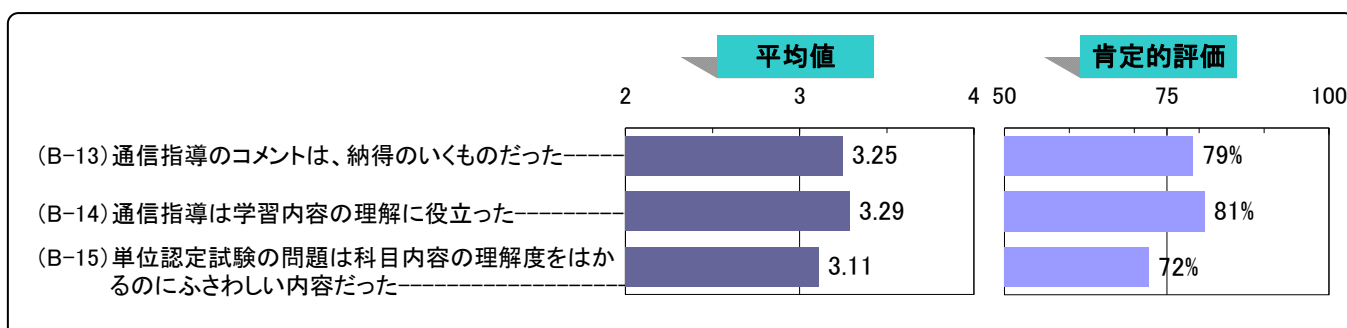
(5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については(図2-44)、(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が平均値 3.25、肯定的評価 79%、(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」が平均値 3.29、肯定的評価 81%と、いずれも高い評価を得ている。

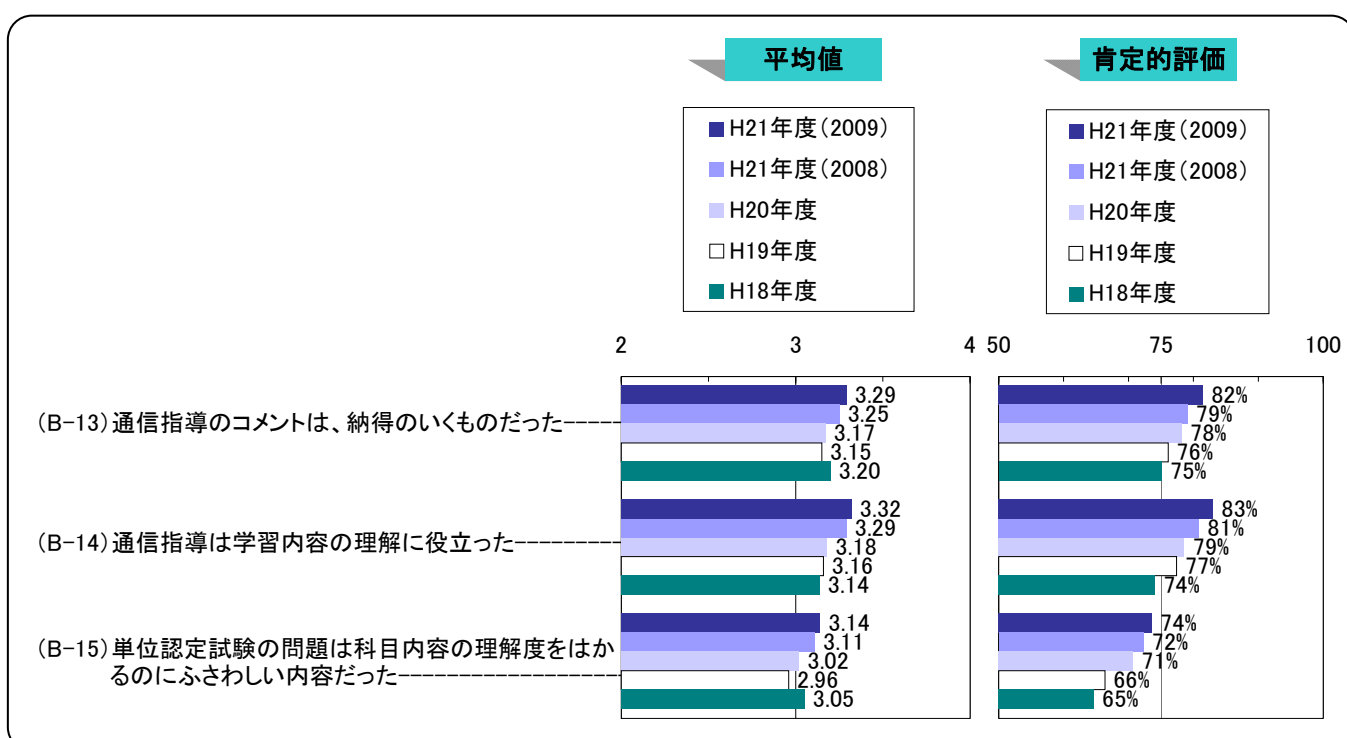
単位認定試験は通信指導よりやや評価が低いものの、(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」は、平均値 3.11、肯定的評価 72%とまずまずの評価と言える。

図2-44 【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(図2-45)、いずれの評価項目も年々評価が上がっており、改善の効果が現れている。

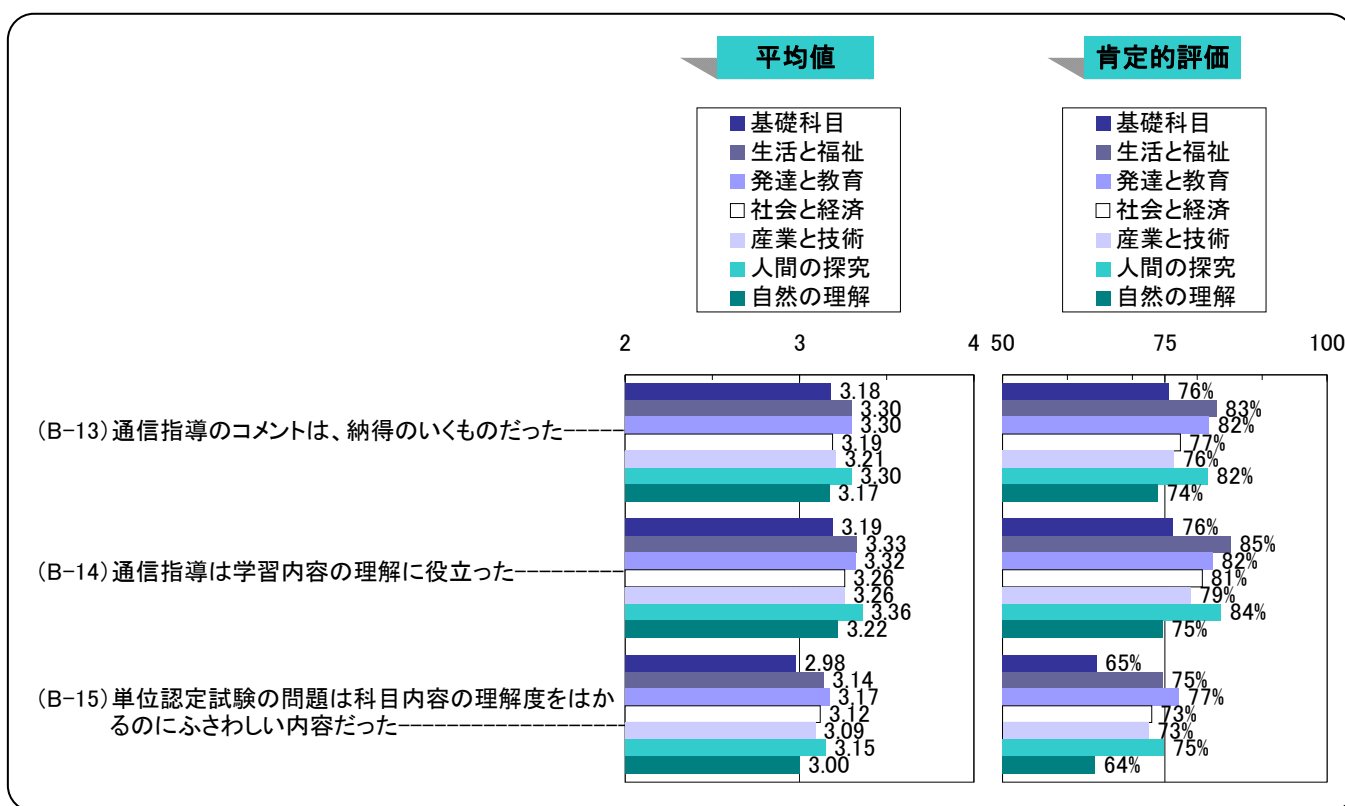
図2-45 【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価(時系列)



所属専攻別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると(図2-46)、通指指導の(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」と(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」については、生活と福祉、発達と教育、人間の探究などの評価が高くなっている。

単位認定試験の(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」についても生活と福祉、発達と教育、人間の探究の評価が比較的高い。一方、基礎科目と自然の理解の評価は低く、単位認定試験のあり方について再考する必要があるだろう。

図2-46 【学部】所属専攻別の通信指導・単位認定試験の評価



Ⅱ-1-4. 参考

ここでは評価項目間の相関を見ることによって、より深く授業改善の糸口を探っていくことにする。分析には主にピアソンの単相関係数（以下、相関係数）を用いた。相関係数は 1.0 から -1.0 までの値をとり、二つの変数間の変化のいわば「足並み」を示す指標である。それらが共変する場合（つまり片方の値が高ければもう一方も高く、低ければ低いという場合）は 1.0 に近づき、逆の変化をする場合は -1.0 に近づく。両者の変化に関係性がない場合は 0 に近づく。ただし、相関係数による分析では、変数間の共変関係は分かっても、因果関係（つまりどちらが原因となる変数で、どちらが結果かということ）は分からないのが普通である。以下の分析ではそのことを十分留意していただきたい。ただ、総合的な評価は個別の評価を考慮し、総合してなされるであろうことは想像に難くない。そのことを前提として、総合評価と個別評価との関係を見ていくことにしよう。

表 2-2 は、放送授業の各評価項目と (A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢) 及び (B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価) の相関係数である。

表 2-2 【学部】放送授業と各項目との単相関係数

	(A2)放送授業を十分に視聴した	(B7)放送授業は教材としてよくできていると感じた
(A2)放送授業を十分に視聴した	1.000	0.400
(B1)放送授業の難易度は適切だった	0.415	0.608
(B2)放送授業の内容は適切な分量であった	0.430	0.613
(B5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.420	0.739
(B6)講師の熱意が十分に伝わった	0.448	0.694
(B7)放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.400	1.000
(B8)【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.354	0.643

これを見ると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢) と放送授業の各評価項目との間では、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」を除いて、いずれも相関係数が 0.4 以上であり、相関が見られる。同様に (A-2)「放送授業を十分に視聴した」(放送授業への取組姿勢) と (B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価) も相関係数 0.400 となっており、取組姿勢と放送授業の関係性が見て

取れる。つまり放送授業への取組姿勢のよい人は、放送授業の評価もよくなる傾向が見られる。これは取組姿勢のよい人は授業に真剣に向き合った結果、授業が理解しやすかったと考えることもできるし、授業がよくできていたために、取組姿勢がよくなったと考えることもできる。おそらく両方の効果が相互的に働いていると考えるのが妥当であろう。

一方、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」(放送授業の総合評価)は、放送授業の各評価項目との相関係数がいずれも 0.6 以上と強い相関が見られる。これらのいずれの個別評価項目も、総合評価に影響を与えていることが推察されるが、なかでも最も強い影響を与えていると考えられるのが、相関係数 0.739 と最も高い (B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」である。次いで (B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」が相関係数 0.694 と高くなっている。したがって、総合評価を高める上では、こうした講師の説明の分かりやすさや講師の熱意が特に重要であると言える。

次いで、印刷教材の各評価項目と、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)及び (B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)の相関係数を見たのが表 2-3 である。

表 2-3 【学部】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A3)印刷教材を熱心に学習した	(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた
(A3)印刷教材を熱心に学習した	1.000	0.327
(B3)印刷教材の難易度は適切だった	0.351	0.600
(B4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.335	0.579
(B9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.271	0.580
(B10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.339	0.753
(B11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.278	0.703
(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.327	1.000

これを見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)と印刷教材の各評価項目は、放送授業における関係ほど相関係数は高くない(相関係数 0.3 以上の項目もあるので、まったく相関がないというわけではない)。つまり印刷教材の場合、印刷教材の評価が多少低くても熱心に取り組んでいる学生がいることを示しており、放送授業とはまた違った関係が見て取れる。

一方、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)

は、印刷教材の各評価項目と比較的強い相関が見られる。特に相関係数が高いのは、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」である。そのため印刷教材の総合評価を高めるためには、説明の分かりやすさと図表や写真を有効利用することが重要であると言える。

さらに(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」及び(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」と各評価項目の相関係数を見たのが次頁表2-4である。

まず、全体的な熱心度(取組姿勢)と科目の理解度、満足度との関係を見ると、熱心度は理解度と0.471、満足度と0.439の相関係数であり、熱心度と理解度・満足度との間の相関が見て取れる。また理解度と満足度の相関係数は0.778と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いということを実証しているものと言える。

次に(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」と各評価項目の相関を見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が相関係数0.691と最も相関が高く、次いで(A-2)「放送授業を十分に視聴した」、さらに全体評価の(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」と(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」との相関が見られる。全体的な熱心度は、印刷教材や放送授業にどれだけ熱心に取り組んだかということだけでなく、授業内容が興味や関心の高まるものであったかどうか、新しい知識が身につく視野が広がるものであったかどうかとも重要な要因になっていることが分かる。

また(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」と各評価項目の相関を見ると、いずれの評価項目とも相関が見て取れる。特に(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」と強い相関が見られる。理解度は、教材の分かりやすさだけでなく、熱心度と同様、授業内容が興味や関心の高まるものであったかどうか、新しい知識が身につく視野が広がるものであったかどうかと関係していることが言える。

(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」と各評価項目の相関係数を見ると、これも各評価項目と相関が見られ、満足度を高める上でいずれの評価項目も影響していることが分かる。なかでも特に相関が強いのは、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)

「新しい知識が身につき視野が広がった」である。満足度を高める上で、放送授業の分かりやすさ、印刷教材の難易度や出来栄え、興味・関心のもてる授業内容、視野が広がるような知識の習得という点が、特に重要な要素となっている。

表 2 - 4 【学部】 取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	(B19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	(B20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)
取組姿勢	(A1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.471	0.439
	(A2)放送授業を十分に視聴した	0.589	0.310	0.288
	(A3)印刷教材を熱心に学習した	0.691	0.422	0.371
授業の難易度・分量	(B1)放送授業の難易度は適切だった	0.400	0.560	0.569
	(B2)放送授業の内容は適切な分量であった	0.368	0.512	0.530
	(B3)印刷教材の難易度は適切だった	0.367	0.598	0.607
	(B4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.344	0.546	0.565
放送授業	(B5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.375	0.558	0.609
	(B6)講師の熱意が十分に伝わった	0.365	0.443	0.526
	(B7)放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.341	0.506	0.573
	(B8)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.299	0.451	0.474
印刷教材	(B9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.336	0.478	0.525
	(B10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.360	0.623	0.642
	(B11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.315	0.496	0.536
	(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.331	0.571	0.646
通信指導・単 位認定試験	(B13)通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.282	0.449	0.500
	(B14)通信指導は学習内容の理解に役立った	0.301	0.485	0.532
	(B15)単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった	0.287	0.525	0.583
全体評価	(B16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.329	0.536	0.576
	(B17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.464	0.653	0.756
	(B18)新しい知識が身につき視野が広がった	0.434	0.623	0.701
	(B19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.471	1.000	0.778
	(B20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.439	0.778	1.000

Ⅱ－２．大学院の分析結果

Ⅱ－２－１．項目平均から見た全体的傾向

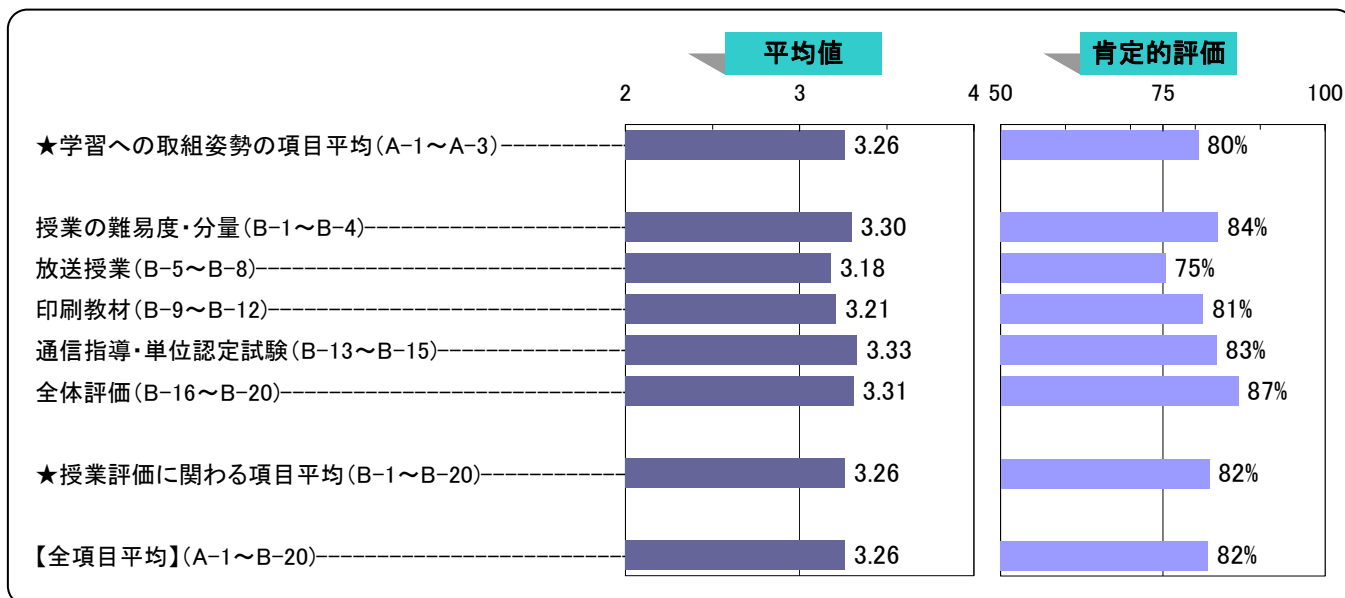
ここからは大学院科目の評価結果を見ていく。大学院の回答者全体について、評価項目の内容ごとにその平均を算出したのが図 2－47 である。まずこれによって評価の全体的傾向を把握しておくこととする。

項目平均を全体的に見ると、放送授業は学部とほぼ同じ評価だが、それ以外はいずれも学部より評価が高くなっている。肯定的評価は、放送授業を除いて 80%以上と高く、学部生よりも取組姿勢がよく、授業評価も高いのが特徴である。

『学習への取組姿勢の項目平均』は平均値 3.26、肯定的評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）80%であり、『授業評価に関わる項目平均』も平均値 3.26、肯定的評価 82%と高い値を示している。学部と同様、熱心に学習に取り組んだと同時に、授業に対する評価も高いと言える。

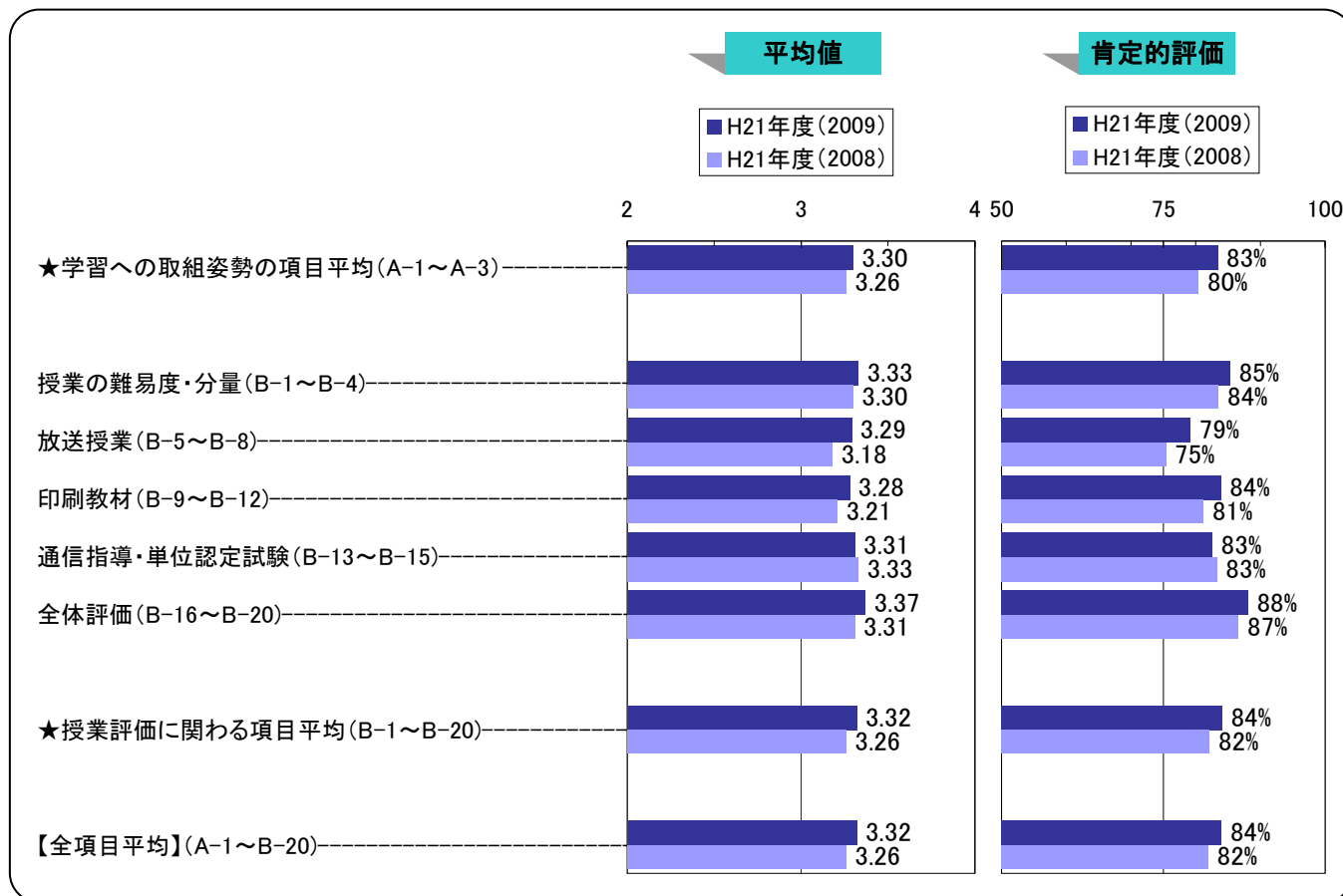
『授業評価に関わる項目平均』を内容ごとにみると、『全体評価』は平均値 3.31、肯定的評価 87%と評価が高くなっている。逆に『放送授業』は肯定的評価をしている人が、他の内容より少なく、今後の改善ポイントと言える。

図 2－47 【大学院】項目平均による全体的傾向



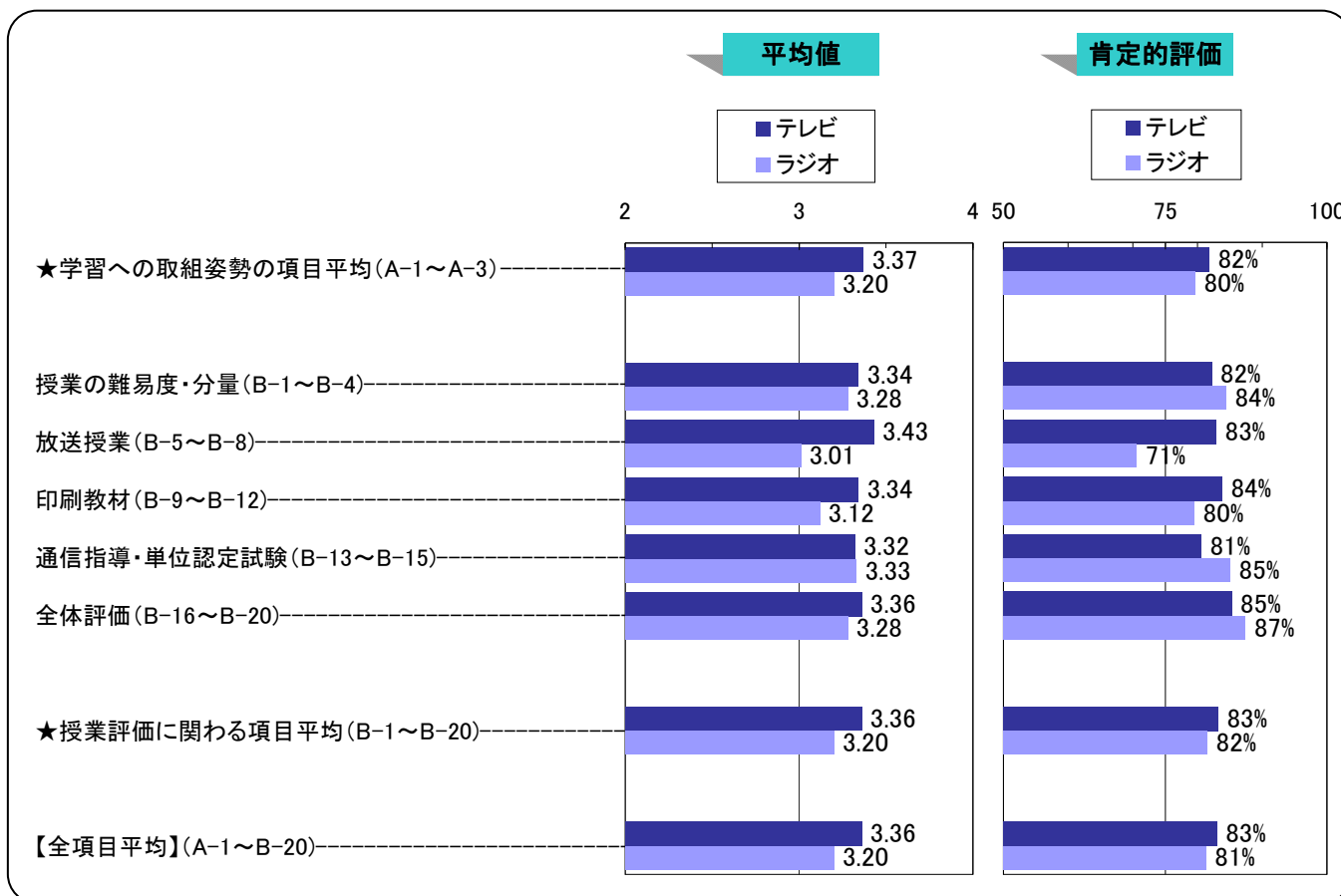
項目平均を科目の開設年度で比較してみると（図2-48）、2009年度新規開設科目は、『通信指導・単位認定試験』を除いて、2008年度新規開設科目に比べいずれの内容でも僅かずつ評価が上がっている。特に『授業評価』の平均が最も向上しており、改善の効果が見られる。

図2-48 【大学院】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



メディア別に2008年度新規開設科目の評価項目の平均を見ると(図2-49)、『学習への取組姿勢の項目平均』、『授業評価に関わる項目平均』ともテレビ科目の方が、評価が高くなっている。さらに『授業評価に関わる項目平均』の内容ごとに見ると、特に『放送授業』の評価はラジオ科目の評価が低く、テレビ科目との差が大きくなっている。『印刷教材』についても、テレビ科目の方が、評価が高いが、『授業の難易度・分量』、『通信指導・単位認定試験』、『全体評価』は、肯定的評価ではラジオ科目の方が、評価が高い。

図2-49 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向



メディア別の項目平均を科目の開設年度で比較すると（図2-50）、テレビ科目は、『学習への取組姿勢の項目平均』、『授業の難易度・分量』、『全体評価』の肯定的評価が向上しているが、それ以外の変化は少ない。

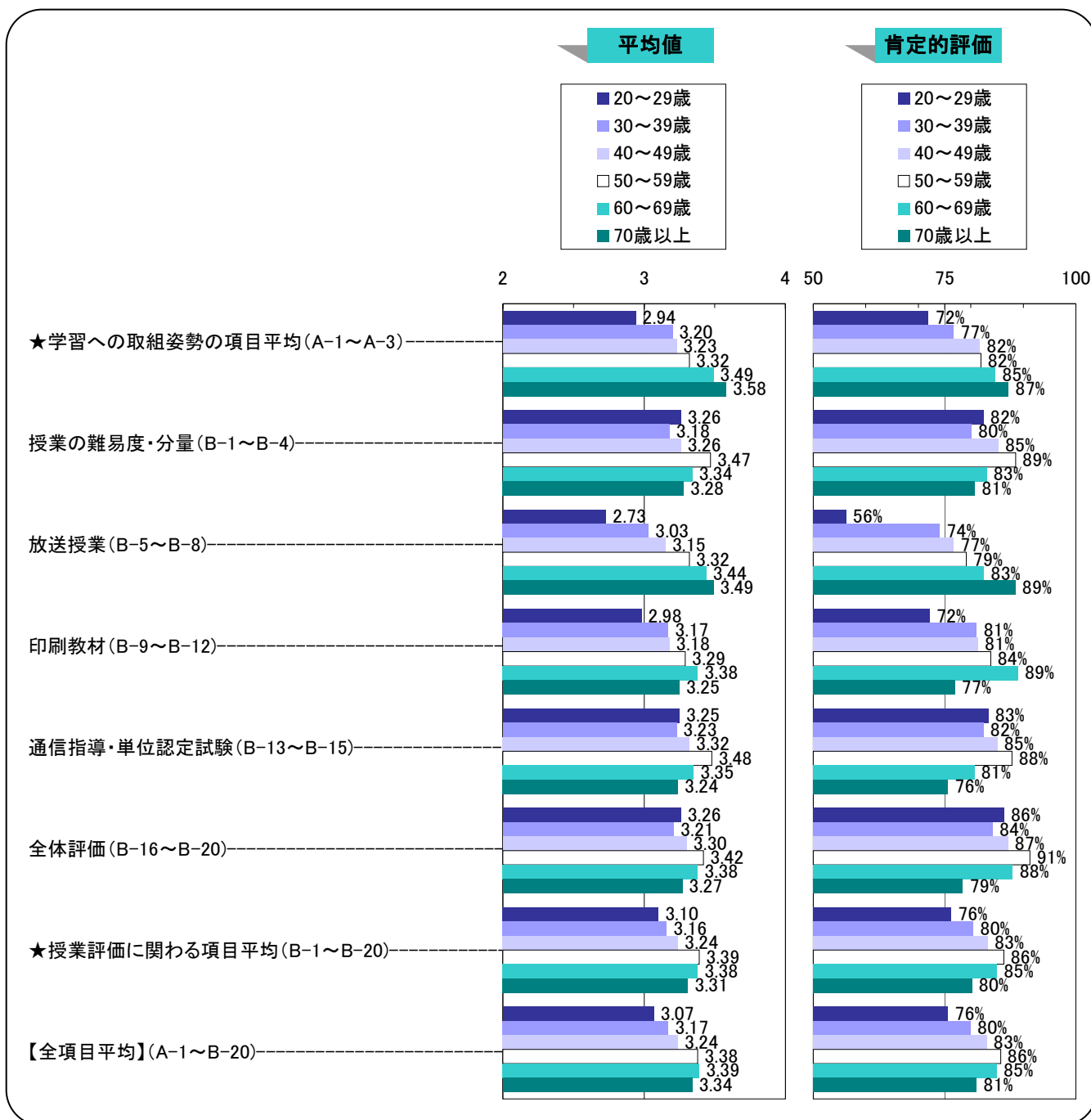
一方、ラジオ科目では、『学習への取組姿勢の項目平均』や、評価の低い『放送授業』、『印刷教材』の評価が向上している。

図2-50 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向（開設年度比較）



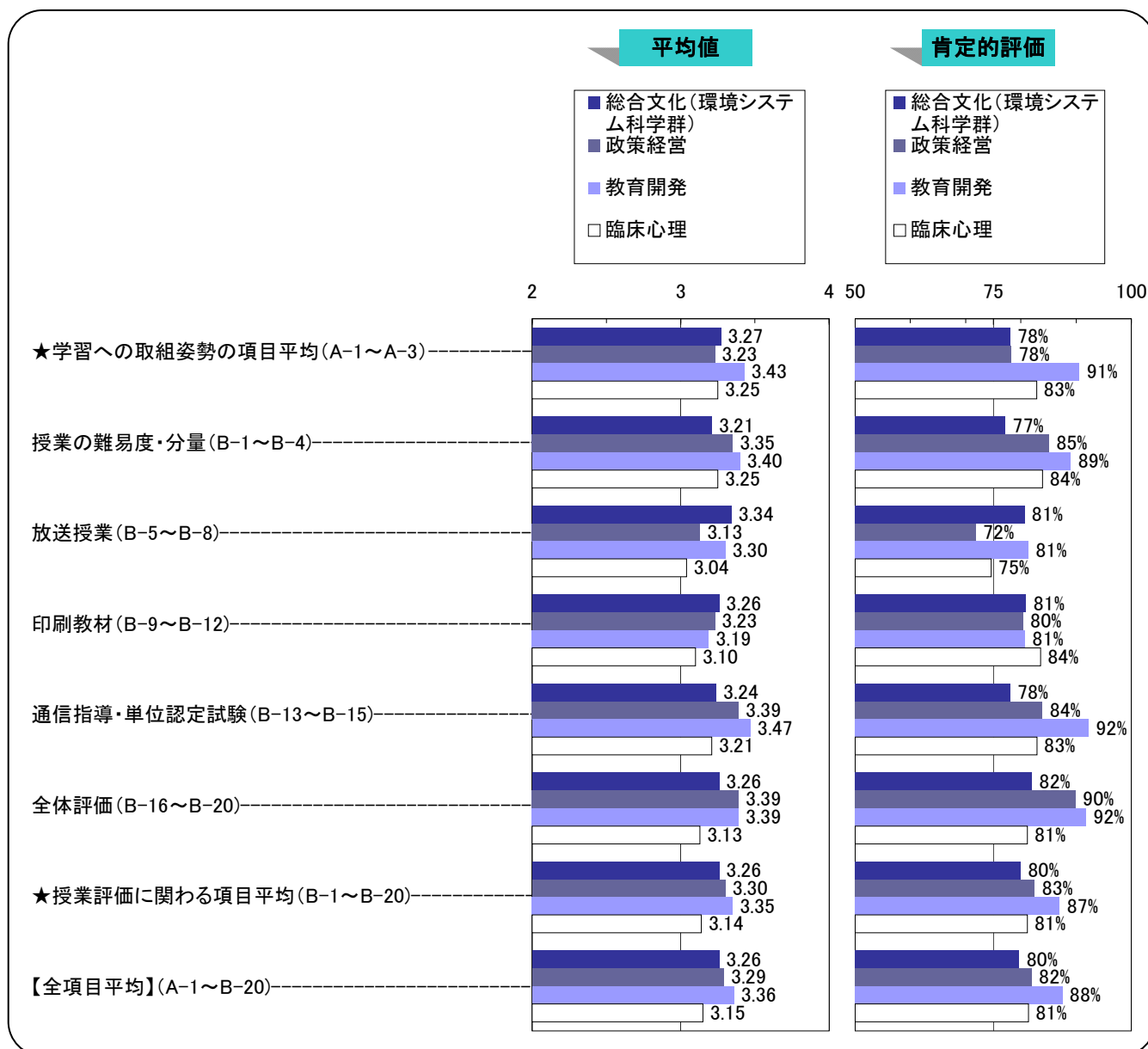
回答者の年齢階層別に 2008 年度新規開設科目の項目平均を見ると（図 2-5 1）、『学習への取組姿勢の項目平均』は年配層ほど値が高くなっているが、『授業評価に関わる項目平均』は 50 歳代が最も評価が高く、それより若年層あるいは高齢者になるにしたがって評価が低くなっている。放送授業の内容ごとの項目平均では、『放送授業』は年配層ほど評価が高くなっているが、『授業の難易度・分量』、『通信指導・単位認定試験』、『全体評価』は 50 歳代の評価が最も高い分布となっている。学部とはやや異なる評価分布となっており、取組姿勢と授業評価の関係が学部に比べやや薄い可能性がある。

図 2-5 1 【大学院】項目平均による年齢階層別全体的傾向



科目の所属プログラム別に項目平均を見ると（図2-52）、『学習への取組姿勢の項目平均』、『授業評価に関わる項目平均』とも「教育心理」の評価が高くなっている。ただし、今回の調査対象は、各プログラムの対象科目数が少なく（1科目のプログラムが2つもある）、プログラムの評価というより、科目の評価という性格が強く出ているため、プログラム別の分析は参考にとどめる必要がある。

図2-52 【大学院】項目平均による所属プログラム別全体的傾向

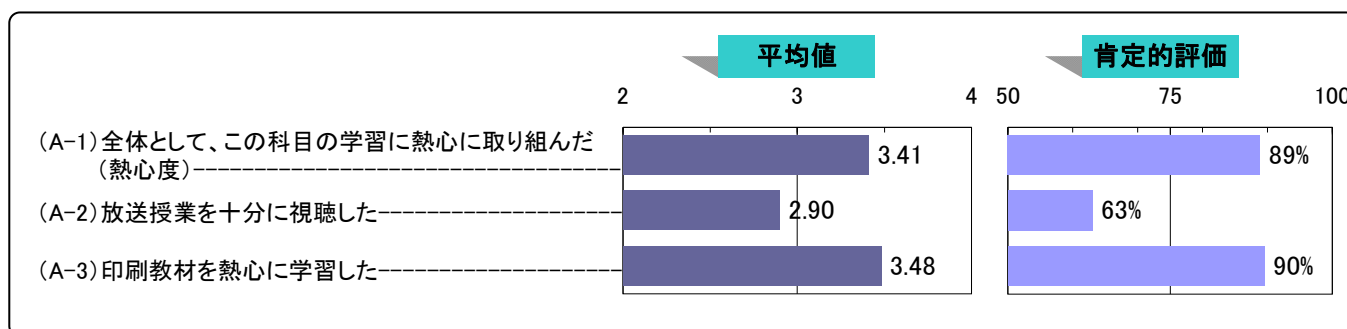


Ⅱ－2－2. 学習への取組姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

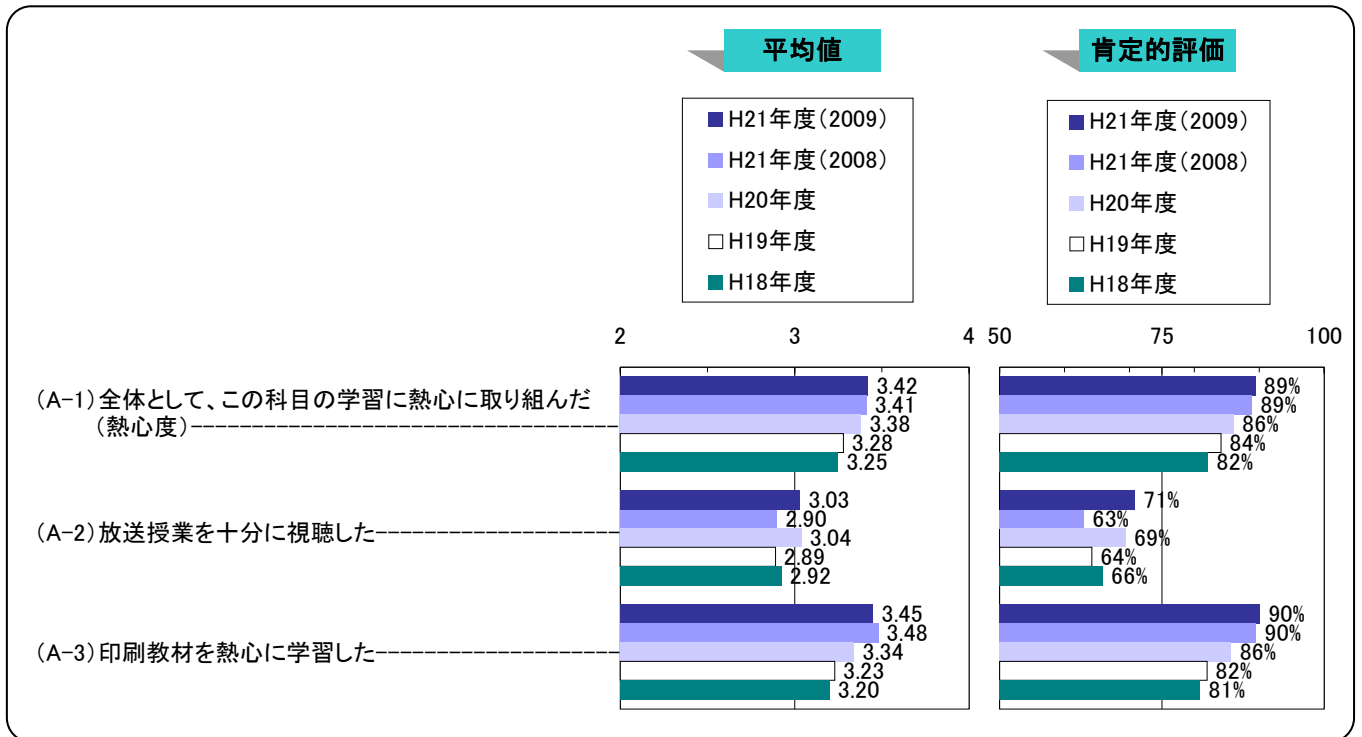
学習への取組姿勢（図2－53）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、平均値 3.41、肯定的評価 89%と熱心に学習されている。同様に (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」も平均値 3.48、肯定的評価 90%と非常に高い。しかしこれらに比べると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、平均値 2.90、肯定的評価 63%と低くなっている。大学院は学部より全体としては熱心に学習に取り組んでいるものの、放送授業に関しては学部と同様、十分に視聴したという人の割合は低く、学習には熱心に取り組んでいるものの、印刷教材中心の学習となっている。

図2－53 【大学院】回答者全体の取組姿勢



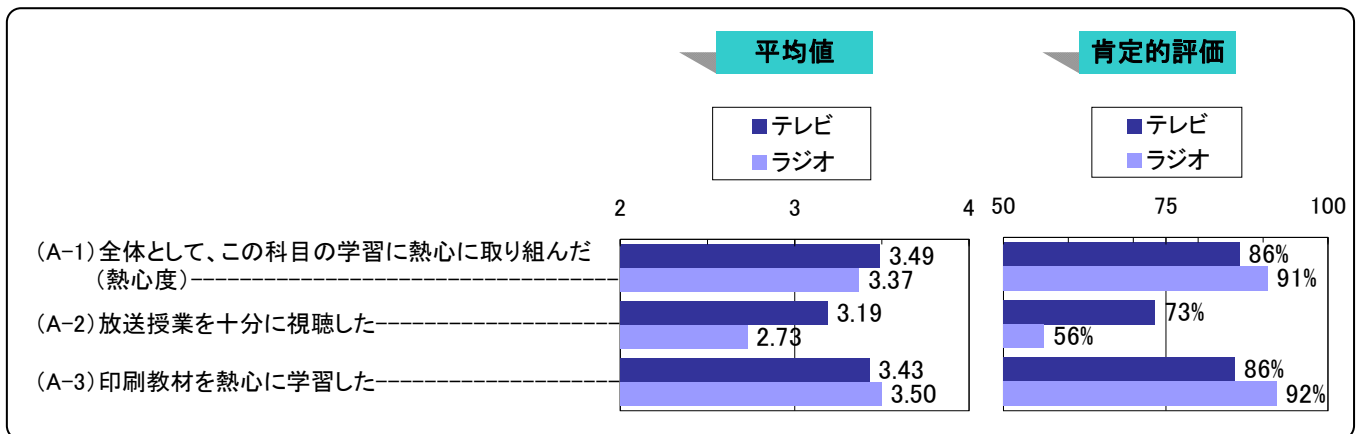
学習への取組姿勢を時系列で見ると（次頁図2－54）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は年々向上している。(A-2)「放送授業を十分に視聴した」も年によって変動はあるものの、今年度調査の2009年新規開設科目ではまずまずの値となっている。取組姿勢は授業の出来栄によっても変化するが、調査年度によって上下動があるのは、大学院の調査対象の科目数が少ないため、特定の科目の影響が大きいことも影響していると考えられる。

図 2 - 5 4 【大学院】回答者全体の取組姿勢（時系列）



メディア別の取組姿勢を見ると（図 2 - 5 5）、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」ではラジオ科目が平均値 2.73、肯定的評価 56%と低くなっている。テレビ科目はまずまずの視聴度と言えるが、今後は授業の改善によって、ラジオ科目の放送授業の視聴を上げていく必要がある。 (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は、ラジオ科目の方がややよくなっている。

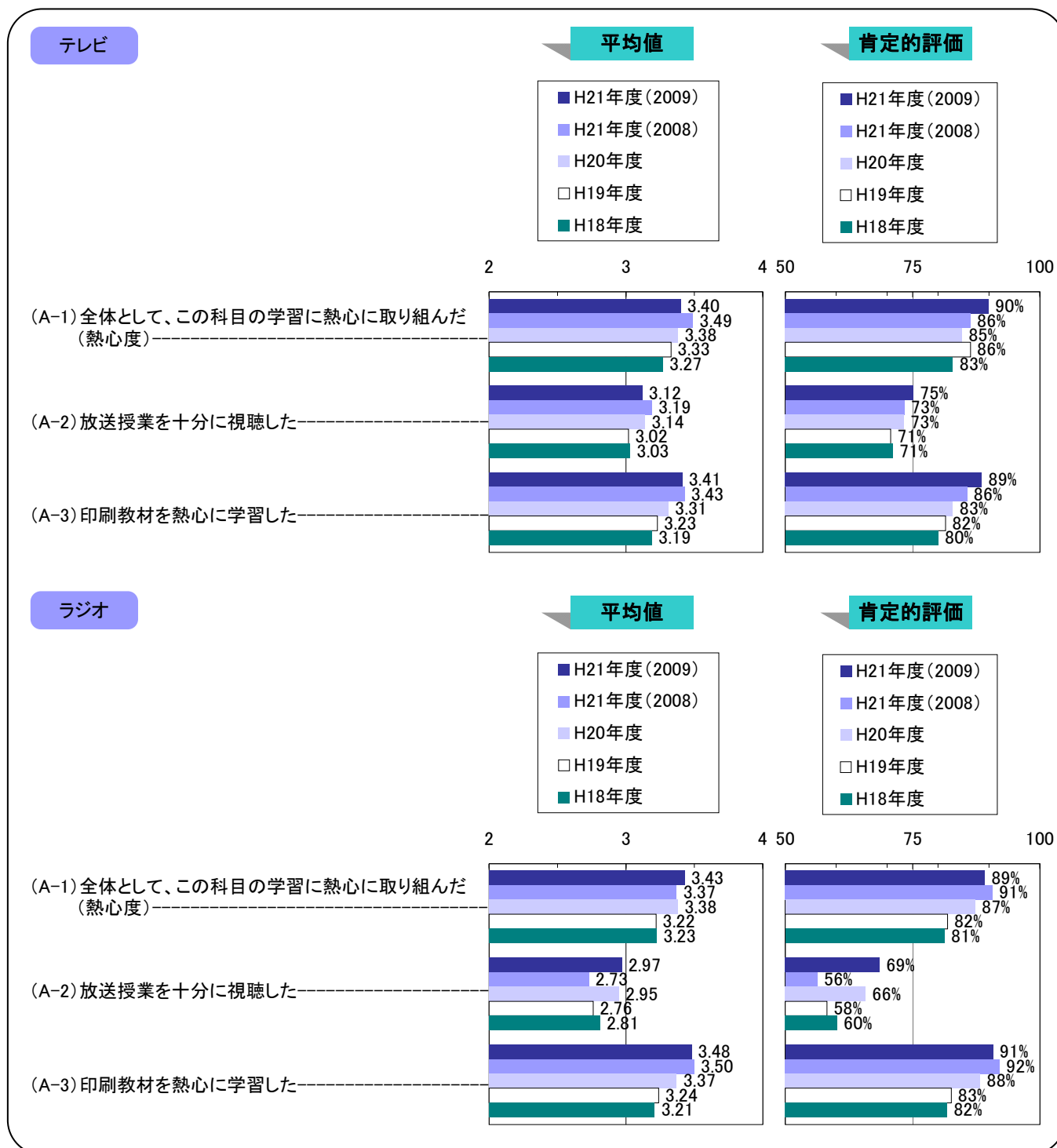
図 2 - 5 5 【大学院】メディア別の取組姿勢



メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図2-56）、全体的にはテレビ科目、ラジオ科目とも、年々取組姿勢が良くなる傾向にある。

ラジオ科目の（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は、本調査（2008年度新規開設科目）の取組姿勢が、他の年度に比べても悪くなっている。また、テレビ科目の（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は、年々向上してはいるが、（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」や（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」に比べると向上度合いは少なく、さらに視聴を伸ばす工夫が必要と言える。

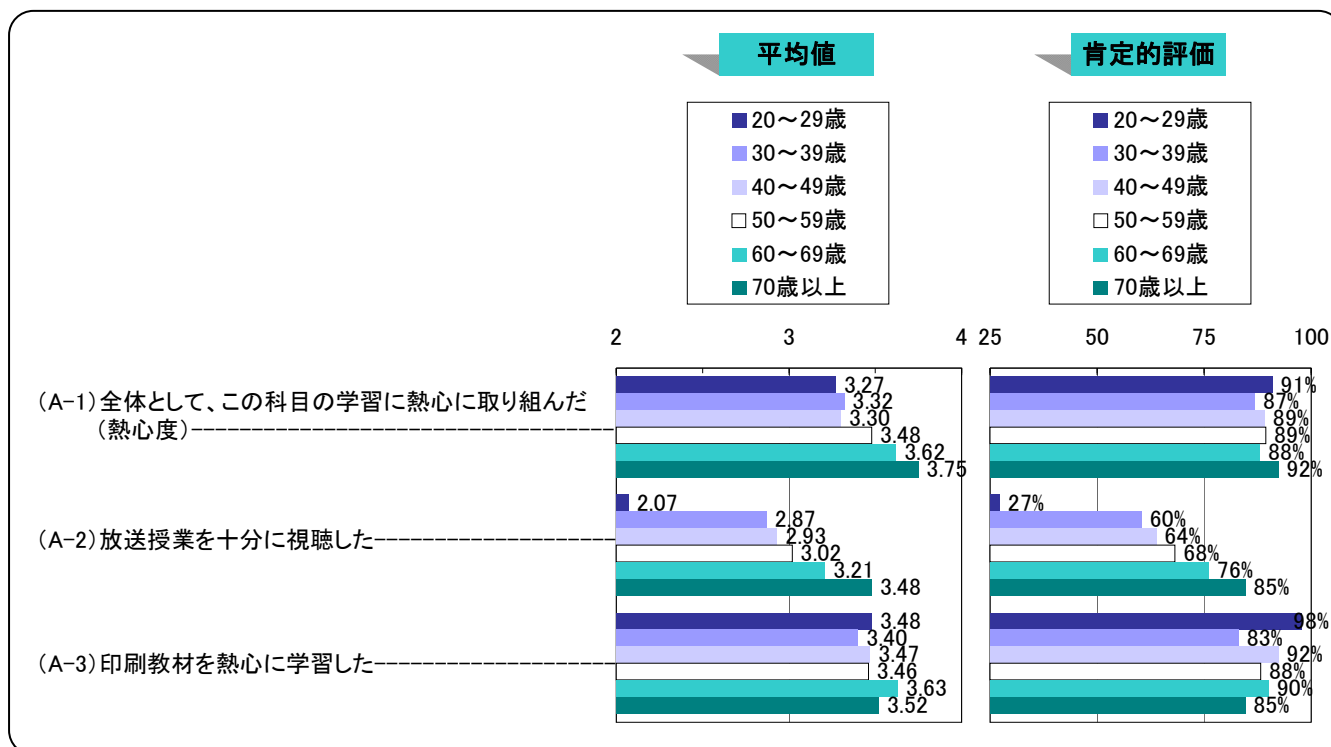
図2-56 【大学院】メディア別の取組姿勢（時系列）



年齢階層別に取り組姿勢を見ると（図2-57）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、年配層ほど熱心に取り組んでいるが、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は、年齢階層による差は少ない。

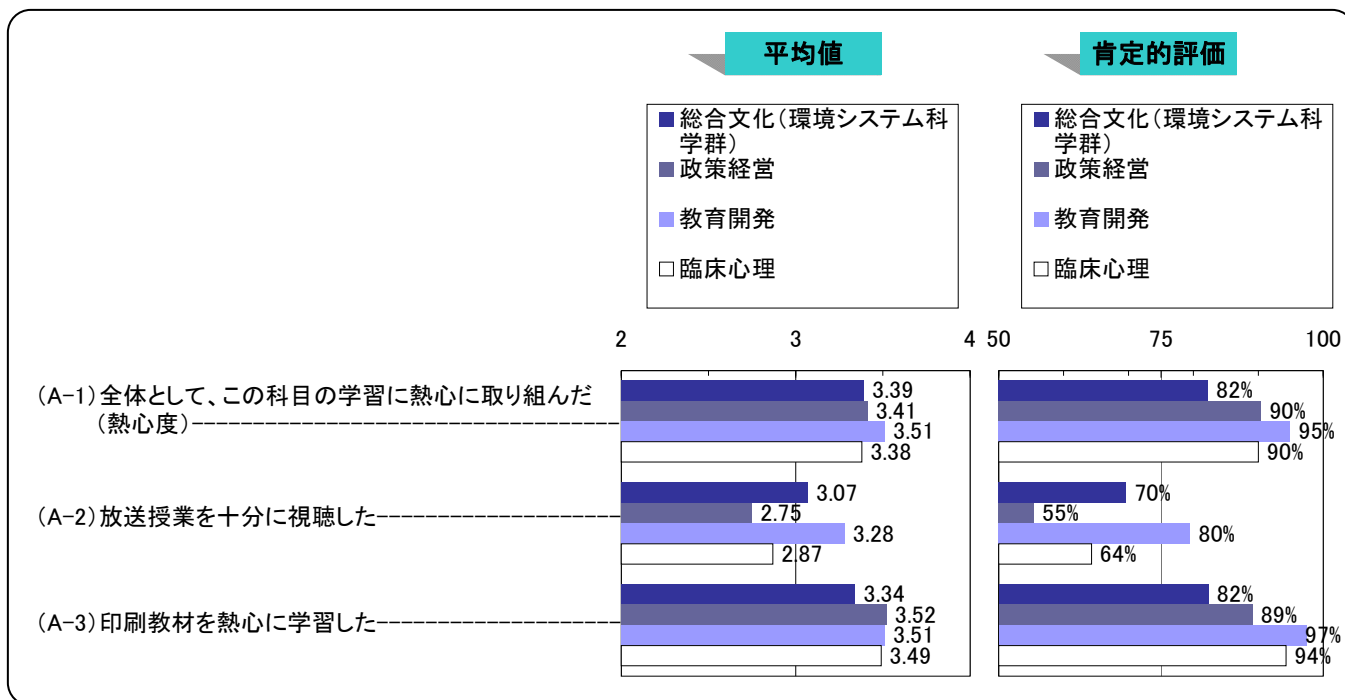
20歳代は、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」が極めて少なく、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が非常に多くなっており、ほとんどが印刷教材だけの学習となっている。

図2-57 【大学院】年齢階層別に取り組姿勢



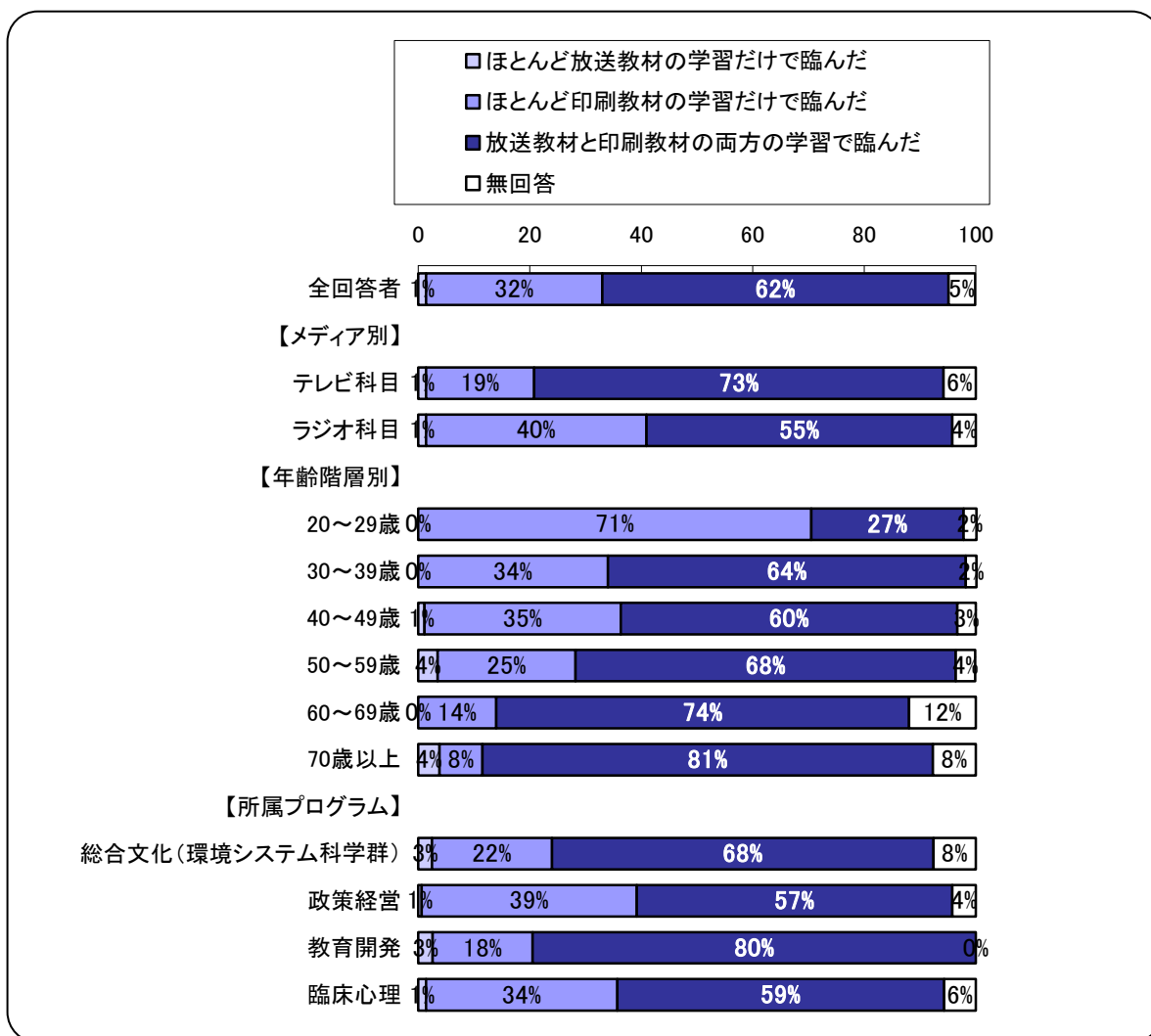
所属プログラム別に取り組姿勢を見ると（図2-58）、「教育心理」がいずれの項目も高い値となっている。（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は、「政策経営」と「臨床心理」が特に少ない。

図2-58 【大学院】所属プログラム別の取組姿勢



単位認定のための学習方法（図2-59）は、全体では「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が62%を占め、次いで「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が32%となっている。テレビ科目では「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が73%と多いが、ラジオ科目では55%にとどまっている。さらに年齢階層別の20歳代は「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が27%と非常に少なく、印刷教材の学習だけで臨んでいる人が多い。

図2-59 【大学院】単位認定のための学習方法



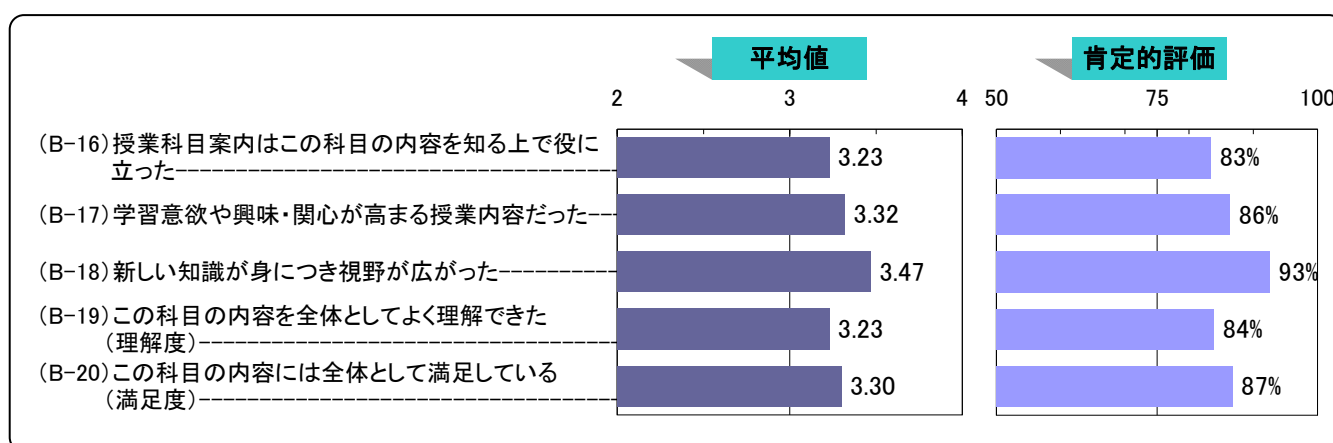
Ⅱ－２－３．大学院の授業評価

(1) 全体評価

ここからは大学院の授業評価について、評価項目ごとに見ていくこととする。

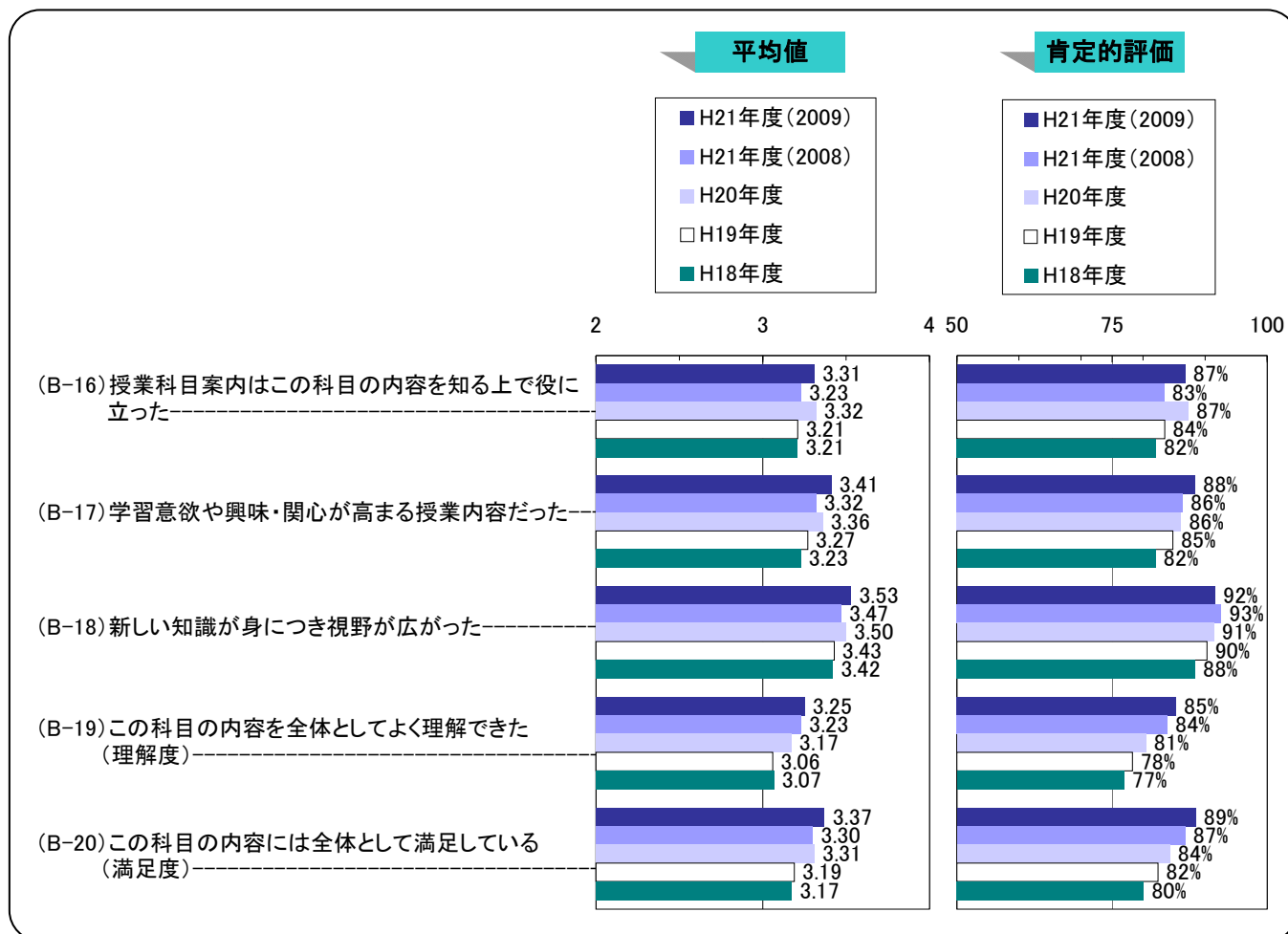
まず全体評価を見ると（図２－６０）、いずれの項目も高い評価となっている。特に（B-18）「新しい知識が身につき視野が広がった」は、平均値 3.47、肯定的評価 93%と非常に高くなっている。（B-20）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」も平均値 3.30、肯定的評価 87%と高い満足度を示している。今後は、学習意欲や興味・関心が高まる授業を増やし、理解度を高めるとともに、さらに満足度を上げていくことが大切であろう。

図 2 - 6 0 【大学院】回答者全体の全体評価



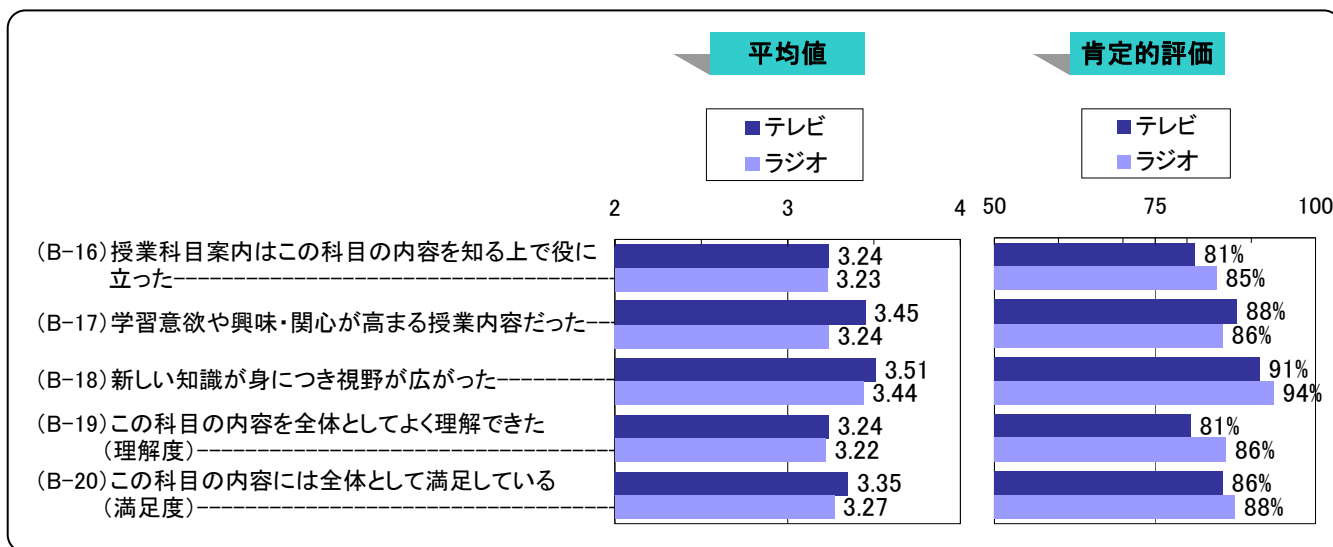
全体評価を時系列で見ると（図2-61）、いずれの項目も評価が上昇傾向にあると言える。特に（B-19）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」と（B-20）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」の上昇度合いが大きい。

図2-61 【大学院】回答者全体の全体評価（時系列）



メディア別に全体評価を見ると（図 2-6 2）、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は、テレビ科目の方がやや高い評価となっている。(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、平均値ではややテレビ科目の方が評価が高いが、肯定的評価ではラジオ科目の方が多くなっている。

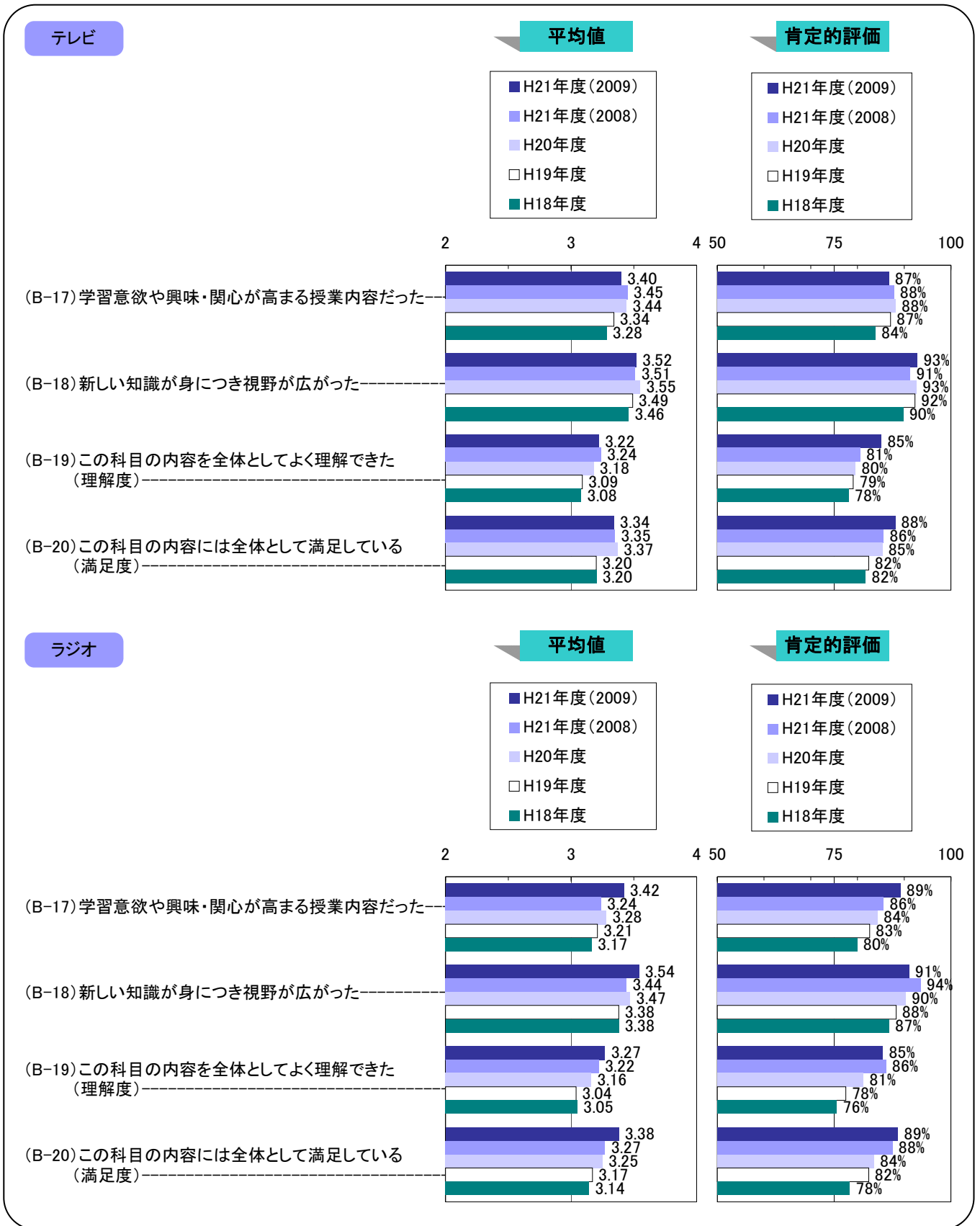
図 2-6 2 【大学院】メディア別の全体評価



メディア別の全体評価を時系列で見ると（次頁図 2-6 3）、テレビ科目の評価は、いずれの項目も平成 20 年度調査（2007 年新規開設科目）以降、ほぼ横ばい状態であり、やや伸び悩んでいる。

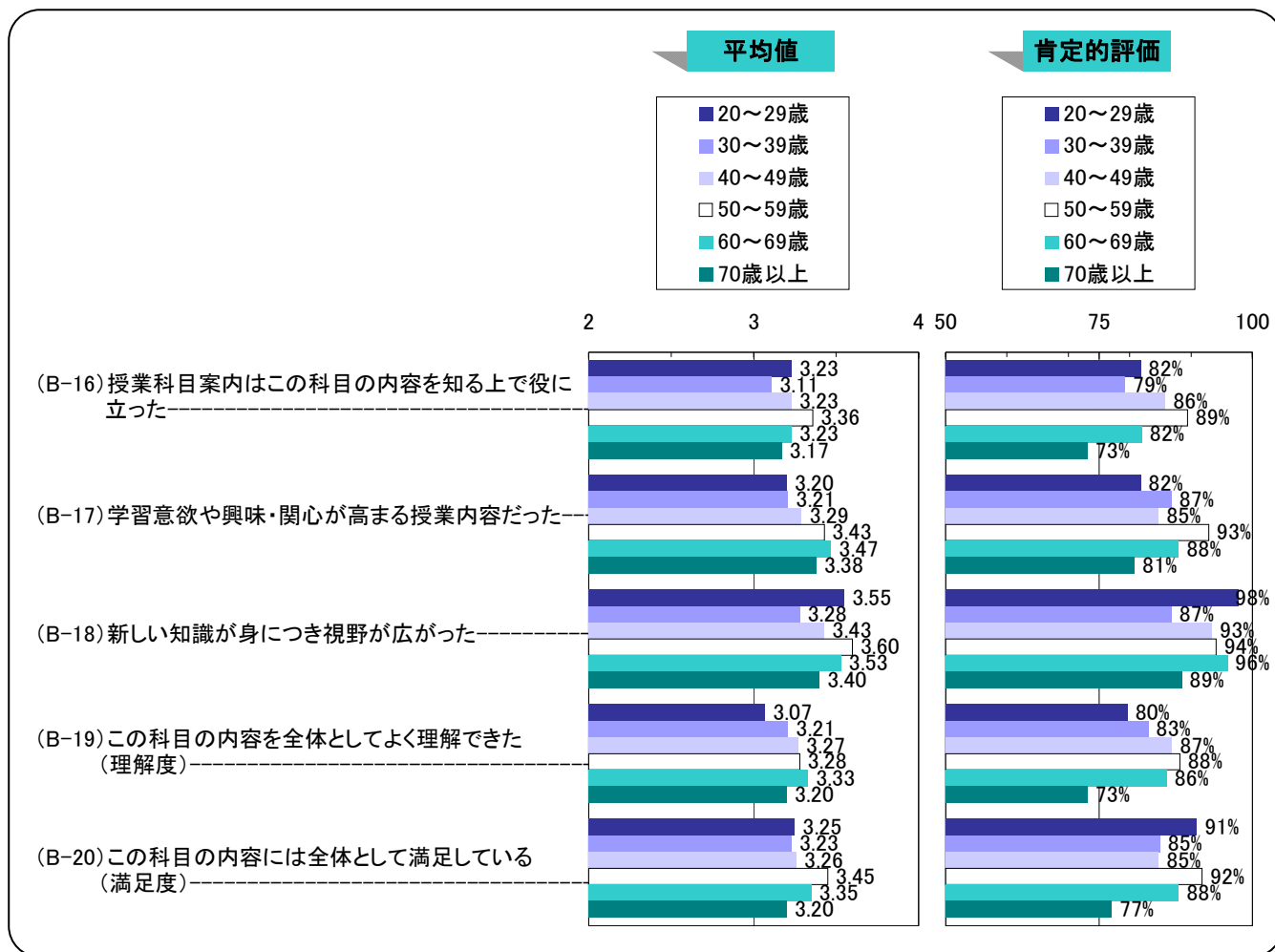
一方ラジオ科目は、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」、(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」で、年々評価が上昇している。(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、もともと評価が非常に高いため、やや横ばい傾向にある。

図 2 - 6 3 【大学院】メディア別の全体評価（時系列）



年齢階層別に全体評価を見ると（図2-64）、全体的に50歳代の評価が最も高く、若年層および高齢者でやや低くなる傾向にある。ただ（B-18）「新しい知識が身につく視野が広がった」は、20歳代も評価が高いのが特徴である。また学部とは異なり70歳以上は、（B-17）「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」と（B-18）「新しい知識が身につく視野が広がった」は比較的评价が高いが、理解度、満足度はやや低く、学部より高度な内容のため、理解度に課題があると推測される。

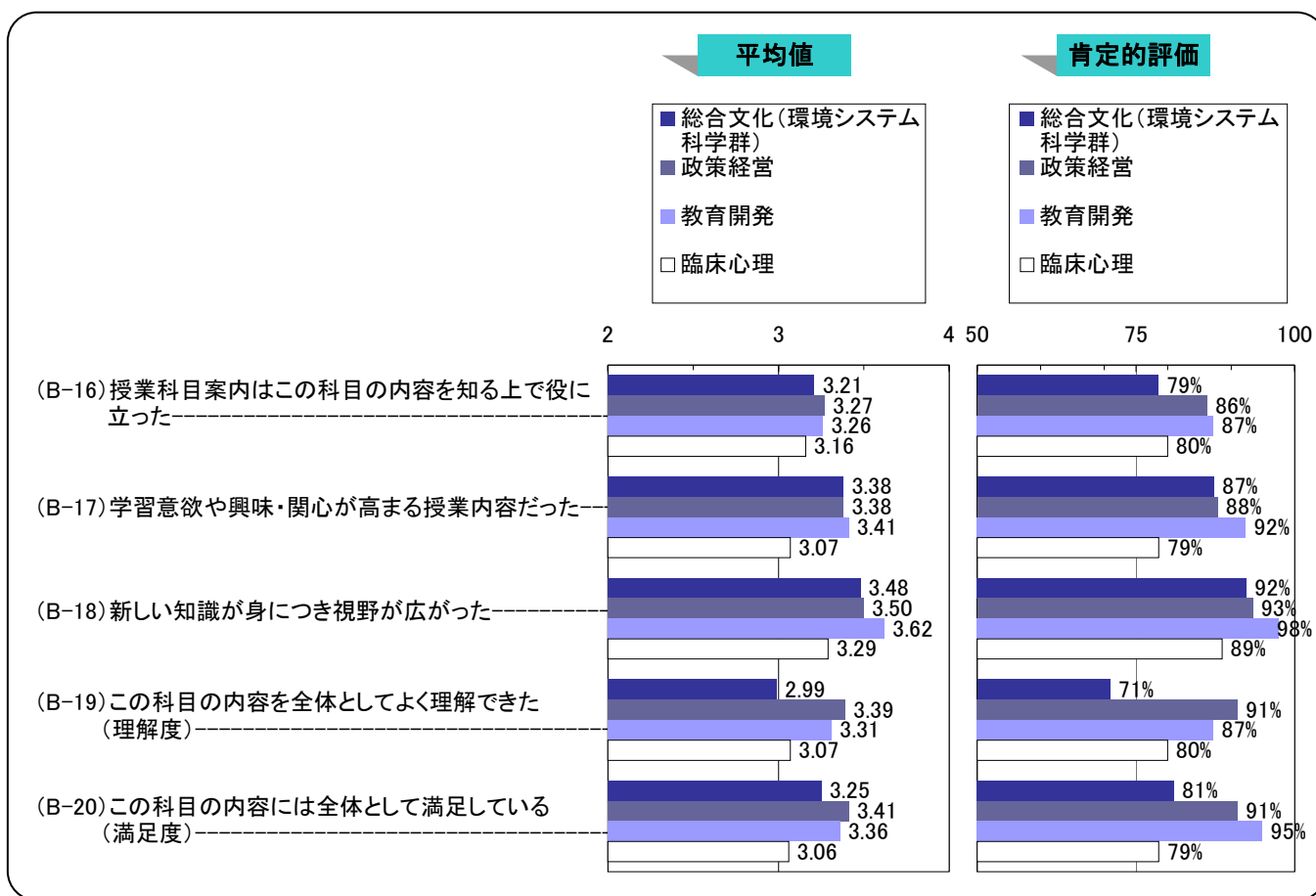
図2-64 【大学院】年齢階層別の全体評価



所属プログラム別に全体評価を見ると（図2-65）、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」と(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、「総合文化（環境システム科学群）」「政策経営」「教育開発」の評価が高く、「臨床心理」はこれらに比べ評価が低い。

(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」と(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は、「政策経営」と「教育開発」の評価が高いものの、「総合文化（環境システム科学群）」と「臨床心理」の評価が相対的に低い。

図2-65 【大学院】所属プログラム別の全体評価

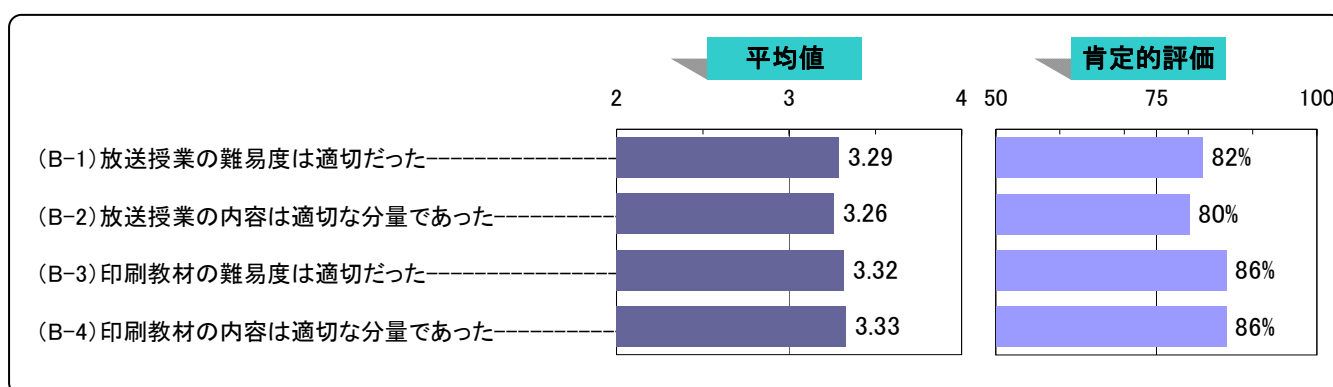


(2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について、評価項目ごとに見ていく。

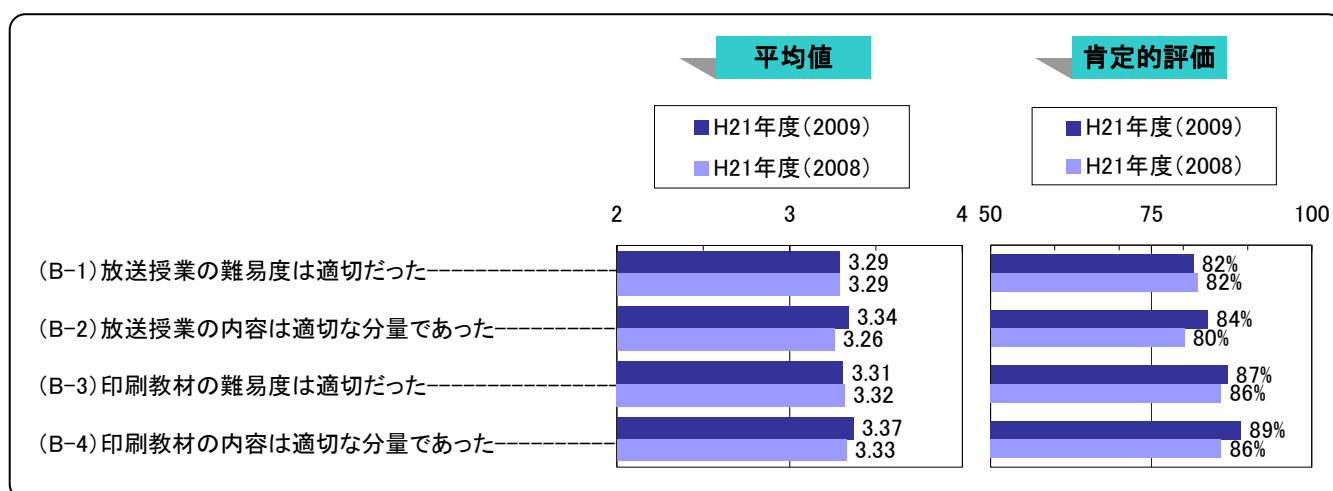
授業の難易度・分量の評価は（図2-66）、いずれも高い評価となっている。ただ、印刷教材の評価に比べると放送授業の評価は難易度・分量ともやや低く、改善が求められる。

図2-66 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価



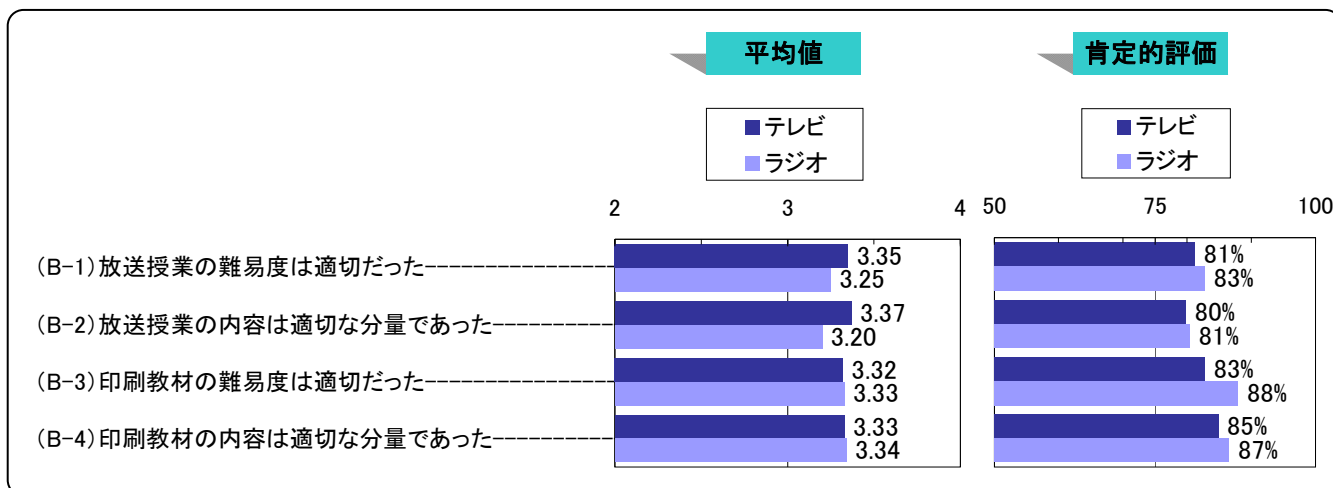
授業の難易度・分量の評価を開設年度で比較すると（図2-67）、放送授業、印刷教材とも分量に関しては評価がやや向上しているが、難易度はほぼ横ばいである。

図2-67 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図2-68）、放送授業は難易度・分量とも平均値はテレビ科目の方がやや高い。印刷教材の難易度は逆にラジオ科目の方がやや評価が高くなっている。

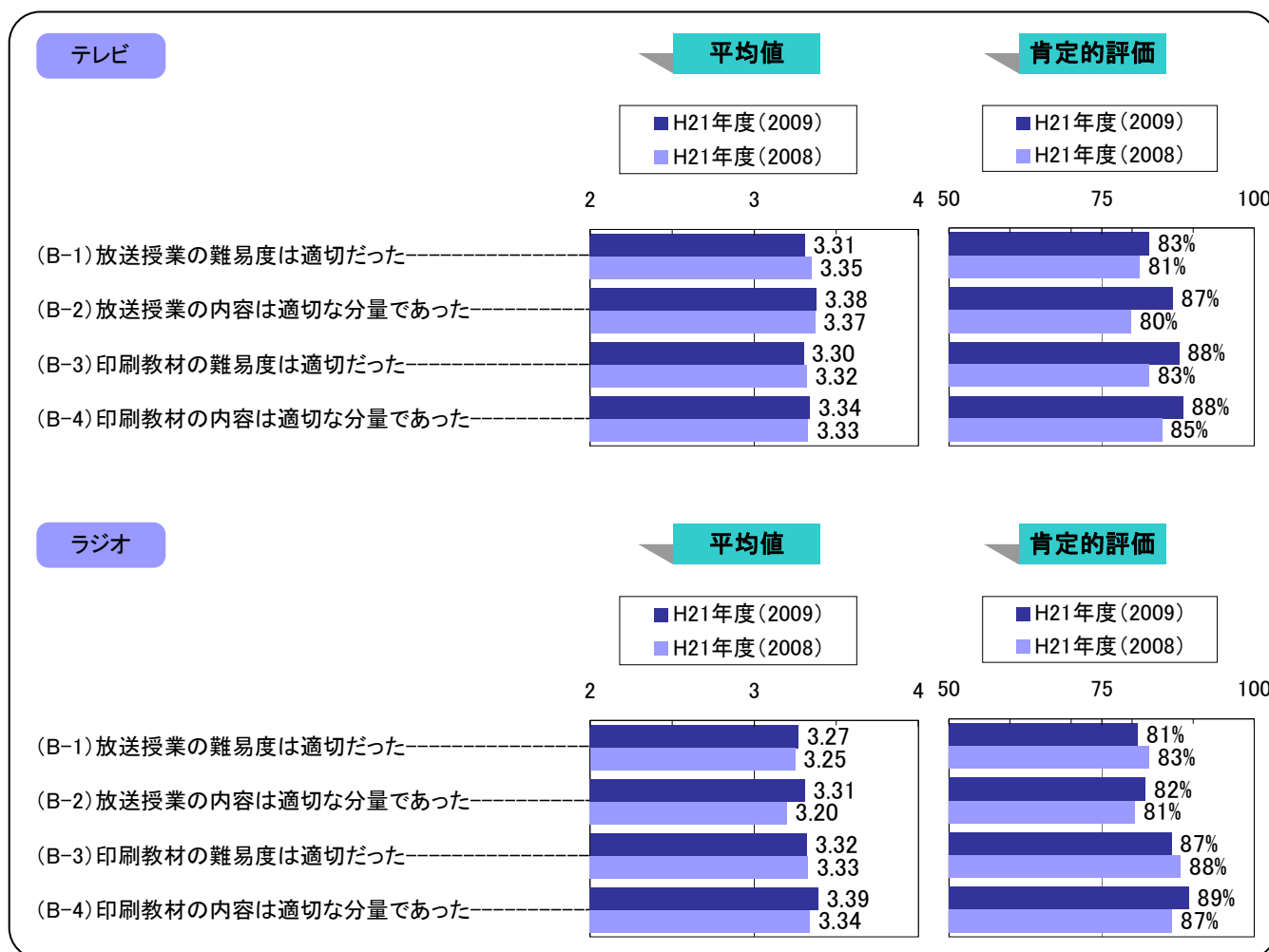
図2-68 【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると（図2-69）、テレビ科目は平均値ではほとんど変化がないが、肯定的評価ではいずれも評価が向上している。

ラジオ科目は、放送授業、印刷教材とも分量は評価が若干上がっているが、難易度はほぼ横ばいである。

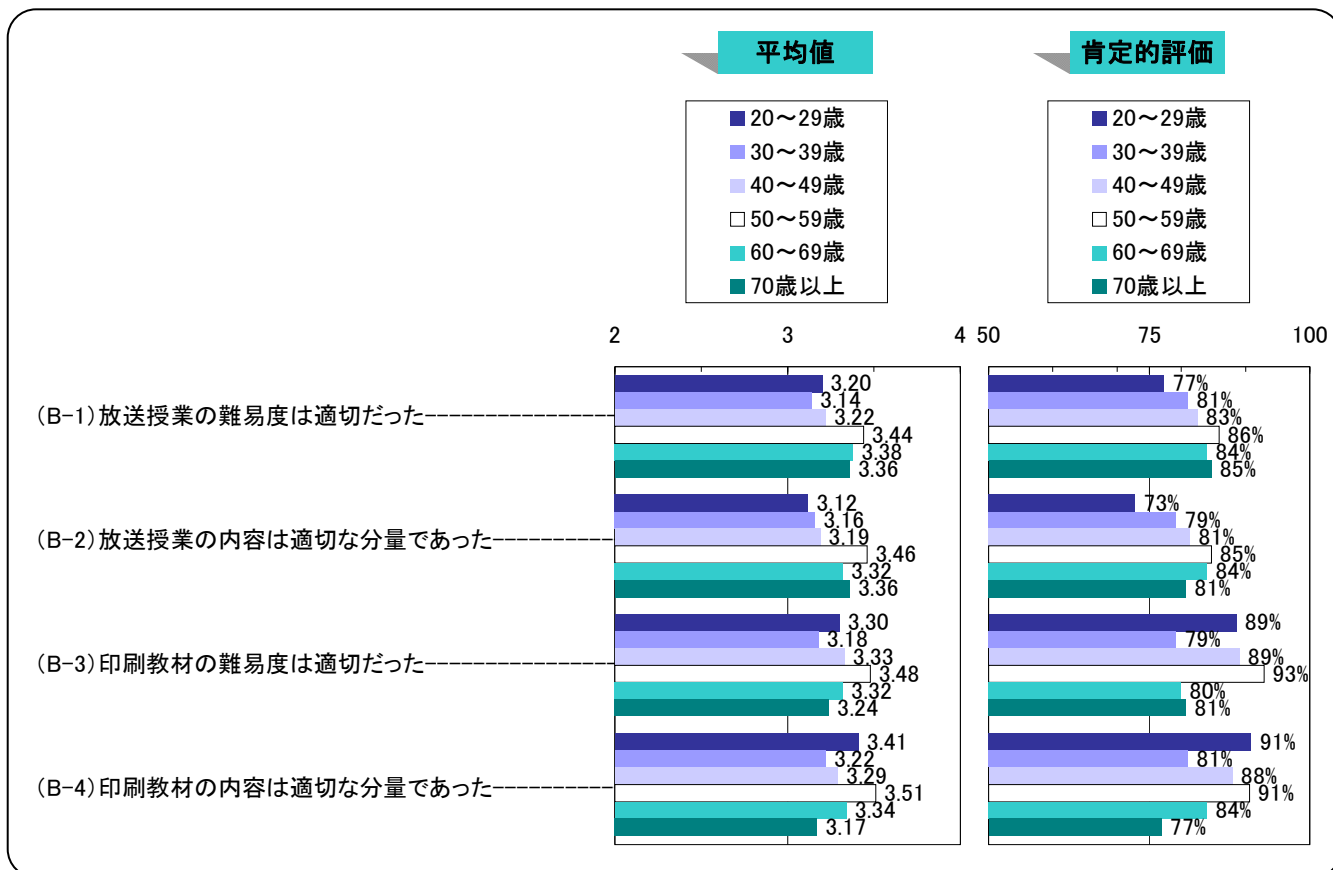
図2-69 【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-70）、放送授業の難易度と分量は50歳代の評価が最も高く、若年層ほど評価が低い。

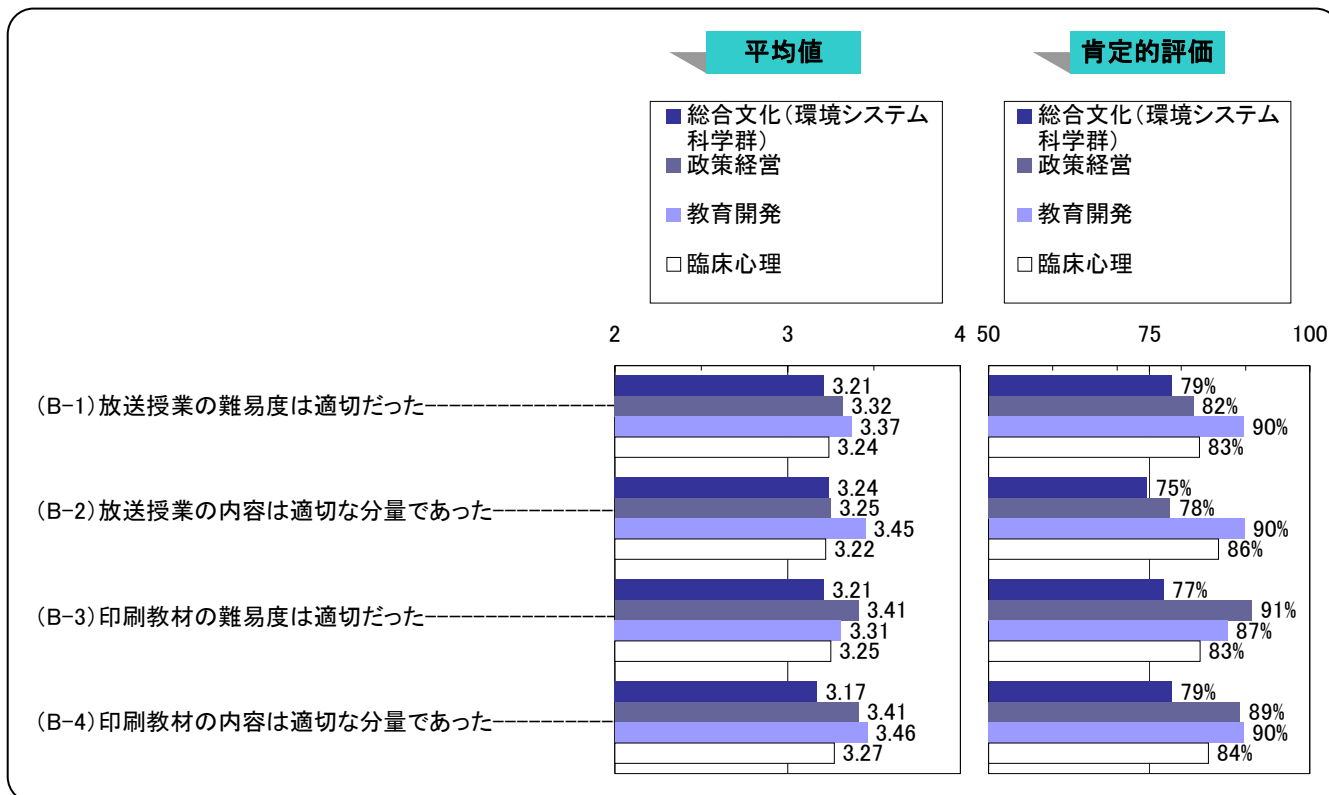
印刷教材の難易度と分量は、50歳代と20歳代、さらに40歳代の評価が高い。

図2-70 【大学院】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属プログラム別に授業の難易度・分量を見ると（図 2-71）、放送授業の難易度と分量は「教育開発」の評価が非常に高い。印刷教材の難易度と分量は「政策経営」および「教育開発」で評価が高くなっている。

図 2-71 【大学院】所属プログラム別の授業難易度・分量の評価

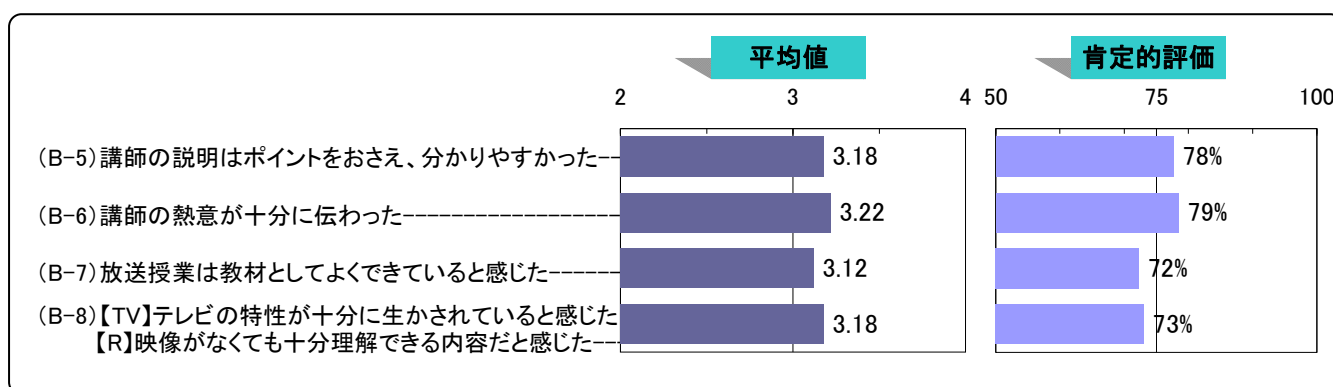


(3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていく。

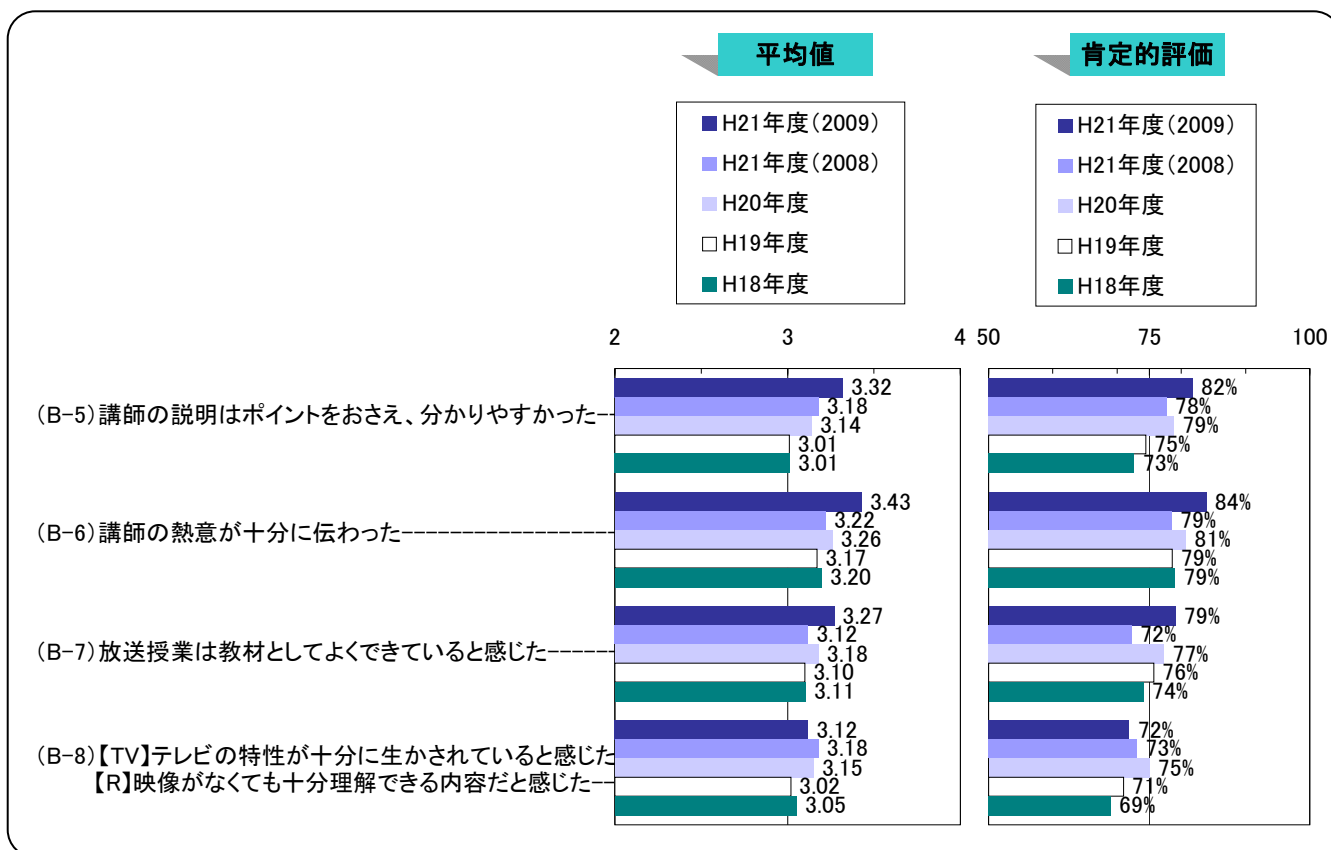
放送授業の評価は他の評価項目に比べるとあまり高くないものの(図2-72)、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」は、比較的高い評価となっている。ただ放送授業の総合評価とも言える(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、平均値 3.12、肯定的評価 72%にとどまっている。また、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」も評価が非常に高いとは言えず、改善が求められるところである。

図2-72 【大学院】回答者全体の放送授業の評価



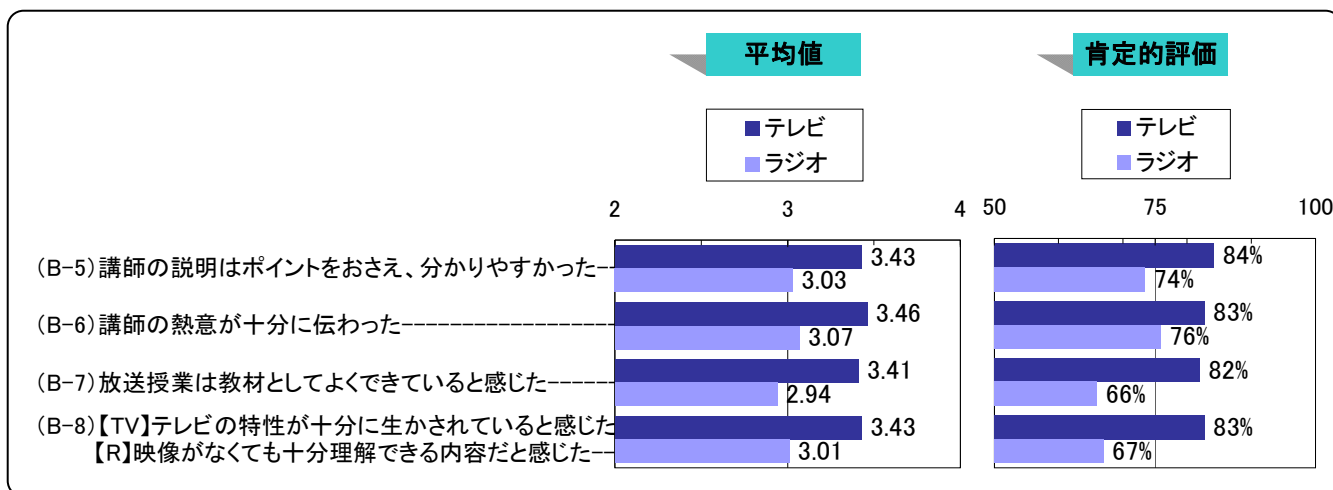
放送授業の評価を時系列で見ると（図2-73）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」は、平成21年度調査（2009年新規開設科目）において、評価が上がり、それに伴い、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」も評価が上がっている。しかし、(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、評価があまり向上しておらず、さらなる工夫が必要である。

図2-73 【大学院】回答者全体の放送授業の評価（時系列）



メディア別に放送授業の評価を見ると（図2-74）、テレビ科目は高い評価を得ているものの、ラジオ科目の評価が低くなっている。特に（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」と（B-8）「【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の評価が低く、講師の説明方法や熱意だけでなく、映像がなくても理解できる工夫が求められている。

図2-74 【大学院】メディア別の放送授業の評価



メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると（次頁図2-75）、テレビ科目は、平均値では僅かずつではあるが評価が上昇傾向にあるが、肯定的評価では平成20年度調査（2007年新規開設科目）以降、やや伸び悩んでいる。

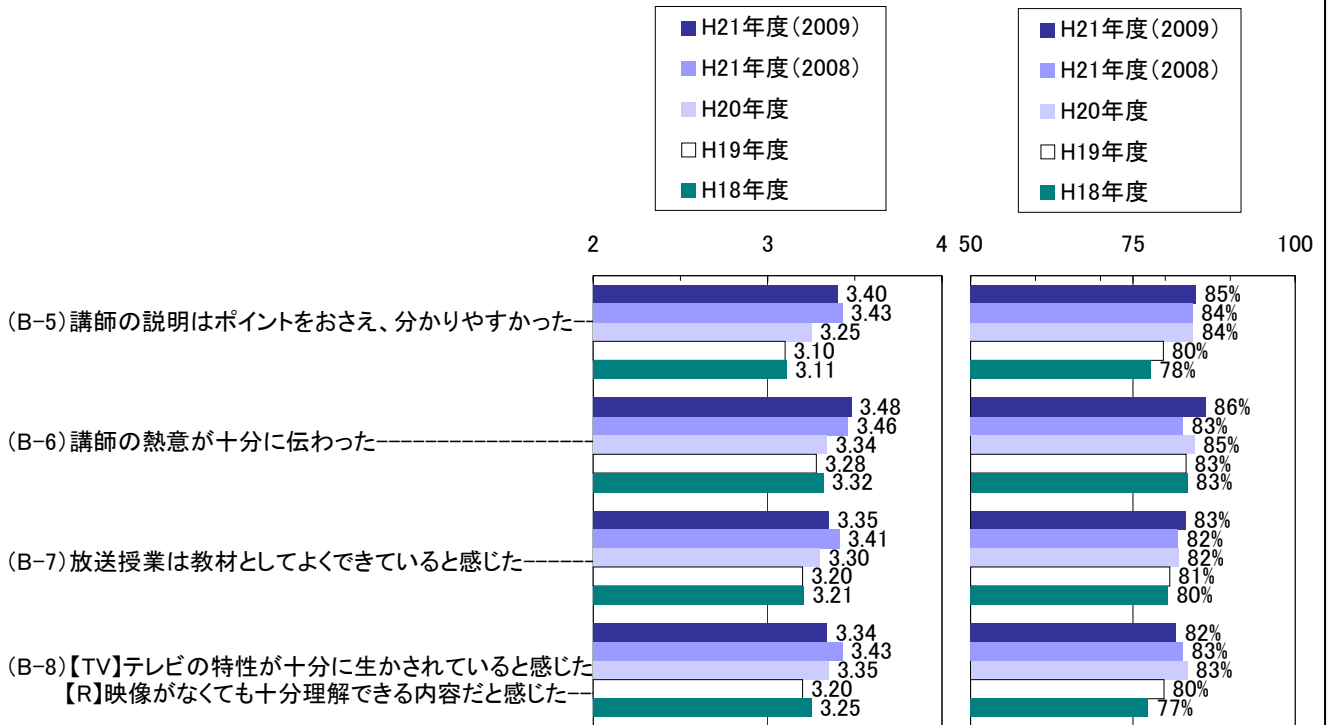
ラジオ科目は、（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、今年度調査（2009年度新規開設科目）で大きく評価が上昇している。しかし（B-8）「【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、平成20年度調査（2007年新規開設科目）以降、評価が低いまま、ほぼ横ばい状態となっている。内容が高度であればあるほど音声だけの説明では限度があると言えるが、改善の努力をとめるべきではなかろう。

図 2 - 7 5 【大学院】メディア別の放送授業の評価（時系列）

テレビ

平均値

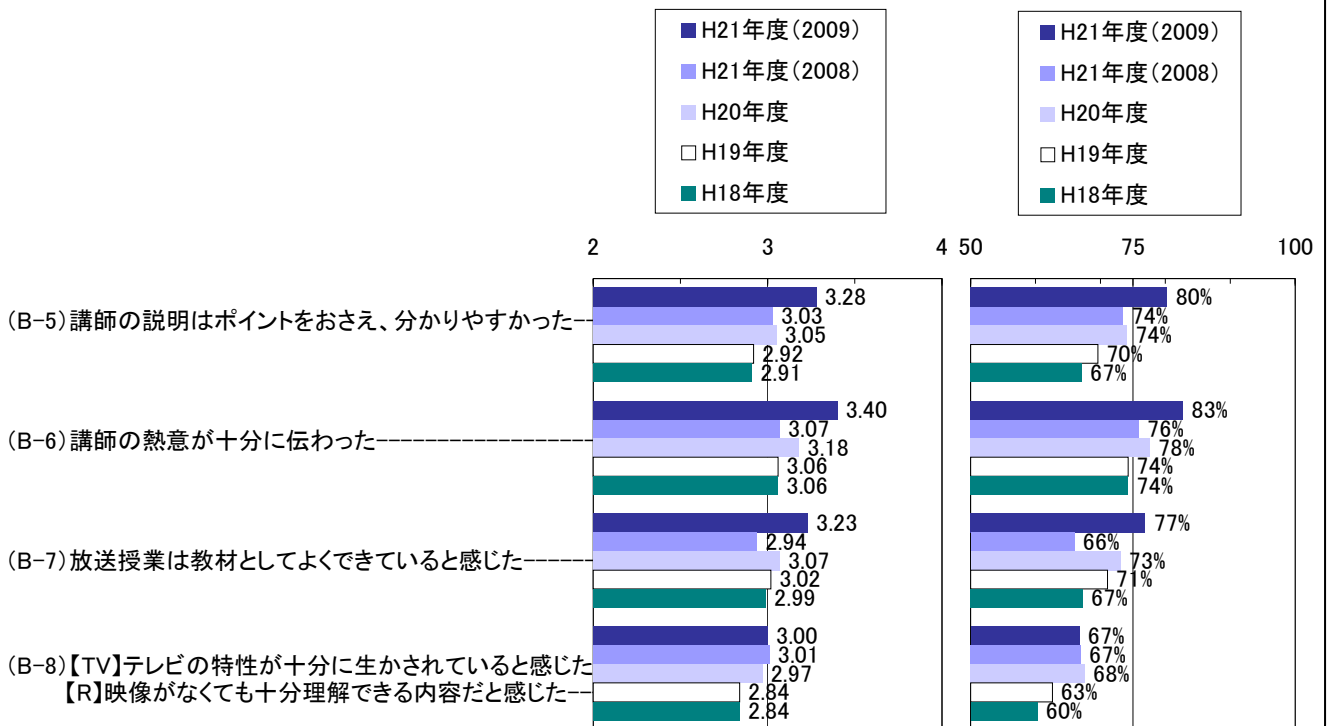
肯定的評価



ラジオ

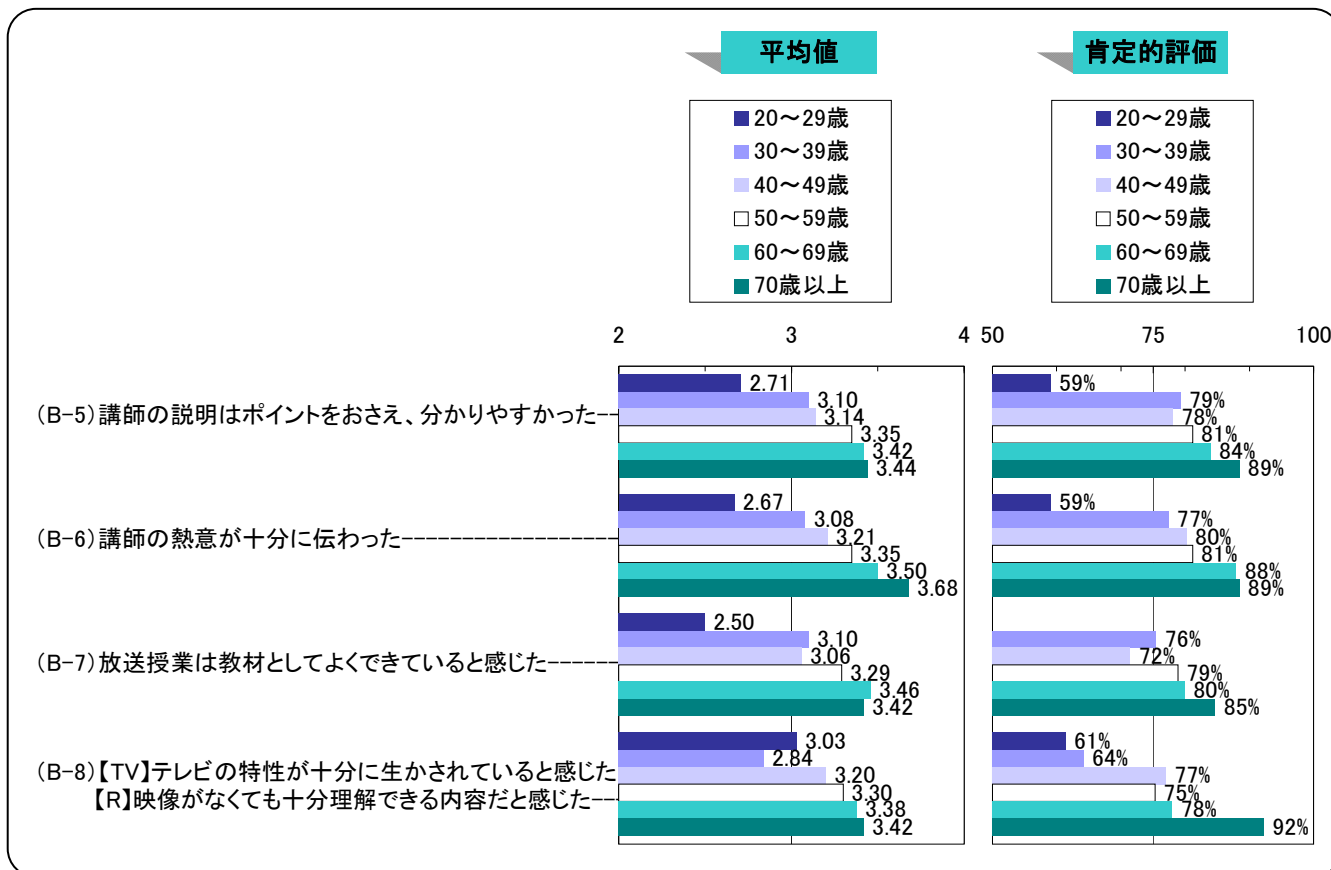
平均値

肯定的評価



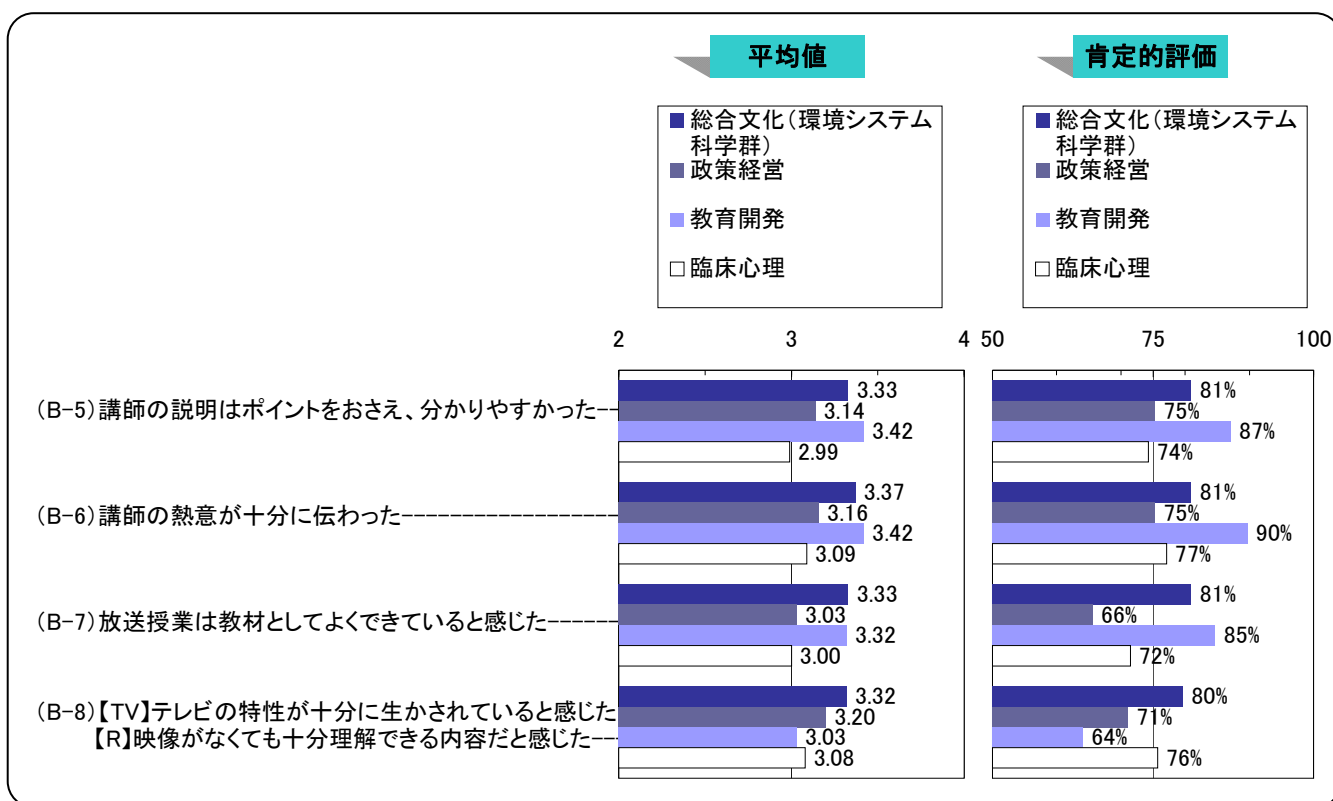
年齢階層別に放送授業の評価を見ると（図2-76）、いずれの項目も、年配層ほど評価が高くなっており、授業の難易度・分量とは違った評価構造となっている。

図2-76 【大学院】年齢階層別の放送授業の評価



所属専攻別に放送授業の評価を見ると（図2-77）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「講師の熱意が十分に伝わった」、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、「総合文化（環境システム科学群）」と「教育開発」の評価が高くなっている。なお、「教育開発」と「臨床心理」はともにラジオ科目1科目が対象となっているが、評価に大きな違いがある。「教育開発」の科目は(B-8)「【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の評価は低いものの、(B-7)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」の評価は高く、内容の難易度の高さを講師の説明や熱意でカバーしている状況が窺える。

図2-77 【大学院】所属プログラム別の放送授業の評価

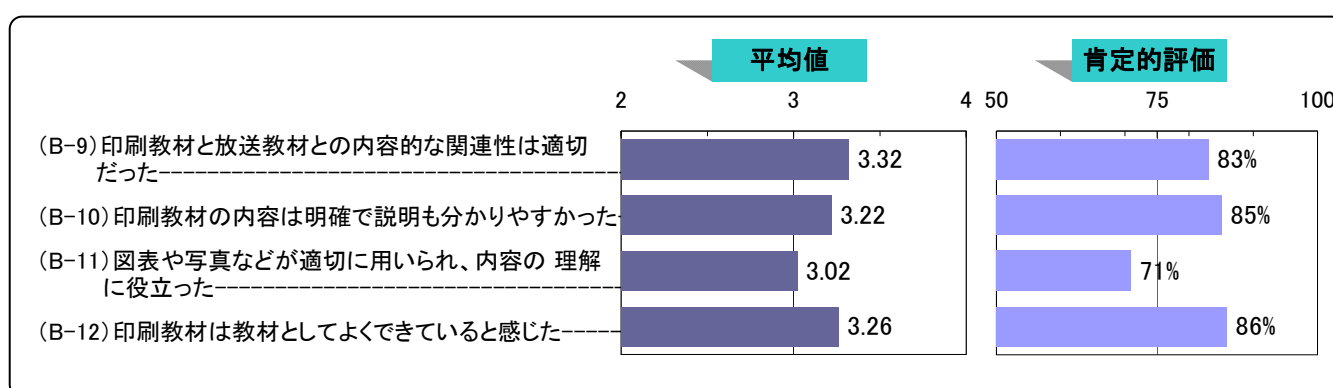


(4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

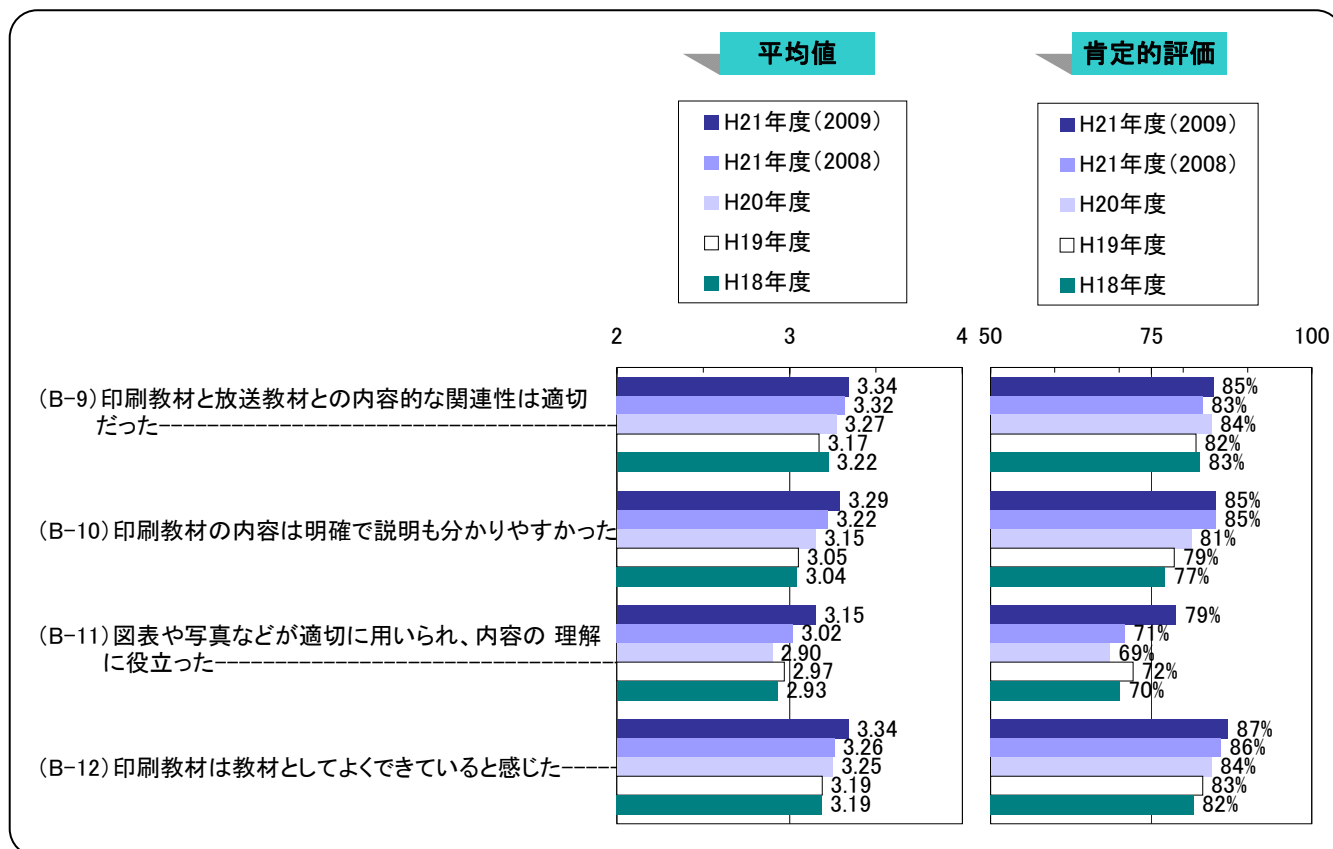
印刷教材の評価項目では（図2-78）、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、そして総合評価としての(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は高い評価を得ているものの、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は平均値 3.02、肯定的評価 71%にとどまっている。

図2-78 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価



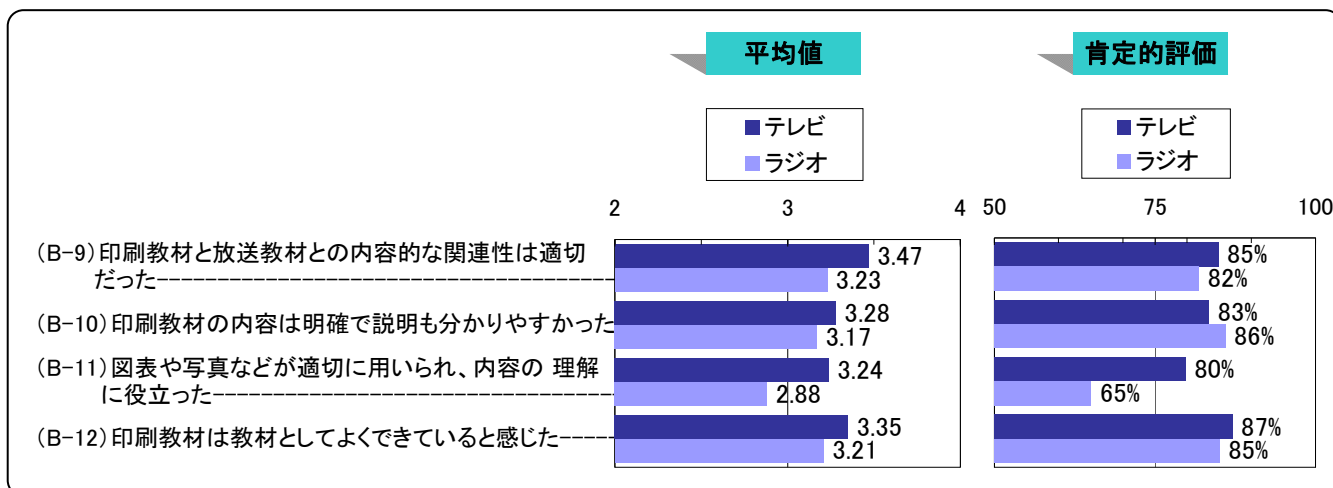
印刷教材の評価を時系列で見ると（図2-79）、いずれの項目も評価が上昇傾向にある。(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」も今年度調査(2009年新規開設科目)では、比較的评价が高くなってきている。

図2-79 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



印刷教材の評価をメディア別に見ると（図 2-80）、(B-9)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」および (B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、テレビ科目の方が、評価が高い。特に (B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」はラジオ科目の評価が低く、映像のないラジオの放送授業を補完するために、テレビ科目以上に図表や写真などを活用することが求められる。

図 2-80 【大学院】メディア別の印刷教材の評価



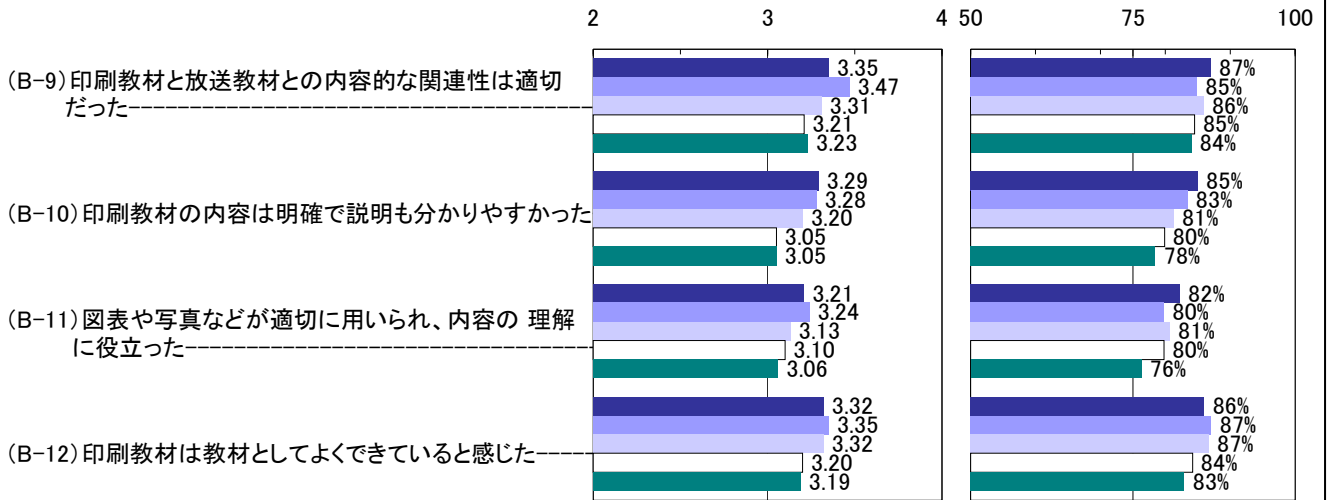
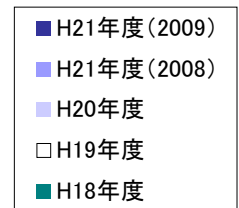
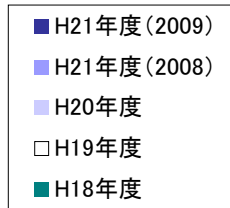
メディア別の印刷教材の評価を時系列で見ると（次頁図 2-81）、テレビ科目、ラジオ科目とも、評価は年々上昇傾向にある。特に評価の低かったラジオ科目の (B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は、今年度調査（2009 年新規開設科目）において大きく評価が上がっている。

図 2 - 8 1 【大学院】メディア別の印刷教材の評価（時系列）

テレビ

平均値

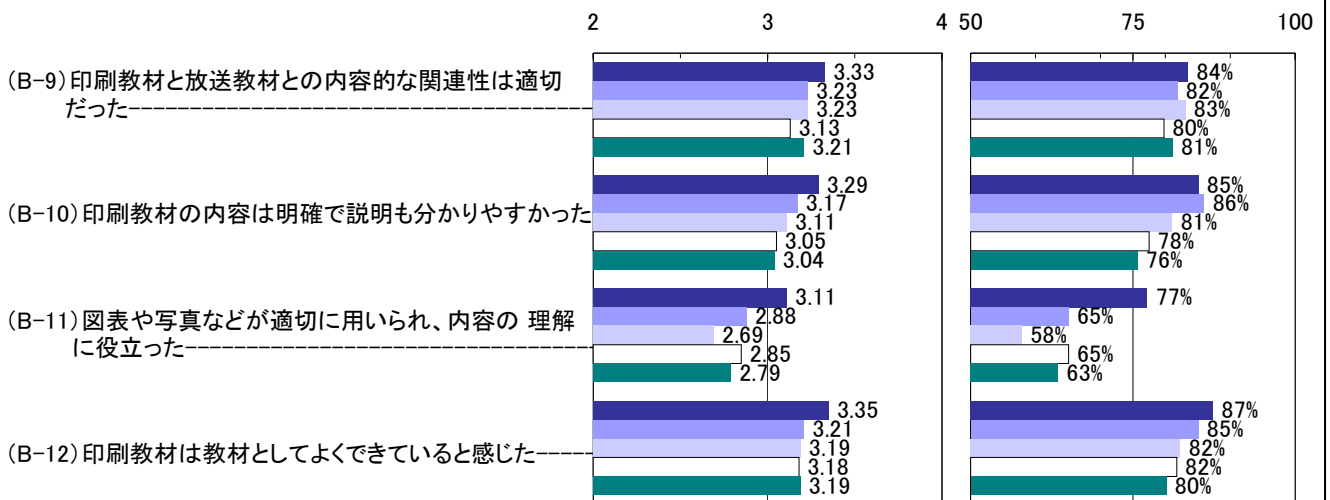
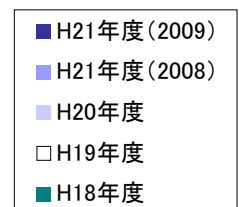
肯定的評価



ラジオ

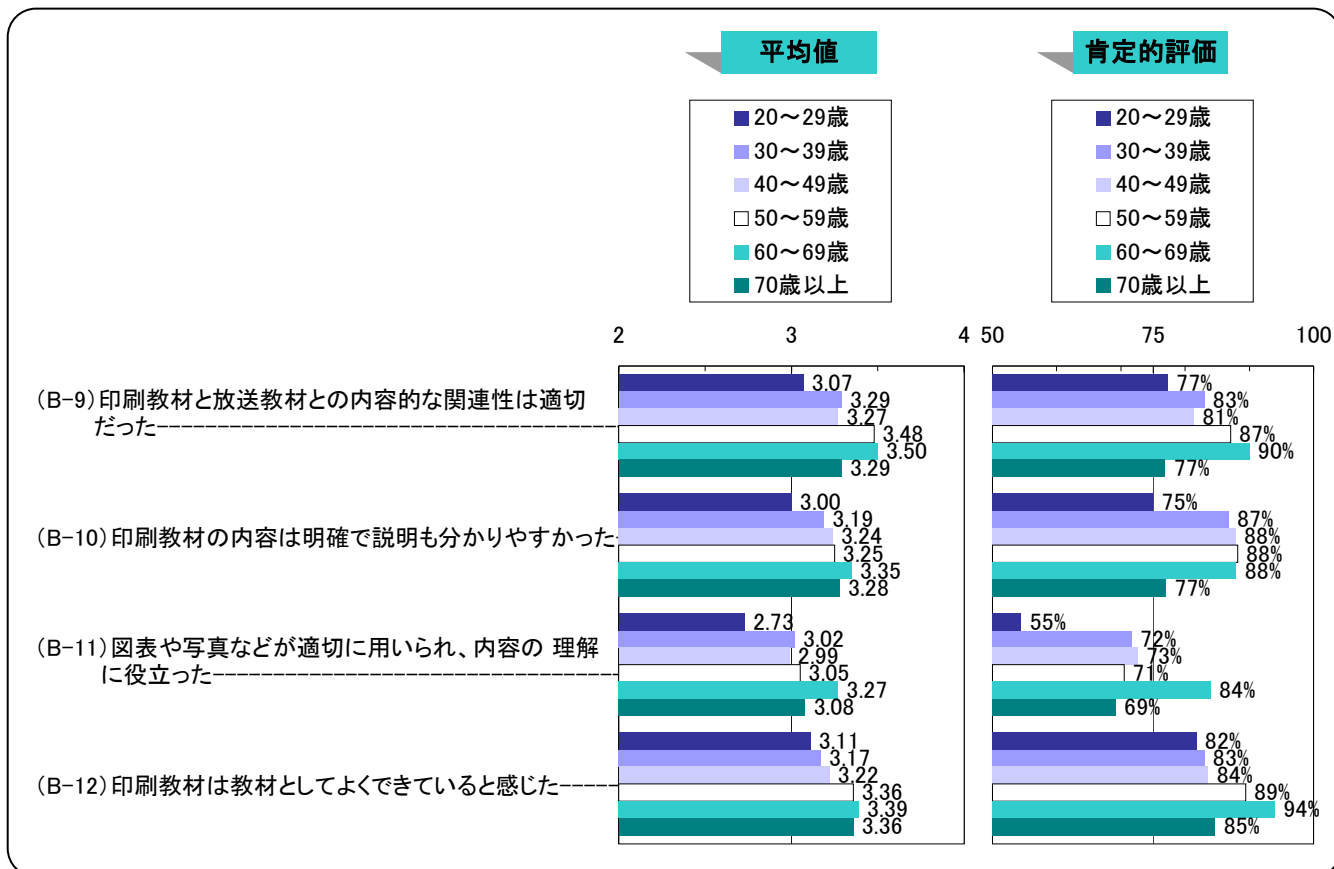
平均値

肯定的評価



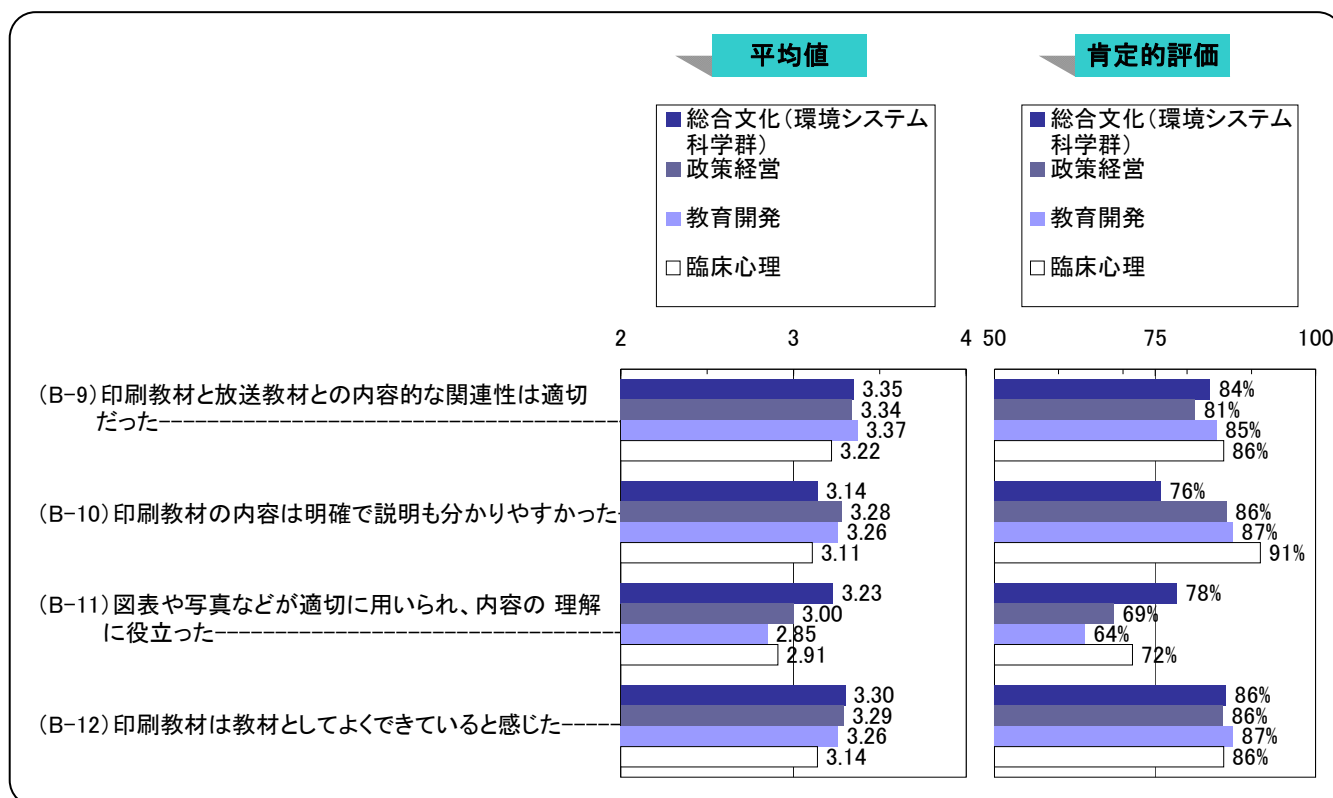
年齢階層別に印刷教材の評価を見ると（図2-82）、総合評価としての（B-12）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、50歳代～60歳代の評価が高く、若年層ほど評価が低い。またいずれの項目も20歳代の評価が低く、特に（B-11）「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は非常に低くなっている。

図2-82【大学院】年齢階層別の印刷教材の評価



所属プログラム別に印刷教材の評価を見ると(図2-83)、総合評価としての(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、いずれのプログラムも評価が高くなっている。一方、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」は、「教育開発」「政策経営」「臨床心理」の評価が低い。

図2-83 【大学院】所属プログラム別の印刷教材の評価



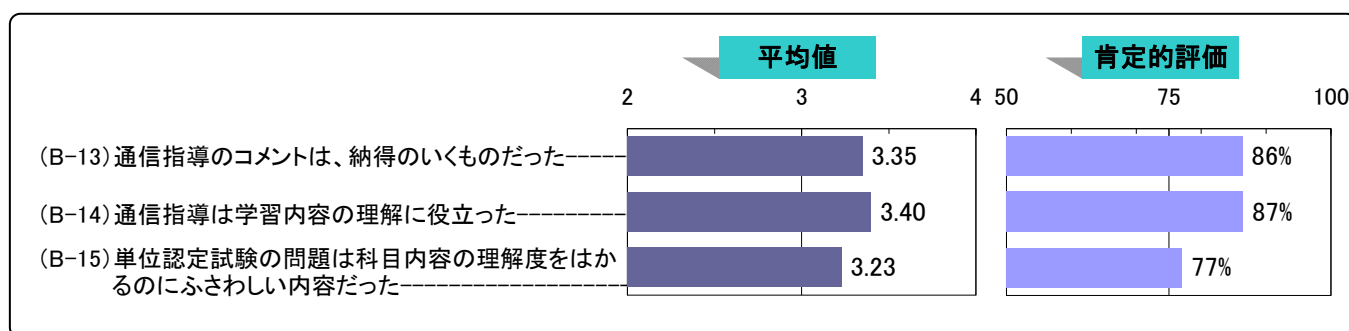
(5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について、項目ごとに見ていく。

通信指導については(図2-84)、(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が平均値 3.35、肯定的評価 86%、(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」が平均値 3.40、肯定的評価 87%と、いずれも高い評価を得ている。

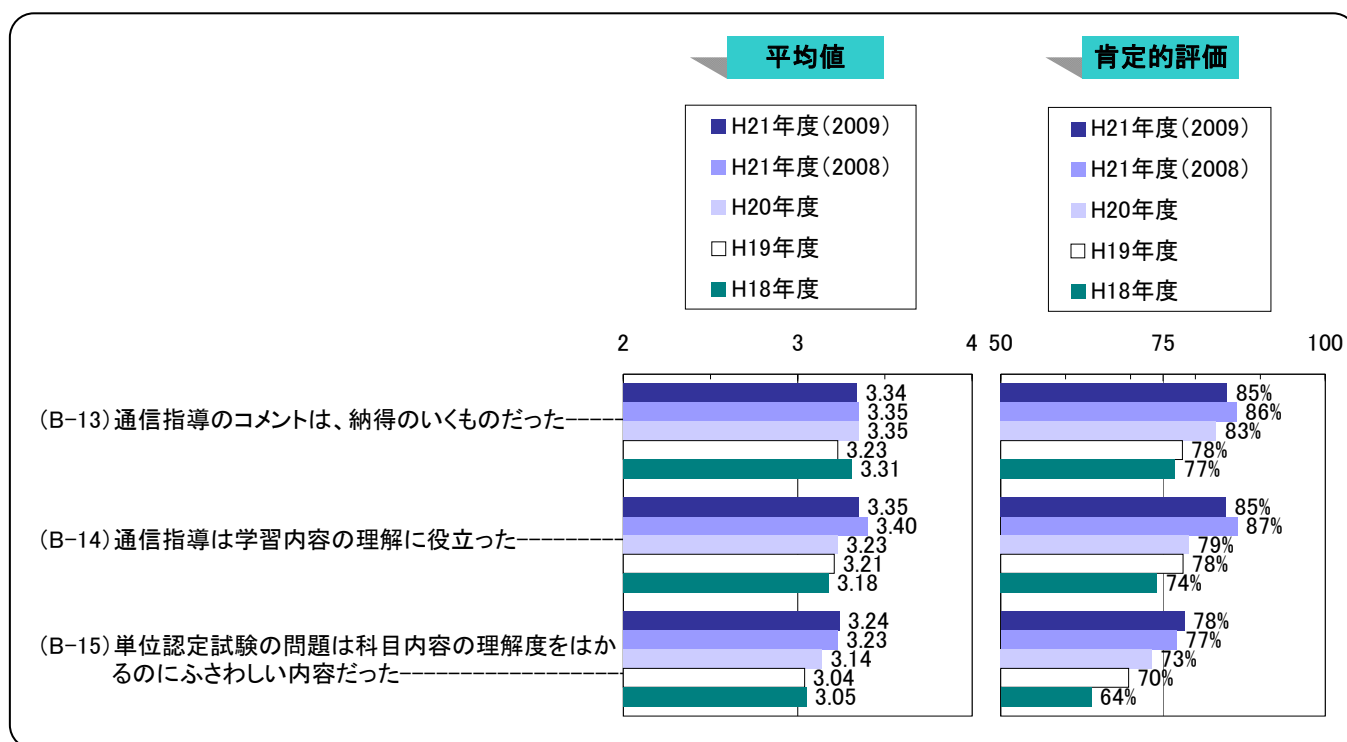
単位認定試験についても(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」の評価はますますの高さである。

図2-84 【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



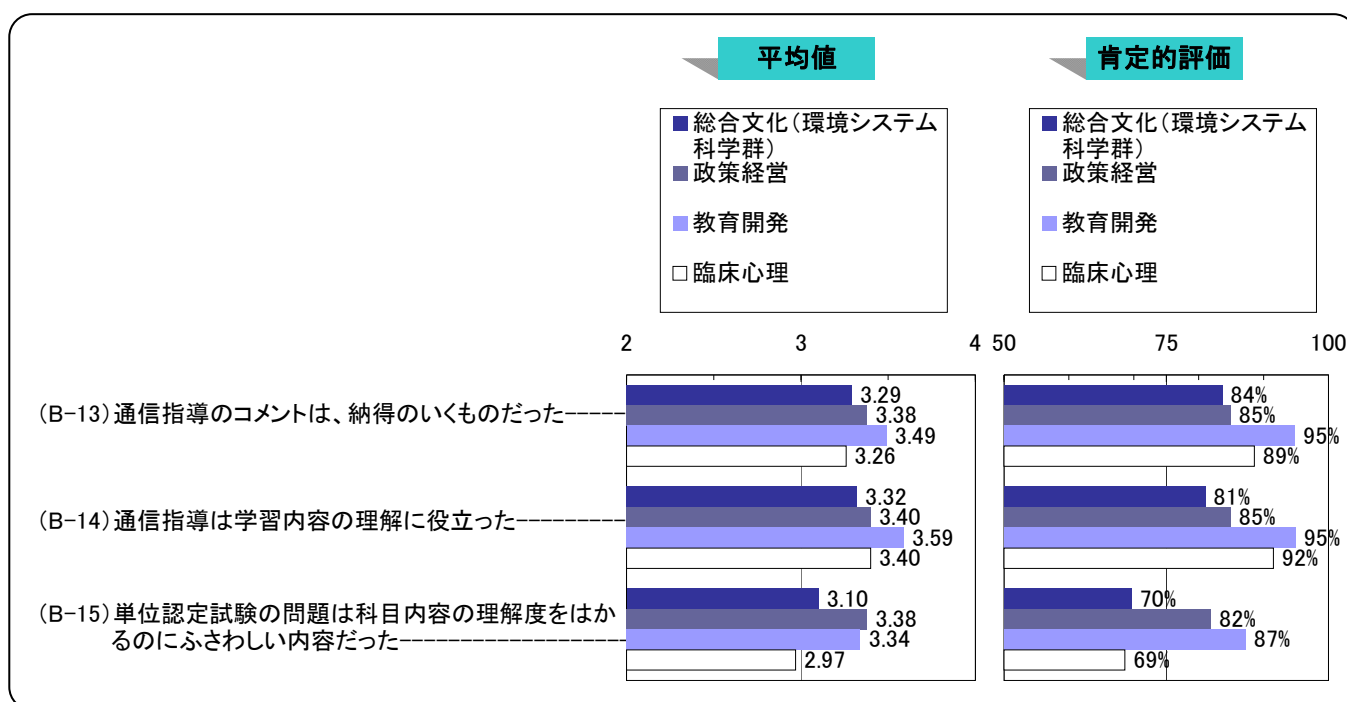
通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(次頁図2-85)、(B-13)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は、平均値ではあまり大きな変化はないものの、肯定的評価では徐々に評価が上がっている。(B-14)「通信指導は学習内容の理解に役立った」と(B-15)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は、年々評価が向上しており、改善の効果が現れていると言えよう。

図 2 - 8 5 【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価（時系列）



所属プログラム別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図 2 - 8 6）、通信指導は、いずれも「教育開発」の評価が非常に高い。単位認定試験は、「政策経営」と「教育開発」の評価が高いが、「総合文化（環境システム科学群）」と「臨床心理」の評価は低い。

図 2 - 8 6 【大学院】所属プログラム別の通信指導・単位認定試験の評価



Ⅱ－２－４．参考

ここでは、学部の場合と同様に、総合評価と各個別評価との関係を、相関係数を用いてみていく（相関係数の意味と見方については、65頁を参照されたい）。

表２－５は、放送授業の各評価項目と（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）及び（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）の相関係数である。

表 2 - 5 【大学院】放送授業と各項目との単相関係数

	(A2) 放送授業を十分に視聴した	(B7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた
(A2) 放送授業を十分に視聴した	1.000	0.515
(B1) 放送授業の難易度は適切だった	0.363	0.594
(B2) 放送授業の内容は適切な分量であった	0.415	0.640
(B5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.495	0.789
(B6) 講師の熱意が十分に伝わった	0.512	0.762
(B7) 放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.515	1.000
(B8) 【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.331	0.633

これを見ると、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）と（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）の相関係数は0.515と相関が見られる。また（A-2）「放送授業を十分に視聴した」（放送授業への取組姿勢）と放送授業の各評価項目である（B-2）「放送授業の内容は適切な分量であった」、（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」などが、相関係数0.4以上と相関が見られる。放送授業の取組姿勢のよい人は放送授業の評価がよく、逆に放送授業の評価がよいと取組姿勢もよくなることが推測される。

一方、（B-7）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」（放送授業の総合評価）と放送授業の各評価項目との相関係数はいずれも相関が見られるが、特に（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」が相関係数0.789、（B-6）「講師の熱意が十分に伝わった」が相関係数0.762と強い相関が見られる。したがって、放送授業の総合評価を高めるためには、いずれの評価項目もよく改善することが重要であるが、特に講師の説明の分かりやすさや講師の熱意が大切であると言える。

次に、印刷教材の各評価項目と、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)及び(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)の相関係数を見たのが表2-6である。

表2-6 【大学院】印刷教材と各項目との単相関係数

	(A3)印刷教材を熱心に学習した	(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた
(A3)印刷教材を熱心に学習した	1.000	0.283
(B3)印刷教材の難易度は適切だった	0.224	0.524
(B4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.248	0.544
(B9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.232	0.555
(B10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.297	0.738
(B11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.203	0.665
(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.283	1.000

これを見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」(印刷教材への取組姿勢)と印刷教材の各評価項目は、あまり相関が見られない。

一方、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」(印刷教材の総合評価)と印刷教材の各評価項目とでは相関が見られ、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は相関係数 0.738、(B-11)「図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った」が 0.665 と強い相関が見られる。そのため印刷教材の総合評価を高めるためには、いずれの評価項目もよく改善することが重要であるが、特に説明の分かりやすさと図表や写真を有効利用することが大切であると言える。

さらに(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」、(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」及び(B-20)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」と各評価項目の相関係数を見たのが次頁表2-7である。

まず、全体的な熱心度(取組姿勢)と科目の理解度、満足度との関係を見ると、熱心度は理解度と 0.406、満足度と 0.387 の相関係数であり、学部ほどではないが、熱心度と理解度・満足度との間に緩やかな相関が見て取れる。また理解度と満足度の相関係数は 0.786 と強い相関が見られ、理解度が高いと満足度も高いと言える。

表 2-7 【大学院】取組姿勢・全体評価と各項目との単相関係数

		(A1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	(B19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	(B20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)
取組姿勢	(A1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)	1.000	0.406	0.387
	(A2)放送授業を十分に視聴した	0.529	0.311	0.299
	(A3)印刷教材を熱心に学習した	0.672	0.414	0.382
授業の難易度・分量	(B1)放送授業の難易度は適切だった	0.257	0.508	0.588
	(B2)放送授業の内容は適切な分量であった	0.284	0.475	0.529
	(B3)印刷教材の難易度は適切だった	0.211	0.558	0.609
	(B4)印刷教材の内容は適切な分量であった	0.264	0.506	0.588
放送授業	(B5)講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	0.362	0.479	0.588
	(B6)講師の熱意が十分に伝わった	0.332	0.425	0.504
	(B7)放送授業は教材としてよくできていると感じた	0.273	0.426	0.556
	(B8)【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた 【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	0.214	0.365	0.478
印刷教材	(B9)印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	0.297	0.468	0.537
	(B10)印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	0.335	0.642	0.633
	(B11)図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った	0.213	0.433	0.511
	(B12)印刷教材は教材としてよくできていると感じた	0.300	0.555	0.603
通信指導・単位認定試験	(B13)通信指導のコメントは、納得のいくものだった	0.214	0.410	0.490
	(B14)通信指導は学習内容の理解に役立った	0.283	0.478	0.526
	(B15)単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった	0.280	0.504	0.574
全体評価	(B16)授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	0.258	0.512	0.600
	(B17)学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	0.403	0.651	0.743
	(B18)新しい知識が身につく視野が広がった	0.340	0.547	0.658
	(B19)この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)	0.406	1.000	0.786
	(B20)この科目の内容には全体として満足している(満足度)	0.387	0.786	1.000

(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)」と各評価項目の相関を見ると、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」が相関係数 0.672 と最も相関が強く、次いで (A-2)「放送授業を十分に視聴した」、さらに (B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」との相関が見られる。全体的な熱心度は、印刷教材や放送授業への取組姿勢、さらに授業内容が興味や関心の高まるものであったかどうか重要な要因になっていると言える。

(B-19)「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」と各評価項目の相関を見ると、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」と(B-8)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」を除いて、いずれの評価項目とも相関が見て取れる。特に(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」と強い相関が見られる。理解度は、教材の分かりやすさや授業内容が興味や関心の高まるものであったかどうかと特に関係していることが分かる。

(B-20)「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」と各評価項目の相関係数を見ると、取組姿勢以外の各評価項目と相関が見られ、いずれの評価項目も満足度に対して重要な要素なっていることが分かる。なかでも特に相関が強いのは、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」、(B-10)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(B-12)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」、(B-17)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-18)「新しい知識が身につく視野が広がった」である。満足度を高める上で、放送授業の分かりやすさ、印刷教材の難易度や分かりやすさ、興味・関心のもてる授業内容、視野が広がるような知識の習得という点が、特に重要な影響を与えていると言える。